

フランス高等教育制度の概要

—多様な高等教育機関とその課程—

高等教育研究叢書

59 1999年11月

石村雅雄 監修 松坂浩史 著



広島大学

大学教育研究センター

フランス高等教育制度の概要
—多様な高等教育機関とその課程—

Organization generale de l'enseignement superieur en France

General Organization of the French Higher Education

石村 雅雄 監修

松坂 浩史 著

前文

日本におけるフランスの高等教育制度に関する研究の陥穽

石村雅雄(京都大学)

日本において、高等教育制度を比較分析的に取り上げるとき文脈には、次の2つの方向があったと思う。1つは、当該国の高等教育制度の「特定」の機能・役割を「特定」の時代において切り取り、法的、制度的、社会的分析を加えようとするもの。もう1つは、日本の高等教育制度のある機能・役割の改善を図るため、採長補短的に当該国の制度を撮食的に、つまり、当該国の文脈を捨象して、ただ制度そのものを翻訳して、紹介しようとするものである。後者の記述は、少なくとも日本の改革にあたって参照あるいは言及されることの多い、米、英、独、仏、中については、近年においては、日本の研究者集団、あるいはその周辺部分が持つ情報量の多さから、それ単独のものとしては、少なくなりつつあるが、依然として、先にあげた各国を横並びに、かつ強引に、「共通」の枠で記述しようとしたものも散見される。しかし、これらのものは、いわば確信犯的記述であり、日本の分析に対する付録的なものとして扱われており、その意味では問題は少ないと言える。問題は、前者の研究である。「特定」の機能・役割を「特定」の時代において切り取る必然性が明らかになっていさえすれば、研究としての価値は明らかである。この点如何であろうか。自分の執筆した論文の当該学界全体における位置、すなわち、自分が責任を持って分担している領域、水準を自覚できない研究が増えていないであろうか。ただ、こうした問題は、個々の研究者だけに帰すべき問題ではなさそうである。先述した方向で言えば、後者の方向の現代的引き取り、すなわち、当該国の制度を当該国の文脈に則しながら、全体として整理し、日本語で記述するという作業が近年十分になされていないことも、独歩的研究が発生している一因ではないだろうか。ここに、現代において高等教育制度を比較分析的に取り上げる作業の陥穽がある。しかも、この陥穽は、誰もが気付きながら、誰も自らそれを埋めようとする作業を引き受けないという厄介さを持っている。

話をフランスの高等教育制度に限定して、もう少し高等教育制度を正確に整理・紹介する作業の意義について考えてみよう。実は論文を執筆するにあたっての問題設定の作業を進めるためには、学界、この場合は、日本におけるフランスの高等教育制度研究という世界が「いま」どんな状況にあるのか、その水準はどんなところにあり、何が解明され、あるいはされていないのかを確認するという面倒で、手の掛かる作業が必要となってくる。また、それに伴って、フランスの高等教育制度がたどってきた道、及び「いま」の全体の状況を正確に、つまり、できるだけ客観的にかつ実態的に、概観しておく作業も必要である。このうち、前者については幸いフランスの教育を研究する学会¹⁾が結成されて歴史を重ね、意欲的に活動をしているので、その場に参加し、これも幸い未だフランスの高等教育制度研究者はそう多くないところから、彼らと情報交換し、あるいは議論する中である程度実現可能であろう²⁾。後者の作業については、50年代前半からは相良惟一氏³⁾、原田種雄氏⁴⁾らにより担われ、60、70年代までは内藤貞氏⁵⁾、手塚武彦氏⁶⁾、吉田正晴氏⁷⁾

らによって精力的に担われた。そして一番最近では、本間政雄氏が、1988年刊のフランス教育学会会員有志による『現代フランスの教育』⁸⁾の中に集録されている「高等教育制度」によってこの作業を展開している。ところが、こうした作業は、意外にも近年難しくなっている。フランスに研究目的で渡航することも珍しくなくなり、様々なメディアでフランスの教育事情が紹介される今日では、フランスの高等教育制度の「いま」を紹介することは、もはや研究者の仕事としては認知されなくなってきている。しかし、この分野の仕事は局面はそれぞれ異なるが、次の3点から依然として重要である。第1は、日本において、フランスの高等教育制度の状況を把握しようとする場合である。確かに様々なメディアが紹介しているとはいっても、それが正確かどうかについては疑問が残る。先に「正確」を「できるだけ客観的かつ実態的」と言い換えたが、フランスに限らず、昔より多くの人がその国の教育のある部分に触れることが増えた結果、日本に紹介される文脈はより新奇なもの、日本にはないものという観点が重視され、正確な状況の把握にはむしろ害が多くなっているのではないだろうか。第2は、フランスに赴いて、状況を把握したと錯覚する場合である。自らの経験は研究を遂行する上で重要なモチベーションを提供するかもしれないが、研究の前提としての状況把握からすれば、それでは不十分なことはいうまでもない。そして第3は、フランスの高等教育制度研究という狭い世界の住人以外の者がフランスを取り上げようとする場合である。例えば、近年のヨーロッパ統合の進捗から、ヨーロッパ高等教育制度研究という切り取り方の重要性は増すばかりであり、その面から、ヨーロッパ各国の高等教育制度の状況を正確に把握しようとする者が出てくることは歓迎すべきことであるが、日本人にとって、語学的なハンディーはいかんともしがたい。確かに英語による情報の提供はあるが、情報の限定、さらには、そうした「公式」的情報を越えたところでの日本人の視点からの切り取りが重要である。ここからも、フランスの高等教育制度の「いま」を正確に整理、紹介する意味はあるのである。

先程例示的に限定した「フランスの高等教育制度」という対象の「いま」における重要性についても提示しておきたい。日本の大学は、「大学のアメリカモデルが『合わせ鏡』として主として参照され」⁹⁾発展してきた。私立大学を視野に入れ、日本の大学システム全般として考えると、学生消費者主義にせよ、大学システムへの競争原理の適用にせよ有用なことが多かったことは首肯されることである。ところが、問題が限定され、最近の国立大学をどうするのか、具体的には、国立大学を如何に外部から評価するのか、国立大学の設置形態をどうするのか、といった議論の際には、中央政府の関与が間接的であり、「公」の関わりを限定的に捉えてきた米国の在り方は、当面の議論としてはあまり参考にならない。こうした状況にあって、フランスの大学については、1985年以来、既に10年以上の歴史を持って行われている全国大学評価委員会(C.N.E.)によって行われている「第三者評価」にせよ、19世紀末の一連の改革で明確にされた国立大学への法人格の賦与¹⁰⁾及びそれ以降の管理・運営の在り方にせよ、参考にすべき点が多いことは確かである。

以上で、フランスの高等教育制度を正確に整理、紹介することの意義はご理解いただけたかと思う。さらに確認しておくべき本書の特徴は、次の2点にある。

まず第1は、フランス高等教育制度のシステム全体を見渡す視野の広さである。フランスの高等教育システムは、非常に多元的であり、高等教育制度の説明といえば大学の説明をしておけばほぼ用が足りる日本とはかなり事情を異にしている。詳細は、本文に譲るが、この多元さは、従来、先述した「特定」の時代における「特定」の機能・役割を分析する研究のスタイルにもより、な

かなかリアルに伝わらなかった。大学だけからの視点でなく、むしろその他の高等教育機関、とりわけ、これまであまり注目されることのなかった専門高等教育機関をきちんと把握していることは注目に値する。フランスの高等教育機関というと大学とグランゼコールであるといった誤った認識は本書によって本格的に払拭されるであろう。

第2は、制度の単なる紹介に留まらず、その実態を踏まえ丁寧に記述されており、特定の制度について妙な理想的な扱いをしていないことである。これは、特にバカロレアの項を見てみるとよく理解できる。そこでは、バカロレアについて、日本ではとかく、その資格試験的性格が強調されて、点数が云々されることがないようにいわれていることへの警鐘が鳴らされ、あるいは、既に中等教育段階から将来の進路を想定して、選択的になっている学校の現状が語られ、それに応じてバカロレアがあることが理解できるようになっている。

この種の作業が今後も続けられること、そして筆者の松坂氏が、こうした視野の広さを基盤として研究をさらに深化されることを祈って、本書の序文としたい。

註

- 1 1982年発足のフランス教育学会及び日仏教育学会の2学会があり、それぞれ、『フランス教育学会紀要』『日仏教育学会年報』を年1回発行するなど意欲的に活動を行っている。
- 2 小林順子編『21世紀を展望するフランス教育改革－1989年教育基本法の論理と展開－』東信堂、1997年を参照されることも薦めたい。
- 3 相良惟一「フランスの大学について」『大学資料』第1巻、1955年など。
- 4 原田種雄「フランスの大学(上)(下)」『大学基準協会会報』第26号及び27号、1955年及び1956年など。
- 5 長谷川善一、内藤貞「フランス」『欧米における大学改革Ⅲ』文部省大臣官房調査課、1969年及び内藤貞「フランスにおける学生の懲戒問題」『学校経営』第14巻、第5号、1969年など。
- 6 手塚武彦「フランスの新しい大学」『大学資料』第35巻、1970年、「フランスにおける入試制度の特色」『教育学研究』第42巻第4号、1975年、「フランスにおける大学院について」『特別研究大学院の研究 その1』国立教育研究所、1978年、「フランスの大学」『学校の歴史』第4巻、第一法規、1979年など。
- 7 吉田正晴「フランス高等教育における改革の動向と問題点」『レファレンス』165号、1964年10月。「フランス大学改革と学生参加の問題」『福井大学教育学部紀要』第23号、第IV部教育学、1973年など。
- 8 原田種雄、手塚武彦、吉田正晴、桑原敏明編『現代フランスの教育』早稲田大学出版部、1988年。
- 9 江原武一「高等教育改革の方向性」『比較教育学研究』第24号、東信堂、1998年、51頁。
- 10 正確には、19世紀末の一連の大学改革で公施設法人としての法的設置形態を確認され、1920年7月31日付デクレで法令上全体として再確認されたとするのが妥当であろう。

はしがき

フランスにおいては、「グランゼコール」と呼ばれる数少ない専門高等教育機関の卒業生が、政治経済から学術の世界まで幅広く重要な地位を占めています。そして、その背景には、フランス社会に広がる強い学歴思想があり、「フランスは、日本以上の学歴社会である」ともいわれる要因ともなっています。

大革命以前のフランス社会においては、本人の能力よりも血筋や縁故が重要視されており、「血縁主義・血統主義」の社会でした。これに対する概念として大革命後、本人の能力を重視する「能力主義・競争主義」、すなわち、激しい競争を勝ち抜いてきたものには、その過程で脱落したものよりも高い能力が備わっているという考え方が生まれてきました。

現代のフランス社会においても、どのレベルの教育を受けたか、すなわちバカロレア取得者（バシエリ）かどうか、高等教育をどこまで受けているか、第一課程（DEUG）までか、リサンスまでか、メトリーズまでか、第三課程までか、など非常に細かい学歴区分があり、それらによって就職や昇任、給料などにいろいろな差が生じています。同じレベルの学歴を有する場合でも、理工系やビジネス系の専門高等教育機関を卒業した場合には、「どの学校を出ているか」いわゆる学校歴が大きな違いとなって現れてきます。しかも、その格差は学校を卒業する時点に有効であるばかりでなく、一生を通じて拡大するように作用するといわれています。ここには、学歴取得の過程を一種の競争と考え、その過程を勝ち抜いてきたものに、高い能力を認めるというフランスの競争主義の基本思想が現れています。

このような競争主義社会の中で、ひととき高い能力を有していると考えられる、すなわち、最も厳しい競争をくぐり抜けたとされる一群の学生が学ぶ学校という意味において、「グランゼコール」といわれるものが存在しています。フランスの大企業、例えばフランステレコムや SNCF（フランス国鉄）、EDF（フランス電力）、エールフランスなどは、グランゼコールの卒業生がこぞって第一志望とするような大企業ですが、これらの企業では入社希望者を数段階、多いときには十数段階のグループに分けて選考しており、当然その第一のグループに入るのは数校の「グランゼコール」卒業生だけです。このグループは将来の管理職候補として採用されることになる、というよりも「管理職として」採用され、給料も各グループによって（さらに激しい場合には学校により）大きく異なっています。

このような教育を取り巻く社会的状況が、大学とは異なる高等教育機関として、各種の専門高等教育機関において「グランゼコール」を頂点とする序列を固定化しているといわれてもいます。しかし、現在でもこのような「グランゼコール」が社会的エリート養成機関として、教育の世界のみならず社会に強い影響力を有しているのです。

本稿は、慶應義塾大学文学部講師の小林亮氏と、このようなエリート養成システムを有するフランスの高等教育制度が形成する人格というものを議論していく中で、そもそもフランスの高等教育自体の複雑で多様な制度自体がテーマとして現れてきたところからまとめたものです。それと同時に、小生が国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）本部で職業

技術教育担当官として勤務する中で、フランスにおける職業と教育の関係の思想が日本におけるそれと著しく異なるものであり、教育から職業（The World of Work）へと入っていく段階には、常に実学的な職業教育（または技術教育）があり、そのことが非常に重視されていることに対する関心もまた大きな動機となっています。

本稿を執筆するにあたっては、京都大学高等教育教授システム開発センター助教授の石村雅雄氏には御多忙の中で細部にもわたる御示唆をいただくばかりか、貴重な前文を賜ることとなりました。まず、このことに感謝の意を示したいと思います。また、広島大学大学教育研究センター助教授の米澤彰純氏には、氏の経済協力開発機構（OECD）勤務時代も含め多くの御指導をいただき、東北大学アドミッションセンター助教授の夏目達也氏には、特に中等教育レベルの職業教育について貴重な助言をいただきました。

さらに、フランスにおいては、本稿に限らずフランス社会全般について国立教育研究所企画調整部長（前パリ国際大学都市日本館館長）の相良憲昭氏に多方面かつ多大な御教示を賜り、内閣中央省庁等改革推進本部事務局企画官（前ユネスコ常駐日本政府代表部一等書記官）の義本博司氏、文化庁文化政策室長（前在フランス日本大使館一等書記官）の今里讓氏、ユネスコ常駐日本政府代表部一等書記官の町田大輔氏をはじめ多くの方々に御指導いただきました。

最後に、フランス教育学術省の Françoise BONNIOT-GILLAUMIN 氏及びパリ鉱山技師学校（Mines de Paris）の卒業生でもある Christophe DESHAYES 氏には、フランス社会におけるグランゼコールの位置づけや企業社会におけるグランゼコールの現状などの点につき多くの御示唆をいただきました。フランス社会で活躍するこれらの方々の御協力がなければ、現実に即したものはならなかったと思われます。

本稿には、これらの皆様の絶大なる御教示と御指導があり、それらの方々への深い感謝の意を表すとともに、資料収集等に松坂永吏子の協力があつたことを付言して、はしがきとさせていただきます。

平成11年（1999年）7月1日

松坂浩史

文部省高等教育局私学部私学行政課法規係長

（前国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）本部教育局職業技術教育担当官）

目次

前文

はしがき

第一章 高等教育制度及び機関の概要	1
第二章 大学及び大学に付属する高等教育機関	11
一. 大学 (UNIVERSITE)	13
1 第一課程 (PREMIER CYCLE)	18
(1) 一般教養教育 (DEUG) 課程	19
(2) 職業技術教育 (DEUST) 課程	20
2 第二課程 (DEUXIEME CYCLE)	21
(1) リサンス (LICENCE)	21
(2) メトリーズ (MAITRISE)	22
(3) 専門メトリーズ (MST, MSG, MIAGE)	22
(4) マジステール (MAGISTERE)	23
3 第三課程 (TROISIEME CYCLE)	23
(1) DEA (DIPLOME D'ETUDES APPROFONDIES)	24
(2) DESS (DIPLOME D'ETUDES SUPERIEURES SPECIALISEES)	24
(3) DRT (DIPLOME DE RECHERCHE TECHNOLOGIQUE)	24
(4) DOCTORAT	24
4 大学独自の修了証・ディプロム (DIPLOME UNIVERSITAIRE)	25
5 医歯薬系教育課程	25
(1) 医学教育課程	25
(2) 歯学教育課程	26
(3) 薬学教育課程	27
二. 大学付属職業技術専門高等教育課程 (IUP)	28
INSTITUT UNIVERSITAIRE PROFESSIONNEL	
三. 教員養成センター (IUFM)	31
INSTITUT UNIVERSITAIRE DE FORMATION DES MAITRES	

(1) 初等教育教員資格 (CAPE)	33
(2) 中等教育教員資格 (CAPES)	33
(3) 保健体育教育教員資格 (CAPEPS)	35
(4) 職業技術教育教員資格 (CAPET)	35
(5) 職業リセ教員資格 (CAPLP2)	36
(6) 学習及び進路指導担当教員資格 (CPE)	37
(7) 私立学校中等教育教員資格 (CAFEP)	38
(8) アグレジェ教員資格 (AGREGATION)	38
(9) 農業リセ一般教育教員資格 (CAPESA)	
／農業リセ職業技術教育教員資格 (CAPETA)	40
第三章 短期の職業技術高等教育機関	41
一. 概要	43
二. 大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT)	44
INSTITUT UNIVERSITAIRE DE TECHNOLOGIE	
三. リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)	47
SECTION DE TECHNICIENS SUPERIEURS	
第四章 専門高等教育機関	49
一. グランゼコール (GRANDES ECOLES)	52
(1) 理工系グランゼコール	53
(2) ビジネス系グランゼコール	55
(3) 高等師範学校 (ECOLE NORMALE SUPERIEURE)	55
二. グランゼコール準備課程 (CPGE)	57
CLASS PREPARATOIRE DES GRANDES ECOLES	
1 理工系グランゼコール準備課程	57
(1) 数学課程	57
(2) 農業化学課程	62
(3) 獣医師学校進学課程	62
(4) 技術教育課程	63
(5) その他の理工系課程	64
2 ビジネス系グランゼコール準備課程	65
(1) 理数課程	65
(2) 経済課程	66
(3) 技術課程	66

(4) 高等師範学校カシャン校経済及び社会科学コース進学課程	67
3 人文及び社会科学系グランゼコール準備課程	67
(1) 高等師範学校人文コース進学課程	68
(2) 政治学院進学特別課程	70
(3) 高等師範学校ウルム／セーブル校社会科学コース進学課程	71
(4) 陸軍士官学校人文コース進学課程	71
(5) 国立古文書学校進学課程	72
(6) 高等師範学校カシャン校進学課程	72
三. 理工系専門高等教育機関 (ECOLES D'INGENIEUR)	74
1 理工系専門高等教育機関の分類	75
(1) タイプ A : 理工系グランゼコール準備課程を経て入学する三年課程	76
(2) タイプ B : 大学等 (DEUG, DUT, BTS) を経て入学する三年課程	76
(3) タイプ C : バカロレア取得後入学する五年間一貫課程	77
(4) タイプ D : 新エンジニア教育課程 (三年または五年) (NFI)	78
2 マステール・スペシャリゼ (MASTERE SPECIALISE)	79
四. ビジネス系専門高等教育機関 (ECOLES DE COMMERCE)	81
1 ビジネス系専門高等教育機関の分類	81
(1) バカロレア取得直後に入学する課程	83
(2) ビジネス系グランゼコール準備課程を経て入学する三年課程	84
(3) 大学 (DEUG) 等を経て入学する三年課程	86
2 マステール・スペシャリゼ (MASTERE SPECIALISE)	86
3 その他の教育課程	87
五. 高等師範学校 (ENS, ECOLE NORMALE SUPERIEURE)	88
(1) ウルム／セーブル校	89
(2) フォントネー／サン・クルー校	90
(3) リヨン校	90
(4) カシャン校	91
六. 政治学院 (IEP, INSTITUT D'ETUDES POLITEQUES)	93
(1) パリ政治学院	94
(2) 地方政治学院	96
七. 建築学校 (ECOLE D'ARCHITECTURE)	102
八. 獣医師学校 (ENV, ECOLE NATIONALE VETERINAIRE)	104
九. 医療周辺領域系専門高等教育機関	106
(1) 助産婦	106

(2) 看護婦	106
(3) マッサージ及び運動療法士	107
(4) 作業療法士	107
(5) 放射線医療機器作業技師	108
(6) その他の医療周辺領域系専門高等教育機関	108
十. 芸術系専門高等教育機関	109
(1) 美術分野	109
(2) 工芸分野	110
(3) 音楽・舞踏分野	111
(4) 舞台芸術分野	112
(5) 美学美術史・文化財分野	113
(6) 音声映像技術分野	114
(7) その他の芸術系専門高等教育機関	114
十一. 公務員養成機関	116
1 一般行政関係	117
2 専門行政関係	119
(1) 統計分析分野	120
(2) 財政租税分野	121
(3) 裁判所及び司法分野	122
(4) その他	123
3 軍関係	124
(1) 陸軍関係	124
(2) 海軍関係	125
(3) 空軍関係	126
(4) 憲兵隊関係	126
(5) 武器等補給団	127
(6) 国防省高等衛生学校	127
4 警察関係	127
十二. その他の専門高等教育機関	129
第五章 バカロレア試験と中等教育	131
一. コレージュ (COLLEGE)	134
二. リセ (LYCEE) とバカロレア (BACCALAUREATS)	136
(1) バカロレアとは	136
(2) バカロレアとリセの関係	137

(3) バカロレアの種類とその全体概要	139
三. バカロレア種類別の概要	142
1 普通バカロレア	142
(1) 人文科学系普通バカロレア (BAC L)	143
(2) 社会科学系普通バカロレア (BAC ES)	143
(3) 自然科学系普通バカロレア (BAC S)	144
2 技術バカロレア	144
(1) 工業系技術バカロレア (BAC STI)	146
(2) 化学系技術バカロレア (BAC STL)	147
(3) サービス産業系技術バカロレア (BAC STT)	147
(4) 医療系技術バカロレア (BAC SMS)	147
(5) 農業系技術バカロレア (BAC STPA/STAE)	148
(6) ホテル業系技術バカロレア (BAC HOTELLERIE)	148
(7) 音楽舞踏・芸術デザイン系技術バカロレア (BAC TMD/AA)	149
3 職業バカロレア	149
 参考文献	 151

第一章 高等教育制度及び機関の概要

フランス教育学術省（MINISTERE DE L'EDUCATION NATIONALE, DE LA RECHER
CHE ET DE LA TECHNOLOGIE, MENRT）によれば，フランス全土で 216 万人が高等教
育機関に在籍しており，このうち 134 万人（62.0%）が大学に，残りが大学以外の高等教
育機関に在籍している。

日本においては一般にフランスの高等教育制度について，「その特徴として大学以外に
グランゼコールの存在がある。」といわれるが，これらの二つの制度以外にも様々な教育
課程や機関が設けられ，相互に複雑に絡み合って高等教育制度全体を形成している。前述
の資料によれば，フランスの高等教育機関（課程）は大きく長期課程（二年を超えるもの）
と短期課程（二年以下のもの）に分類されており，さらに長期課程は，大学及び大学に付
属する高等教育機関，それら以外の国公立の高等教育機関，私立の高等教育機関（商
工会議所等の設置するものを含む）の三種類に分類されている。

表 1-1：高等教育機関の分類

長期課程	大学及び大学に付属する機関	大学本体（第一課程，第二課程，第三課程） 職業技術専門高等教育課程（IUP） 教員養成センター（IUFM）
	専門高等教育機関	理工系専門高等教育機関 ビジネス系専門高等教育機関 高等師範学校（ENS） 政治学院（IEP） 建築学校（ECOLE D'ARCHITECTURE） 獣医師学校（ENV） 医療周辺領域系専門高等教育機関 芸術系専門高等教育機関 公務員養成機関
短期課程	大学に付属する機関	職業技術教育短期大学課程（IUT）
	主にリセに付属する機関	高級技術者養成短期高等教育課程（STS） グランゼコール準備課程（CPGE）

一 長期課程

長期課程とは，教育課程の期間が二年間を超える高等教育機関であり，大学及び大学
に付属する高等教育機関と専門高等教育機関がある。

大学及び大学に付属する高等教育機関としては，大学本体の第一課程，第二課程，第
三課程と，一年間の高等教育を受けたものが入学する三年間の職業技術教育課程である
IUP，教員養成センターである IUFM などが代表的なものとして挙げられている。

専門高等教育機関としては，理工系機関やビジネス系機関の他，様々な教育機関がお
かれている。その設立形態としては国公立と私立があり，国立機関の場合には，教育学
術省が所管するもののみならず，各省庁が所管するものもある。教育学術省所管のもの
としては高等師範学校（ENS）やパリ政治学院（IEP，パリ以外の政治学院は大学付属

の機関)、中央理工科学校 (ECOLE CENTRALE) などが、その他の省庁が所管するものとしては、国立行政学院 (ENA, 首相府) や陸軍理工科学校 (ECOLE POLYTECHNIQUE, 国防省)、文化省が所管する芸術系専門高等教育機関及び建築学校などがある。さらに、私立の専門高等教育機関としては、ビジネス系専門高等教育機関の高等商業学院 (HEC) やパリ高等商業学院 (ESCP)、各種の理工系専門高等教育機関、カトリック高等教育学院 (INSTITUTS CATHOLIQUES) などある。

一 短期課程

短期課程とは、二年間以下の教育課程の期間を設定している高等教育機関であり、大学に付属して設置されている二年間の職業技術教育課程である IUT, リセ (高等学校) に付属して設置されている二年間の職業技術教育課程である STS, 主にリセに付属して設置されている「グランゼコール」への進学準備課程である CPGE などがある。

但し、これらの教育課程の期間や大学との関係を基準にした分類は、必ずしもすべてを明確に分類することはできず、それぞれの制度が複雑に絡み合っただけで高等教育制度全体を構成している。例えば、大学本体の第一課程は、修了後第二課程以降へ進学するという前提から長期課程とされるが、大学第一課程の修了率は入学者の約 60% であり、結果的に学生からみれば短期高等教育となることもある。また、短期の高等教育機関であるグランゼコール準備課程 (CPGE) は、課程自体は短期 (主に二年間) であるが、修了後には各専門高等教育機関へと進学することになるため、長期の高等教育の一部であるということが出来る。さらに制度的には短期の職業技術教育課程である大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) は、約 60% 以上の卒業生が何らかの形で大学第二課程や専門高等教育機関に進学しており、長期課程の一部と考えることもできるが、制度の設立趣旨などから短期課程に含むものとされている。

以上のことを踏まえて、主に教育機関における教育内容や機関が設置された趣旨などから、フランスの高等教育機関を以下のように分類し、それぞれの教育制度及び機関についてその詳細をみることにする。

(なお、一般に「グランゼコール」といわれるものについては、ここでは理工系、ビジネス系及びその他の専門高等教育機関の中に含まれるものとしている。「グランゼコール」の定義及び詳細については、「第四章 一. グランゼコール」の項を参照されたい。)

大学及び大学に付属する高等教育機関

一 大学 (UNIVERSITE)

大学 (UNIVERSITE) はフランス全土 (海外県及び海外領土を含む) で 81 校 (1996/97 年度, 以下同じ) が設置されており、すべて国立である。大学本体には、フランスの高等教育全体 216 万人のうち 134 万人 (62.0%) が在籍しており、理

論的学術的な大学院博士課程から、企業実習を含む実践的な短期課程まで、非常に多岐にわたる教育課程が用意されている。大学における教育内容は、社会科学系、人文科学系から自然科学系、医歯薬系教育まですべての領域にわたっている。

(また同時に、大学は大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT)、大学付属職業技術専門高等教育課程 (IUP)、教員養成センター (IUFM) などそれぞれ専門的な職業技術教育を行う付属の教育機関が設置される高等教育の中核的な機関となっている。)

なお、これらの国立大学以外に、「大学」を称するいくつかの高等教育機関が存在しているが、フランスにおいては「大学 (UNIVERSITE)」の名称につき占有規定があり、上記の国立大学以外は法律上の大学とはいえないこととなっている。これらの「大学」としては、キリスト教系の高等教育機関としてパリ・カトリック大学や近年パリ近郊に設立されたレオナルド・ダ・ヴィンチ大学など新興のものがあるが、あくまで一種の専門高等教育機関であり、大学ではないと考えられる。(これらの名称はフランス語では、INSTITUT UNIVERSITAIREなどと表記されている。)

－大学付属職業技術専門高等教育課程 (IUP)

大学付属職業技術専門高等教育課程 (IUP) は大学に付属して設置されている三年間一貫の職業技術教育課程であり、大学等の第一学年修了後の学生を対象とする。卒業時には大学における四年間の教育修了時と同様の学位 (メトリーズ、上級学士または修士) が与えられ、さらに理工系専門高等教育機関で授与されるエンジニア学位に準じる学位 (INGENIEUR MAITRE, エンジニア・メトル学位) を取得することができる。統計上は、大学本体の学生数に含まれる。

－教員養成センター (IUFM)

教員養成センター (IUFM) は、各大学区 (アカデミー) に一カ所ずつ設置されており、フランス全土 (海外県及び海外領土を含む) で 28 機関がある。初等中等教育教員養成のための専門機関であり、大学の第三学年修了後 (リサンス) の学生を対象としている。二年間の課程のうち、一年目は教員資格試験の準備を行い、二年目には試補教員として学校現場での実地研修を行う。学生数は約 86,000 人 (4.0%, 1996/97 年度) となっている。

短期の職業技術高等教育機関

－大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT)

大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) は、大学に付属して設置されている二年間の職業技術教育課程で、フランス全土 (海外県及び海外領土を含む) に 94 校がおかれている。本来、卒業後に実社会に出ることを目的として設置されたものであるが、現在では卒業後に卒業生の約 60% が大学第二課程や理工系高等専

門教育機関へと進学している。学生数は約 109,000 人 (5.0%, 1996/97 年度) となっている。

－高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)

高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) は、高等学校 (リセ) に付属して設置されている二年間の職業技術教育課程で、フランス全土 (海外県及び海外領土を含む) に 1,947 校がおかれている。上の IUT と同レベルの高等教育を行っていると言われるが、IUT に比較して、より狭い領域での専門的な教育課程となっている。卒業後は、就職をする学生が多い。学生数は約 236,000 人 (10.9%, 1996/97 年度) となっている。

専門高等教育機関

－グランゼコール準備課程 (CPGE)

グランゼコール準備課程 (CPGE) は、理工系ビジネス系または高等師範学校などの専門高等教育機関に進学する準備をするために、主に高等学校 (リセ) に付属して設置されている二年間の課程であり、フランス全土 (海外県及び海外領土を含む) に 490 校がおかれている。設置主体は、国公立が約三分の二、私立が約三分の一となっている。主に普通バカロレア取得者の成績優秀者が進学するとされており、理工系、ビジネス系及び人文社会科学系の各課程がある。学生数は約 79,000 人 (3.7%, 1996/97 年度) となっている。

－理工系専門高等教育機関

理工系専門高等教育機関とは、エンジニアを養成することを目的としている専門高等教育機関で、フランス全土 (海外県及び海外領土を含む) に 238 校がおかれている。設置主体別では、大学に付属するものが 92 校、大学に付属しない国立のものが 78 校、私立が 68 校となっている。上のグランゼコール準備課程を経て進学する三年間の課程が一般的であるが、バカロレア取得後に直接入学できる五年制のものもある。また、新エンジニア課程と呼ばれる、主に企業等での実習を中心とする教育機関もある。学生数は、付属して設置されている準備課程在籍者 (2,500 人) を含み、約 79,000 人 (3.7%, 1996/97 年度) となっている。

－ビジネス系専門高等教育機関

ビジネス系専門高等教育機関は、企業における管理職を養成することを目的とするもので、上のグランゼコール準備過程を経て進学する三年間の課程が一般的であるが、バカロレア取得後に直接入学できる、三年制から五年制のものもある。フランス全土 (海外県及び海外領土を含む) に 233 校がおかれており、一校を除いて、すべてが私立 (商工会議所等が設立するものも含む。) である。学生数は約 47,000 人 (2.2%, 1996/97 年度) となっている。

－その他の専門高等教育機関

以上のような高等教育機関の他に、主に高等教育における教員や研究者を養成する高等師範学校（ENS）や、社会科学系の政治学院（IEP），獣医師学校（ENV），建築学校，芸術系学校，看護婦学校などの専門高等教育機関がある。これら各教育機関の合計で，学生数は約 159,000 人（7.4%，1996/97 年度）となっている。

表 1-2：フランス高等教育機関別在籍者

	在籍人数 (人)	比率 (%)
大学及び大学に付属する高等教育機関		
大学（UNIVERSITE）（職業技術専門高等教育課程 IUP を含む）	1,335,997	62.0%
教員養成センター（IUFM）	85,885	4.0%
短期の職業技術高等教育機関		
大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）	108,587	5.0%
高級技術者養成短期高等教育課程（STS）	235,843	10.9%
専門高等教育機関		
グランゼコール準備課程（CPGE）	78,839	3.7%
理工系専門高等教育機関（ECOLE D'INGENIEURE）	79,286	3.7%
ビジネス系専門高等教育機関（ECOLE DE COMMERCE）	47,293	2.2%
その他の専門高等教育機関 （高等師範学校，政治学院，医療周辺領域系教育機関等）	159,381	7.4%
合計	2,155,950	100.0%

注：理工系専門高等教育機関の在籍人数には，表 1-3 の「理工系専門高等教育機関付属の準備課程」に在籍する学生数 2,445 人を含んでいる。

表 1-3 : 高等教育機関別学生数推移

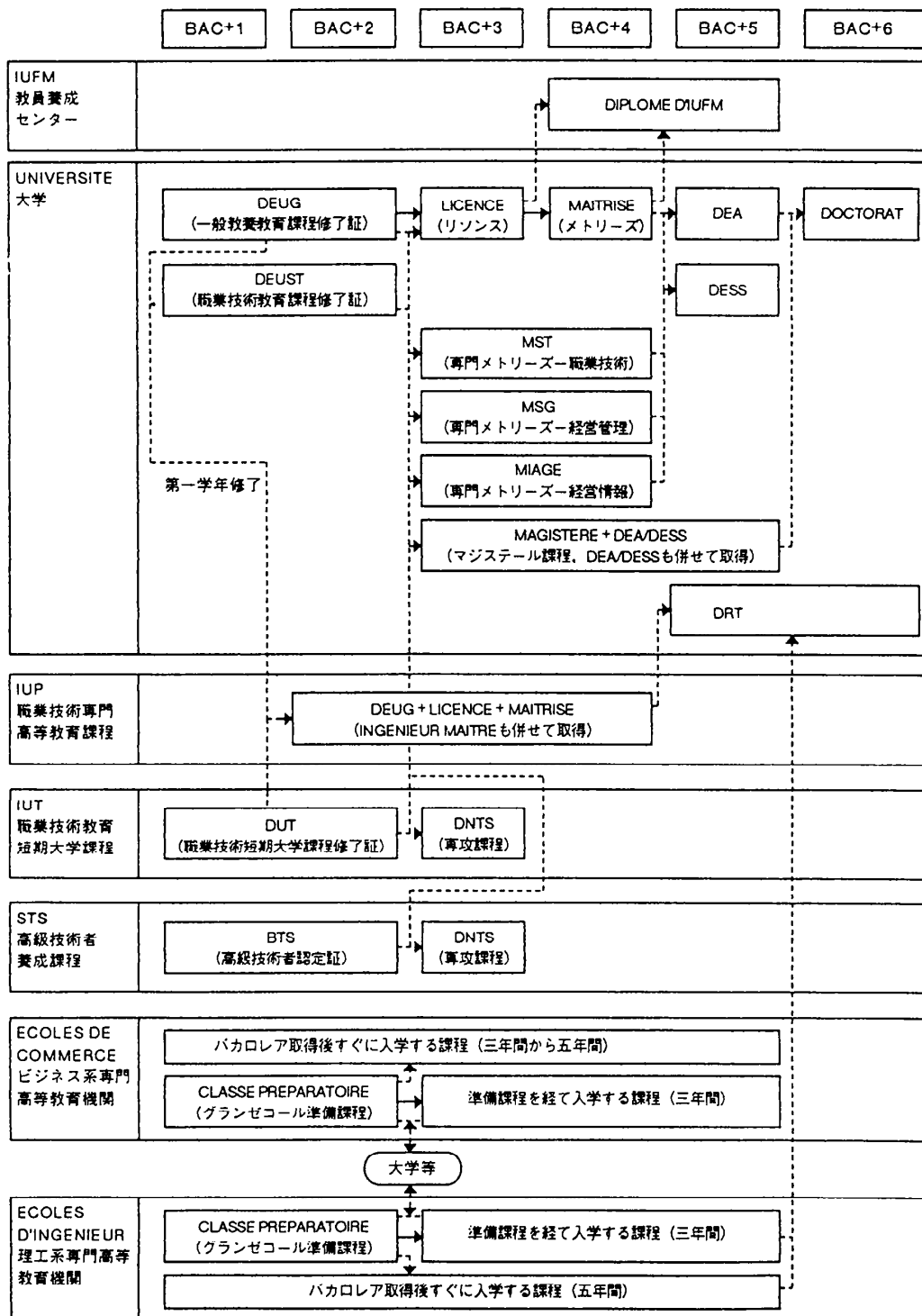
	80/81	85/86	94/95	95/96	96/97
大学及び大学付属の機関 (含 IUP)	796,088	883,257	1,330,188	1,358,305	1,335,997
- 法律					191,940
- 経済・社会科学					156,116
- 文学・人文科学					522,887
- 理工・体育					316,948
- 医療系					147,000
IUFM (教員養成センター)	-	-	82,966	86,068	85,885
IUT (職業技術教育短期大学課程)	53,667	61,905	98,620	103,092	108,587
STS (高級技術者養成短期高等教育課程)	67,908	118,832	232,675	230,239	235,843
- うち国公立	43,697	68,077	159,423	161,913	166,041
- うち私立	24,211	50,755	73,252	68,326	69,802
CPGE (グランゼコール準備課程)	40,123	47,334	71,553	76,417	78,839
- うち国公立	35,429	39,904	59,099	63,533	65,091
- うち私立	4,694	7,430	12,454	12,884	13,748
理工系専門高等教育機関付属の準備課程	2,788	2,790	2,151	2,209	2,445
理工系専門高等教育機関	36,952	45,365	73,803	75,640	76,841
- うち大学付属の機関	8,330	12,424	23,257	24,186	24,839
- うち大学付属以外の国立機関 (教育学術省所管の機関)	20,132	22,616	32,085	32,765	33,009
(その他の省庁所管の機関)	12,005	13,425	19,100	19,650	19,807
- うち上記以外の私立機関	8,127	9,191	12,985	13,115	13,202
- うち上記以外の私立機関	8,490	10,325	18,461	18,689	18,993
ビジネス系専門高等教育機関	15,824	26,628	54,595	50,668	47,293
- 教育学術省認定学位授与機関	9,879	14,242	28,004	28,342	30,175
- 教育学術省認定機関	3,057	2,617	8,792	8,357	5,404
- 未認定機関	2,888	9,769	17,799	13,969	11,714
大学に準じる各種教育機関	16,256	18,435	21,867	22,129	22,327
師範学校・中等教員養成センター	12,923	18,450	-	-	-
高等師範学校 (ENS)	2,840	2,705	2,970	3,051	3,065
建築学校	17,000	14,900	18,620	18,988	18,787
芸術系専門高等教育機関	15,320	18,370	30,886	31,308	28,473
医療周辺領域系専門高等教育機関	74,006	61,844	68,135	69,518	69,262
社会福祉系専門高等教育機関	17,735	16,945	15,912	16,911	17,041
その他の高等教育機関	11,678	20,291	28,753	24,992	25,265
- うち公務員養成機関	6,653	6,805	7,186	6,705	6,918
- うちジャーナリズム・文芸系学校	680	2,230	2,653	2,444	2,494
- うち獣医師学校	1,932	2,372	1,968	1,985	2,080
合計	1,181,108	1,368,243	2,133,694	2,169,535	2,155,950

注： フランスにおいては、専門高等教育機関に在籍しながら同時に大学にも在籍することが認められているため、学生数には重複がある。

「大学及び大学付属の機関」在籍者数には、大学に付属する理工系専門高等教育機関在籍者数を含まない。また、ビジネス系専門高等教育機関では「教育学術省認定学位授与機関」はすべて「教育学術省認定機関」ともなっており、表の「教育学術省認定機関」の学生数には「教育学術省認定学位授与機関」の学生を含まないものとなっている。

次図は主な高等教育機関間における接続状況を示したものであるが、これら以外にも様々なケースが考えられ、次図に示したものが全てではない。例えば、大学において DEUG を取得した後に、IUT に設置されている一年課程に編入することや、大学第二課程学位（リサンス・メトリーズ）取得後に専門高等教育機関に入学するなど一般的に行われているところである。

図 1-1：フランス高等教育機関間の接続状況



第二章 大学及び大学に付属する高等教育機関

一．大学（UNIVERSITE）

大学はフランス全土(海外県及び海外領土を含む)で 81 校がおかれており、また、1996/97 年度時点でフランスの高等教育機関全体に在籍する 216 万人のうち 134 万人（62%）が大学本体に在籍していることから、大学は高等教育の中核的機関であるといえることができる。フランスにおいて、「大学」とはすべて国立大学となっている。

なお、これらの国立大学以外に、「大学」を称するいくつかの高等教育機関が存在しているが、フランスにおいては「大学（UNIVERSITE）」の名称につき法律上の占有規定があり、上記の国立大学以外は法律上の大学とはいえないこととなっている。（但し、歴史的経緯等により大学を名乗ることが黙認されているのが実情である。）これらの「大学」としては、キリスト教系の高等教育機関としてパリ・カトリック大学や近年パリ近郊に設立されたレオナルド・ダ・ヴィンチ大学など新興のものがあるが、あくまで一種の専門高等教育機関であり、一般に厳密な意味での「大学」とは異なるものと考えられている。（これらの名称はフランス語では、INSTITUT UNIVERSITAIRE などと表記されている。）したがって、日本において大学の約四分の三を占めるような「私立大学」というべきものは存在していないと考えられる。

大学においては、理論的学術的な大学院博士課程から、企業実習を含む実践的な短期課程まで、非常に多岐にわたる教育課程が用意されており、医歯薬学教育も大学において行われている。また同時に、IUT, IUP, IUFM, IPAG, IAE などそれぞれ専門的な職業技術教育を行う付属の教育機関も設置されている。また、大学では国により認められた学位以外に、大学独自の教育課程修了証（DU, DIPLOME UNIVERSITAIRE）を出すことも認められている。さらに、大学と他の専門高等教育機関が連携して教育課程を組み、主に専門高等教育機関で教育を行い、学位は大学が認定するというようなことも行われている。

大学への入学には、原則として入学試験等の選考を行わず、バカロレア取得者であれば入学登録によって自動的に入学することができることとされている。但し、特に理工系課程に入学する場合には、自然科学系の普通バカロレアまたは専門分野に応じた技術バカロレアが必要である等の専門分野による制限と、大学の入学定員による制限は行われている。これらの制限では、アカデミー（大学区）内の居住者が優先され、あわせて入学登録の先着順などで行うことが一般的である。多くの入学希望者が集まるパリ市内の大学では、毎年この時期になると入学登録書類を受け取るための長い行列が見られるものである。入学希望者は、七月中に大学事務局で配布される入学登録書類を記載提出することが必要であり、七月末のバカロレア試験の結果発表により入学を許可されることとなる。

アカデミー（大学区、ACADEMY）とは、フランスの教育行政上の区分で、フランス全土を 26 大学区（海外県・海外領土を含めると 28 大学区）に分割したものである。教育以外の行政においては、海外県及び海外領土を除いたものを、22 の行政区に分割しており、これらの行政区のことを「REGION」（地域圏・地方）と呼んでいる。さらに各地方は二

から八の「DEPARTEMENT」（県）に分けられている。一方、教育行政においては、概ねこれと同様の地方区分を行っているが、以下の三地方ではさらに細かい地域区分を行っている。

表 2-1 : 行政区 (地域圏・地方) とアカデミー (大学区) で異なる地域区分を行っているもの

REGION (地域圏・地方)	ACADEMY (アカデミー・大学区)
プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方 PROVENCE-ALPES-COTE D'AZUR	エクス・マルセイユ大学区 (AIX MARSELLE) ニース大学区 (NICE)
ローヌ・アルプ地方 RHONE-ALPES	リヨン大学区 (LYON) グルノーブル大学区 (GRENOBLE)
イル・ド・フランス地方 ILE-DE-FRANCE	パリ大学区 (PARIS) クレティユ大学区 (CRETEIL) ヴェルサイユ大学区 (VERSAILLES)

表 2-2 : アカデミー別設置大学一覧

大学区 (アカデミー)	大学名	フランス語正式名称
AIX-MARSEILLE (エクス・マルセイユ)	エクス・マルセイユ第一大学	UNIVERSITE DE PROVENCE AIX-MARSEILLE I
	エクス・マルセイユ第二大学	UNIVERSITE DE LA MEDITERRANEE AIX-MARSEILLE II
	エクス・マルセイユ第三大学	UNIVERSITE D'AIX-MARSEILLE III
	アヴィニオン大学	UNIVERSITE D'AVIGNON ET DES PAYS DU VAUCLUSE
AMIENS (アミアン)	アミアン大学	UNIVERSITE DE PICARDIE JULES VERNE AMIENS
BESANCON (ブザンソン)	ブザンソン大学	UNIVERSITE DE FRANCHE-COMTE BESANCON
BORDEAUX (ボルドー)	ボルドー第一大学	UNIVERSITE PAUL BROCA BORDEAUX I
	ボルドー第二大学	UNIVERSITE VICTOR SEGALEN BORDEAUX II
	ボルドー第三大学	UNIVERSITE MICHEL DE MONTAIGNE BORDEAUX III
	ボルドー第四大学	UNIVERSITE MONTESQUIEU BORDEAUX IV
	ポー大学	UNIVERSITE DE PAU ET DES PAYS DE L'ADOUR
CAEN (カーン)	カーン大学	UNIVERSITE DE CAEN
CLERMONT-FERRAND (クレルモン・フェラン)	クレルモン・フェラン第一大学	UNIVERSITE D'Auvergne CLERMONT-FERRAND I
	クレルモン・フェラン第二大学	UNIVERSITE BAISE PASCAL CLERMONT-FERRAND II
CORSE (コルシカ)	コルシカ大学	UNIVERSITE PASCAL PAOLI CORTE
CRETEIL (クレティユ) (パリ近郊西部)	パリ第八大学	UNIVERSITE PARIS VIII
	パリ第十二大学	UNIVERSITE PARIS XII VAL-DE-MARNE

	パリ第十三大学 マルヌ・ラ・ヴァレ大学	UNIVERSITE PARIS-NORD PARIS XIII UNIVERSITE DE MARNE-LA-VALLEE
DIJON (ディジョン)	ディジョン大学	UNIVERSITE DE BOURGOGNE DIJON
GRENOBLE (グルノーブル)	サボワ大学 グルノーブル第一大学 グルノーブル第二大学 グルノーブル第三大学	UNIVERSITE DE SAVOIE UNIVERSITE JOSEPH FOURNIER GRENOBLE I UNIVERSITE PIERRE MENDES FRANCE GRENOBLE II UNIVERSITE STENDHAL GRENOBLE III
LILLE (リール)	リール第一大学 リール第二大学 リール第三大学 ヴァレンシエンヌ大学 リトラル大学 アルトワ大学	UNIVERSITE PAUL LANGEVIN LILLE I UNIVERSITE LILLE II UNIVERSITE CHARLES DE GAULLE LILLE III UNIVERSITE DE VALENCIENNES ET DU HAINAUT-CAMBRESIS UNIVERSITE DU LITTORAL UNIVERSITE D'ARTOIS
LIMOGES (リモージュ)	リモージュ大学	UNIVERSITE DE LIMOGES
LYON (リヨン)	リヨン第一大学 リヨン第二大学 リヨン第三大学 サン・テチエンヌ大学	UNIVERSITE CLAUDE BERNARD LYON I UNIVERSITE LOUIS LUMIERE LYON II UNIVERSITE JEAN MOULIN LYON III UNIVERSITE DE SAINT-ETIENNE JEAN MONNET
MONTPELLIER (モンペリエ)	モンペリエ第一大学 モンペリエ第二大学 モンペリエ第三大学 ベルピニャン大学	MONTPELLIER I UNIVERSITE DU LANGUEDOC MONTPELLIER II UNIVERSITE PAUL VALERY MONTPELLIER III UNIVERSITE DE PERPIGNAN
NANCY-METZ (ナンシー・メッス)	ナンシー第一大学 ナンシー第二大学 メッス大学	UNIVERSITE HENRI POICARE NANCY I UNIVERSITE NANCY II UNIVERSITE DE METZ
NANTES (ナント)	アンジェ大学 ル・マン大学 ナント大学	UNIVERSITE D'ANGERS UNIVERSITE DU MAINE LE MANS UNIVERSITE DE NANTES
NICE (ニース)	ニース大学 トゥーロン大学	UNIVERSITE DE NICE UNIVERSITE DE TOULON ET DU VAR
ORLEANS-TOURS (オルレアン・トゥール)	オルレアン大学 トゥール大学	UNIVERSITE D'ORLEANS UNIVERSITE FRANCOIS RABELAIS TOURS

PARIS (パリ)	パリ第一大学	UNIVERSITE PANTHEON-SORBONNE PARIS I
	パリ第二大学	UNIVERSITE PANTHEON-ASSAS PARIS II
	パリ第三大学	UNIVERSITE SORBONNE-NOUVELLE PARIS III
	パリ第四大学	UNIVERSITE PARIS-SORBONNE PARIS IV
	パリ第五大学	UNIVERSITE RENE DESCARTES PARIS V
	パリ第六大学	UNIVERSITE PIERRE ET MARIE CURIE PARIS VI
	パリ第七大学	UNIVERSITE DENIS DIDEROT PARIS VII
	パリ第九大学	UNIVERSITE DAUPHINE PARIS IX
	POITIERS (ポワティエ)	ラ・ロシェル大学
ポワティエ大学		UNIVERSITE DE POITIERS
REIMS (ランス)	ランス大学	UNIVERSITE DE REIMS CHAMPAGNE- ARDENNES
RENNES (レンヌ)	ブレスト大学	UNIVERSITE DE BRETAGNE OCCIDENTALE
	南ブルターニュ大学	UNIVERSITE DE BRETAGNE SUD
	レンヌ第一大学	UNIVERSITE RENNES I
	レンヌ第二大学	UNIVERSITE DE HAUTE BRETAGNE RENNES II
ROUEN (ルーアン)	ルーアン大学	UNIVERSITE DE ROUEN HAUTE- NORMANDIE
	ル・アーブル大学	UNIVERSITE DU HARVE
STRASBOURG (ストラスブール)	オウ・アルザス大学	UNIVERSITE DE HAUTE ALSACE
	ストラスブール第一大学	UNIVERSITE LOUIS PASTEUR STRASBOURG I
	ストラスブール第二大学	UNIVERSITE STRASBOURG II
	ストラスブール第三大学	UNIVERSITE ROBERTSCHUMAN STRASBOURG III
TOULOUSE (トゥールーズ)	トゥールーズ第一大学	UNIVERSITE TOULOUSE I
	トゥールーズ第二大学	UNIVERSITE TOULOUSE II
	トゥールーズ第三大学	UNIVERSITE PAUL SABATIER TOULOUSE III
VERSAILLES (ヴェルサイユ) (パリ近郊東部)	シェルジー・ポントワーズ大学	UNIVERSITE DE CERGY-PONTOISE
	イブリー・ヴァル・デソンヌ大 学	UNIVERSITE D'EVRY VAL D'ESSONNE
	パリ第十大学	UNIVERSITE PARIS-NANTERRE PARIS X
	パリ第十一大学 ヴェルサイユ大学	UNIVERSITE PARIS-SUD PARIS XI UNIVERSITE DE VERSAILLES SAINT- QUENTIN-EN-YVELINES

フランス本土以外のアカデミー（海外県，DOM）

GUADELOUPE-GUYANE （アンティューユ・ギヤヌ）	アンティューユ・ギヤヌ大学	UNIVERSITE DES ANTILLES ET DE LA GUYANE
LA REUNION （レ・ユニオン）	レユニオン大学	UNIVERSITE DE LA REUNION

それ以外の地域（海外領土，TOM）

TERRITOIRES D'OUTRE-MER - PACIFIC （パシフィック）	パシフィック大学	UNIVERSITE FRANCAISE DU PACIFIQUE
--	----------	-----------------------------------

注：この大学区（アカデミー）はアカデミー・フランセーズ（ACADEMY FRANCAIS）の「アカデミー」と混同されることがあるが、後者は学術団体を意味しており、上記の大学区とは意味が異なる。ちなみに、アカデミー・フランセーズとは、フランス学士院（INSTITUT DE FRANCE）を構成する五つの学術団体（アカデミー）の一つで、フランス語の保存を目的としているものである。（あとの四つの学術団体は、歴史アカデミー、（自然）科学アカデミー、人文及び社会科学アカデミーと芸術アカデミー）

これらの各大学の平均在籍学生数は約 18,200 人であるが、学生数は大学により大きく異なっており、最も多くの学生が在籍するのはパリ第一大学で 36,300 人、逆に最も少ない大学はパシフィック大学で 2,600 人となっている。

フランスの大学制度を日本のそれと比較して考えると、まず、日本においては一般に大学学部は四年間の連続した教育課程であり、大学院は修士課程二年間、博士課程は三年間となっている（医学部等を除く）。一方、フランスにおいては、大学を「第一課程」（PREMIER CYCLE, 二年間）、「第二課程」（DEUXIEME CYCLE, 二年間）「第三課程」（TROISIEME CYCLE, 四年間以上）という形で、時間軸によって大きく三つの課程に分類することが一般的であり、「大学院」という形での区別はなされていない（医歯薬系の学部についてはこれと異なる取り扱いがなされているので後述する）。

日本の大学制度と照らし合わせると、「第一課程」が学部前期のいわゆる教養課程にあたり、「第二課程」が学部後期いわゆる専門課程に、「第三課程」が大学院に相当すると考えることができる。ここで特徴的なことは、それぞれの課程修了時に（第二課程、第三課程ではさらにそれぞれの一年目修了時にも）学位または修了証が授与されることである。さらに第一課程の一年目修了が、三年制の職業技術専門教育課程（IUP）入学への要件となっていることなどを考えると、一年ごとに区切りがあると考えられることも可能である。

一般的には、大学の第一課程（二年間）を修了することにより、DEUG（ドゥグ）という修了証が、同様に大学の第二課程（二年間）の一年目の課程を修了することにより LICENCE（リサンス）という学位が、二年目の課程を修了することにより MAITRISE（メトリーズ）という学位が授与されることとなっている。これらの学位または修了証を取得するためには、それぞれの課程修了時（一般的に六月であるが、九月に二回目の試験（追

試)を受ける機会が与えられている。)に行われる筆記試験及び口頭試問に合格しなければならず、これらの試験における学生の態度や知識の評価に関しては、1984年に定められた法律によって大学委員会(CEVU, CONSEIL DES ETUDES ET DE LA VIE UNIVERSITAIRE)の通知に従い、大学の学長または各教育機関の長は明確にしなければならないとされている。

1 第一課程 (PREMIER CYCLE)

フランスでは大学入学後の最初の二年間の課程を「第一課程」(PREMIER CYCLE)と呼んでおり、フランス全土の在籍者数(1996/97年度)は約660,000人となっている。この第一課程には、毎年約250,000人が入学しているが、最終的に第二課程へ進める比率(第一課程修了証取得率)(1995/96年度)は58.8%となっており、入学した中で40%を超える学生が学業不振や経済的な理由等で修了証を取得できずに、大学を去っている。この課程では三年間の在籍しか認められていないが、二年間で修了証を取得できたのはわずか入学者の28.4%となっており、この課程の平均在学期間は2.7カ月となっている。(但し、各種の特例により四年間の在籍を認められることもある。)

この第一課程修了証取得率は、取得したバカロレア種類によって大きな差があり、普通バカロレアを取得して入学している者の66.3%が取得しているのに対して、技術バカロレアでは24.4%、職業バカロレアではわずか12.3%となっている。また、普通バカロレア取得者の間でも修了証取得率に大きな差があり、法律分野を例に取れば、自然科学系普通バカロレア(BAC S)取得者が最も高く87.3%、次いで人文科学系(BAC L)72.7%、社会科学系(BACES)68.8%となっており、技術バカロレア取得者はわずか20.7%となっている。大学第一課程を修了できない場合には、短期の職業技術教育機関(IUT/STS)などに再入学して職業技術を取得するか、あるいはそのまま社会に出ることになる。

表2-3: 専攻分野別大学入学者数・第一課程修了率(1997/98年度)

専攻分野	入学者数	比率	第一課程 修了率
大学	215,847	44.8%	55.5%
- 法律 (DROIT)	30,353	6.3%	47.9%
- 経済 (SCIENCES ECONOMIQUE, AES)	26,017	5.4%	55.7%
- 文学・人文科学 (LETTRES, SCIENCES HUMAINES)	84,615	17.5%	55.6%
- 理工・体育 (SCIENCES, STAPS)	56,370	11.7%	60.2%
- 医療系 (SANTE)	18,790	3.9%	-
大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT)	40,861	8.5%	-
リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)	91,623	19.0%	-
グランゼコール準備課程 (CPGE)	36,299	7.5%	-
合計 (バカロレア取得者 481,798 人の 79.8%)	384,630	100.0%	-

この第一課程は、主に一般教養科目を履修し第二課程への進学を目指す一般教養教育課程（DEUG, DIPLOME D'ETUDES UNIVERSITAIRES GENERALES）と、それぞれの職業のために必要な専門的な知識を取得することを目的とした職業技術教育課程（DEUST, DIPLOME D'ETUDES UNIVERSITAIRES SCIENCES ET TECHNIQUES）の二つが並存している。二年間の課程を修了し、これらの学位を取得した学生の数は、DEUGが130,784人、DEUSTが1,606人（どちらも1995年）となっており、大学における第一課程は大部分がDEUG課程となっていると考えることができる。

(1) 一般教養教育（DEUG）課程

教養教育課程（DEUG, DIPLOME D'ETUDES UNIVERSITAIRES GENERALES）は、修了以降に第二課程への進学を前提としている課程であり、第二課程で行われる専門教育の前段階と考えられている基礎教養教育を行う課程である。近年、学生数が急激に増加したことなどから、この段階での授業は大教室を中心とした講義が中心となっており、このことが各学生が十分な指導を受けられない、などの不満を生む要因ともなっている。このような批判に応え、少人数で行うゼミのようなものも導入されており、この少人数で行われる授業をTDS (TRAVAUX DIRIGES) またはTPS (TRAVAUX PRATIQUES, 実験) といい、講義で学習したことを議論や実験などを通じて学ぶことを目的にしたものである。

また、入学後最初の半年（フランスの大学はセメスター制である。）は「オリエンテーション期（SEMESTRE INITIAL D'ORIENTATION）」となっており、当初進学した専攻分野から別の専攻分野への進路変更や、短期の職業技術教育機関（IUT/STS）への進路変更などができるようになっている。このオリエンテーション期以降は、それぞれの専攻分野に関する理論的な基礎教育や外国語（必修）、情報科目（必修）などが行われている。

表2-4：大学第一課程（DEUG）専攻分野別修了証

SCIENCES ET TECHNOLOGIES (自然科学系)
LE DEUG SCIENCES ET TECHNOLOGIES (自然科学系教養教育課程修了証)
(1) LA MENTION MIAS (MATHEMATIQUES, INFORMATIQUE ET APPLICATIONS AUX SCIENCES) (自然科学基礎-数学・情報工学)
(2) LA MENTION SCIENCES DE LA MATIERE (SM) (物質工学)
(3) LA MENTION SCIENCES DE LA TERRE ET DE L'UNIVERS (STU) (地球工学)
(4) LA MENTION SCIENCES DE LA VIE (SV) (生命工学)
(5) LA MENTION MATHEMATIQUES APPLIQUEES ET SCIENCE SOCIALS (MASS) (社会科学基礎数学)
(6) LA MENTION SCIENCES ET TECHNOLOGIES POUR L'INGENIEUR (STI) (エンジニア教育基礎)
- SANS OPTION (一般)
- OPTION GENIE DES SYSTEMES (システム工学)
- OPTION GENIE DES PROCEDES (生産工学)

LE DEUG SCIENCES ET TECHNIQUES DES ACTIVITES PHYSIQUES ET SPORTIVES (STAPS) (スポーツ科学教養教育課程修了証)
LETTRES, ARTS ET SCIENCES HUMAINES (人文科学系)
LE DEUG LETTRES ET LANGUES (文学教養教育修了証) (1) LA MENTION LETTRES CLASSIQUES (古典文学) (2) LA MENTION LETTRES MODERNES (近現代文学) (3) LA MENTION SCIENCES DU LANGAGE (言語学) (4) LA MENTION LANGUES, LITTERATURES ET CIVILISATIONS ETRANGERES (LLCE) (外国語・外国文学・外国文明論) (5) LA MENTION LANGUES ETRANGERES APPLIQUEES (LEA) (応用外国語学) (6) LA MENTION LANGUES ET CULTURES REGIONALES (LCR) (地域言語学・地域文明論) (7) LA MENTION HISTOIRE DES ARTS ET ARCHEOLOGIES (美術史及び建築史学) (8) LA MENTION MEDIATION CULTURELLE ET COMMUNICATION (文化交流・コミュニケーション論)
LE DUEG SCIENCES HUMAINES ET SOCIALES (人文科学教養教育修了証) (1) LA MENTION PHILOSOPHIE (哲学) (2) LA MENTION PSYCHOLOGIE (心理学) (3) LA MENTION SOCIOLOGIE (社会学) (4) LA MENTION HISTOIRE (歴史学) (5) LA MENTION GEOGRAPHIE (地理学) (6) LA MENTION MATHEMATIQUES, INFORMATIQUE ET STATISTIQUES APPLIQUEES AUX SCIENCES HUMAINES ET SOCIALES (MISASH) (人文科学及び社会科学基礎－数学・情報工学・統計学) (7) LA MENTION INTERVENTIONS SOCIALES ET EDUCATIVES (教育学) (8) LA MENTION HISTOIRE DES ARTS ET ARCHEOLOGIES (美術史及び建築史学) (9) LA MENTION SOCIOLOGIESCIENCES DU LANGAGE (言語社会学)
LE DEUG ARTS (芸術教養教育修了証) (1) LA MENTION ARTS PLASTIQUES (造形芸術, 絵画・彫刻・建築) (2) LA MENTION MUSIQUE (音楽) (3) LA MENTION ARTS DU SPECTACLE (舞台芸術) (4) LA MENTION HISTOIRE DES ARTS ET ARCHEOLOGIES (美術史及び建築史学) (5) LA MENTION MEDIATION CULTURELLE ET COMMUNICATION (文化交流・コミュニケーション論)
LE DEUG THEOLOGIE (神学教養教育修了証) (1) LA MENTION THEOLOGIE CATHOLIQUE (カトリック) (2) LA MENTION THEOLOGIE PROTESTANTE (プロテスタント)
DROIT, ECONOMIE, ADMINISTRATION (社会科学系)
LE DEUG DROIT (法学教養教育修了証)
LE DEUG ECONOMIE ET GESTION (経済学及び会計学教養教育修了証)
LE DEUG ADMINISTRATION ECONOMIQUE ET SOCIALE (AES) (経営学教養教育修了証)

(2) 職業技術教育 (DEUST) 課程

職業技術教育 (DEUST, DIPLOME D'ETUDES UNIVERSITAIRES SCIENCES ET TECHNIQUES) 課程は、課程修了後就職することを希望する学生を対象としたものであり、

1984年に新たにつくられたコースである。大学本体の教育課程として設定されているが、実際は短期（二年間）の高等教育課程である。

DEUST 課程は、教室における理論教育や実験実技と企業における実習が組み合わされている職業技術教育課程であり、専門的な職業技術教育の範囲は、社会におけるさまざまな分野—例えば、法律実務、地域開発、銀行業務、生物化学、観光旅行業務など全部で百種類以上の細分化された専攻分野—別の学位が認定されている。DEUST 課程は直訳によると、「科学及び技術教育課程」であるが、この教育分野でもわかるように、「科学及び技術」とはいうものの、理科系の自然科学や工業系の技術に限定されているわけではなく、さらに幅広い社会科学やあらゆる業務知識を必要とする分野も含む概念である。

この課程への進学は一般教養教育（DEUG）課程とは異なり、高等学校における成績、バカロレアの成績や筆記試験、面接などによって行われる。この学位は最終的な学位であると考えられており、多くの卒業生は社会に出ることになるが、第二課程へ進学する学生も次第に増加している。この課程における二年間の授業（指導）時間数は1,200から1,400時間となっており、このうち企業等における実習は四分の一以上とされている。

2 第二課程（DEUXIEME CYCLE）

第二課程は、日本における大学の専門課程に相当するものと考えられ、第一課程修了後（主に DEUG を取得した学生を対象としている）に進む課程である。1996/97 年度には、第二課程合計で約 500,000 人が在籍している。

第二課程には、第一課程と同様に一般教育課程と職業技術教育課程が並存している。一般教育課程は、第二課程の一年目にリサンス（LICENCE）を取得し、さらに二年目にメトリーズ（MAITRISE、日本の大学を卒業してフランスの大学に留学しようとする場合、このメトリーズに入学するようにいわれることが一般的である。）を取得する課程である。また、職業技術教育課程は、二年間の連続した課程となっており、専攻分野により MST、MSG、MIAGE などの専門メトリーズを取得する課程が置かれている。さらに、第二課程の二年間と第三課程の一年目を合わせた三年制のマジステール（MAGISTERE）課程が設置されている大学もある。

かつてこれらの第二課程の学位は第一課程の学位に比較して、卒業後の進路に恵まれていると考えられてきたが、現在は社会全体の高学歴化や高い失業率を背景として厳しいものとなっている。

(1) リサンス（LICENCE）

リサンス（LICENCE）取得課程は、第一課程で学んだ専門基礎教育を受けて、さらに進んだ、細分化された学問領域の学習をする課程である。専門領域によって、理論的な教育

を中心とする課程（経済や数学専攻など）と、実践的な実習や実験を中心とする課程（工学やコンピュータ専攻など）がある。1995年にリサンスを取得した学生数は、127,198人となっている。

リサンス取得課程への入学（進学）は、第一課程の修了をその要件としており、同時に第一課程を修了したものは原則として無試験でリサンス取得課程に進むことができる。また、グランゼコール準備課程（CPGE）、大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）の修了者も第一課程修了者と同様に、この課程への入学資格を有すると見なされている。

リサンスを取得した後の進路としては、従来はこのリサンスが最終的な学位と考えられており、また公務員試験（カテゴリーA）の受験資格などともなっていたため、リサンス取得後に実社会に出る比率が高かったが、現在ではリサンス取得者の六割以上が、第二課程二年目（メトリーズ取得課程）へと進学している。また、リサンスは IUFM（教員養成センター）及び IEP（政治学院）第二学年への入学要件ともなっており、これらの専門高等教育機関へ進学する場合もある。

(2) メトリーズ (MAITRISE)

メトリーズ (MAITRISE) 取得課程は、リサンスのさらに上位の学位取得課程であり、メトリーズの取得には、通例リサーチペーパー（卒業論文）の提出が要件となっている。大学入学後四年目の課程であるこの課程は、制度上「修士」課程であるとされており、日本の大学卒業（学士）後にフランスの大学に入学しようとする場合、いわゆる大学院課程である DEA（後述）にではなく、このメトリーズ取得課程へ入学することとなっている。1995年にメトリーズを取得した学生数は、80,833人となっている。

このメトリーズ課程修了後は、大部分の学生が就職することになっているが、さらに就職を有利にするために理工系やビジネス系などの専門高等教育機関や大学第三課程において職業技術教育を受ける場合もみられる。

(3) 専門メトリーズ (MST, MSG, MIAGE)

MST (MAITRISE DE SCIENCES ET TECHNIQUES, 職業技術メトリーズ)

MSG (MAITRISE DE SCIENCES DE GESTION, 経営管理メトリーズ)

MIAGE (MAITRISE D'INFORMATIQUES APPLIQUEES A LA GESTION, 経営情報科学メトリーズ)

これらの専門メトリーズ取得課程は、すべて理論教育と実際的な職業訓練とが同時に行われる二年連続の課程であり、課程修了後の就職にも有利なため非常に高い人気を集めている。この課程への入学には、それぞれ定められた専攻分野の第一課程学位のほか、願書や調査表、面接等による入学審査を通ることが必要であるとされている。

MST（職業技術メトリーズ）は、専門メトリーズの大部分の学生が所属する課程であり、その専門分野は工学から経済学や社会学、芸術や文学まで広がっている。MST取得課程への入学には、経済や社会学、文学あるいは理学の第一課程の修了証と、入学資格試験を通ることが必要である。

MSG（経営管理メトリーズ）は「企業におけるマネジメント（企業経営）」に重点を置いた課程であり、ビジネス系専門高等教育課程の大学版と考えられるものである。入学には、第一課程において経営学（AES）、経済学及び会計学、社会科学基礎数学（MASS）の学位を修了していることが必要とされ、さらに CPEG（CERTIFICAT PREPARATOIRE AUX ETUDES DE GESTION）と呼ばれる学内資格試験に合格している必要がある。1997年にはフランス全土のMSG課程に9,500人が出願し、2,500人が入学を許されている。

MIAGE（経営情報科学メトリーズ）も同様に、「企業におけるマネジメント（企業経営）」に重点を置いた課程であるが、主に企業における情報システムの分野を専門的に学ぶ課程である。この課程の入学には、自然科学系（数学・情報工学、社会科学基礎数学などの第一学位修了証を必要要件としている。

(4) マジステール (MAGISTERE)

マジステール (MAGISTERE) 取得課程は、第一課程修了を入学資格とする三年間の連続した課程であり、入学に際しては書類選考と専門分野に関する入学試験、面接などが課されている。課程修了により取得できる学位はマジステールであるが、同時に大学第三課程学位である DEA あるいは DESS も取得することができる。専門分野は、コミュニケーション、法学、財政学、経営管理、国際関係、科学など幅広いコースが置かれている。このマジステールも、理論的な教育と企業での実地訓練や研修などを組み合わせたコースとなっており、卒業後の就職状況は大学の一般課程と比較して良好である。教育課程の内容では、企業等における実習を重要視しており、毎年六カ月の実務研修が予定されている。

3 第三課程 (TROISIEME CYCLE)

第三課程への入学資格は、第二課程修了学位（メトリーズ、MST、MIAGE、MSG）か、それと同様と評価される理工系、ビジネス系専門高等教育機関等の修了学位となっている。かつて、大学において非常に優秀な一部の生徒のためのコースと考えられてきた第三課程も、最近は入学者数が非常に多くなっており、一つの教室の100人を超す学生が授業を受けるようなところも現れている。第一課程と第二課程と同様に、第三課程においても普通教育課程である DEA と職業教育課程である DESS が設定されている。これらの第三課程への入学に際しては第二課程等での成績や研究業績、職務経歴などが重視されている。

(1) DEA (DIPLOME D'ETUDES APPROFONDIES)

DEA (デー・ウー・アー) 課程は、修了後にドクトラ (DOCTORAT) 課程に進もうとするものにとっての準備課程であり、一年間の課程を通じた研究の成果を論文にまとめることが修了の要件となっている。この DEA 課程は、一般にドクトラ課程へ進学し研究者を育成するための教育課程となっているが、特に法律分野や経営分野などでは職業技術教育課程である DESS と同様の役割を果たしているともいわれている。1995 年に DEA を取得した学生数は、25,420 人となっている。

(2) DESS (DIPLOME D'ETUDES SUPERIEURES SPECIALISEES)

DESS 課程は、高度専門的な職業教育を行う一年間の課程であり、入学は DEA よりも厳しいものとなっている。この課程も、他の職業教育課程と同様に理論学習と最低三カ月の実習または企業研修を組み合わせたものとなっており、主に同課程修了後に就職することを予定しているが、メトリーズ修了まで職業技術教育を受けていない学生を対象にしている。1995 年に DESS を取得した学生数は、21,077 人となっている。

(3) DRT (DIPLOME DE RECHERCHE TECHNOLOGIQUE)

DRT 課程は、DEA 課程の基礎的調査研究に関する学習と、DESS 課程で行われている実際的な訓練とを組み合わせたコースであり、主に IUP (職業技術専門教育課程) の卒業生及び理工系専門高等教育機関の卒業生を対象にして 1995 年に新たに設けられたものである。この課程では、第二次産業あるいは第三次産業の分野における調査研究の実施を主体としており、実際的な調査研究のため、国公立の研究所や産業界の協力による工場や研究所などの現場で主に教育指導が行われる。それぞれの調査研究は、学術的な観点から指導する教官と、その調査研究分野での専門家 (主に企業の管理者) の二人によって指導され、調査研究期間の終了後には学位認定委員会に提出する報告書を作成することとなっている。この課程の期間は調査研究が 18 カ月となっているが、IUP (職業技術専門教育課程) 卒業者の場合はその前に 6 カ月間の準備課程 (授業時間 300 時間) を経ることとされており、合計で二年間となる。

(4) DOCTORAT

ドクトラ課程 (博士学位取得課程) は、DEA の取得者を対象としたもので、最低三年間の課程である。博士学位の取得には、博士論文の提出が必要とされている。現在大学教授となるためには、このドクトラ課程を経て博士学位を取得することが必要とされている。1995 年にこの博士学位を取得した学生数は、8,969 人となっている。

4 大学独自の修了証・ディプロム (DIPLOME UNIVERSITAIRE)

以上のような正規の大学における教育課程とは別に、大学独自の修了証・ディプロム (DIPLOME UNIVERSITAIRE) を出すことが許されている。これらの大学独自の課程は、期間や程度が、入門レベルのものから、入学に関して試験が実施される課程まで様々である。特に、法律や経済学、経営管理の分野では、国際化等に対応した様々な課程がおかれている。これらのディプロムは国の認定する修了証・学位等と同じ名前は許されないなどの一定の制限がある。

5 医歯薬系教育課程

医歯薬系教育課程に関しても、その入学についてはバカロレアを取得したものに広く開かれているが、原則として普通バカロレアを取得し、かつ数学と生物を履修していることを出願の条件としているなど、一定の入学制限を課している。入学に際しては、その他の学部と同様に、入学を希望する大学に出願することとなっているが、毎年多くの入学希望者が集まるパリ及びパリ近郊の医歯薬系教育課程では、(医学教育と歯学教育に関し) 複数の大学共通の四カ所の大学医学及び歯学教育センターをつくり、大学の入試事務局から各入学希望者に対して、入学する大学医学及び歯学教育センターを指定することとなっている。

(1) 医学教育 (LES ETUDES DE MEDECINE)

医学教育を受けようとするものは、まず医歯学系教育第一課程 (PCEM, PREMIER CYCLE D'ETUDES MEDICALES) へ入学することとなっている。これは二年間の課程となっているが、最初の一年間は、一般的な理科系科目 (生物、化学等) を履修することとなっており、一年目の最後に行われる競争試験への準備を行うこととなる。この競争試験においては20点満点の評価において16点以上の成績を修めたものだけが、第一課程の2年目に進めるようになっており、その比率は約1割である。(第二課程へ進学することのできる人数は、教育学術省と厚生省との間で毎年定められることとなっている。) 残りの約9割の学生は再度競争試験準備のために第一学年を繰り返す(一回に限り繰り返すことができる。)か、大学の第一課程、看護婦学校、助産婦学校等の医療周辺領域系の専門高等教育機関へ編入することになる。

また、助産婦、看護婦、作業療法士、マッサージ及び運動療法士、精神運動療法士、足の療法士 (PEDICURE-PODOLOGUE)、放射線医療機器作業技師、エックス線技師、発声矯正士等の医療周辺領域分野の各資格・修了証等を有するものは、普通バカロレアを取得していなくとも、この医歯学系教育第一課程の第一学年に入学することができ、あらかじ

め定められた一定の入学数制限はあるが、競争試験を経ることによって、さらに上位の医学教育をおけることができるとされている。

医学教育の第二課程（DCEM, DEUXIEME CYCLE DES ETUDES MEDECALES）は四年間の課程で、最初の一年間は医学一般に関する教育を行い、続く三年間は病理学（PATHOLOGIE）と治療に関する専門的な教育（大学学部において理論的な教育を受けると同時に、病院現場における実習等を通じた実践的指導を受ける。）が施される。

第三課程は、第二課程を修了し、「臨床治療教育修了証」（CSCT, CERTIFICAT DE SYNTHESE CLINIQUE ET THERAPEUTIQUE）を取得した学生が進学することのできる課程である。第三課程は、大きく三つのコースに分かれている。第一のコースは、大学第三課程において DEA を取得（一年）し、引き続きドクトラ（二年から四年）へと進み、医学分野の学術研究を行うコースである。第二のコースは、二年間の病院研修及びその後に提出する論文によって一般医学教育修了学位（DIPLOME D'ETAT DE DOCTEUR EN MEDECINE ET LA QUALIFICATION ED MEDECINE GENERALE）を取得するコースである。第三のコースは、「INTERNAT」（インターン試験）と呼ばれる競争試験を経て進むコースであり、四年から五年の課程修了後には専門医学教育修了学位（DES, DIPLOME D'ETUDES SPECIALISEES）を取得する。この課程に進むためのインターン試験には以下の六種類の専門分野、すなわち、専門内科、専門外科、医生物学、精神医学、産業医学（職業病）、公衆衛生学が用意されている。DES を取得した後は、さらに専門的な外科技術分野の上級専門医学教育修了証（DESC, DIPLOME D'ETUDES SPECIALISEES COMPLEMENTAIRE）を取得する課程（二年）へ進むこともできるようになっている。

(2) 歯学教育（LES ETUDES DE CHIRURGIE DENTAIRE）

歯学教育の場合も医学教育と同様に、まず医歯学系教育第一課程（PCEM, PREMIER CYCLE D'ETUDES MEDICALES）へ入学することとなり、教育内容は医学教育と同様である。この一年目の課程を（歯学教育）準備課程（ANNEE PREPARATOIRE）という。第一学年終了時に行われる競争試験に合格したもののだけが歯学教育課程第二学年（DEUXIEME ANNEE D'ODONTOLOGIE）に進むことができる。この歯学教育課程は、医歯学教育第一課程の第一学年を含んで六年間の課程となり、第二学年から第六学年までの課程を養成課程（ANNEE DE FORMATION）といい、大学学部（UFR）において理論教育を受けると同時に歯科治療センターでの実習を通じた実践的指導を受けることとなり、六年間の課程修了により、歯科教育修了証（DIPLOME DE DOCTEUR EN CHIRURGIE DENTAIRE）を取得する。

六年間の基礎歯科教育の後には、大きく五つのコースに分かれることとなる。大学第三課程で DEA を取得しドクトラへと進学するコース、専門歯科教育認定証（CES GROUPE A または B, CERTIFICAT D'ETUDES SUPERIEURES DE CHIRURGIE DENTAIRE）を取得する二年間のコース、歯科矯正専門教育認定証（CECSMO, CERTIFICAT D'ETUDES CLINIQUES SPECIALES MENTION ORTHODONTIE）を取得する夜間四年間のコース、口

腔外科専門教育修了証 (DIPLOME D'ETUDES SUPERIEURES DE CHIRURGIE BUCCALE) を取得する夜間四年間のコース, そしてインターン試験 (INTERNAT) を経て進む三年間の課程で歯科医師学位 (DIPLOME D'ETAT DE DOCTEUR EN CHIRURGIE DENTAIRE) 及び高度 (歯科) 教育証明書 (AEA, ATTESTATION D'ETUDES APPROFONDIES) 取得コースである。

(3) 薬学教育 (LES ETUDES PHARMACEUTIQUES)

薬学教育でも, 一年目は医歯学教育課程と同様に競争試験に向けた準備をする課程であり, 一年目の最後に実施される競争試験に合格したものだけが二年目の課程に進むことができることされている。薬学教育では, これらの最初の二年間を薬学教育第一課程といい, さらに二年間の第二課程を経て, 二年から五年間の第三課程へ進むことになる。

第三課程では, 基本的には一年間の病院実習課程 (AHU, ANNEE HOSPITALO-UNIVERSITAIRE) を経てから, 一年間の実務研修及び論文により薬剤師学位 (DIPLOME D'ETAT DE DOCTEUR EN PHARMACIE) を取得するコースが中心であるが, インターン試験 (INTERNAT) を経て専門的な教育を受ける三年間の課程も設定されている。この専門的な学位は専門薬学教育学位 (DES, DIPLOME D'ETUDES SPECIALISEES) と呼ばれており, 専門分野別に生物化学課程と薬化学課程があり, これらの修了後にも, 薬剤師学位 (DIPLOME D'ETAT DE DOCTEUR EN PHARMACIE) が取得できる。また, 第二課程から薬剤師学位 (DIPLOME D'ETAT DE DOCTEUR EN PHARMACIE) を取得せずに, 直接大学第三課程で DEA (一年) を取得しドクトラ (二年から四年) へと進学するコース, 大学第三課程の DESS を取得するコース (第二課程終了後一年) がある。さらに, 第二課程から, DEA (一年) を経てから, 一年間の病院実習課程 (AHU) により薬剤師学位 (DIPLOME D'ETAT DE DOCTEUR EN PHARMACIE) を取得するコースもある。

二. 大学付属職業技術専門高等教育課程 (IUP)

INSTITUT UNIVERSITAIRE PROFESSIONNEL

IUP (大学付属職業技術専門教育課程) は、大学において高度専門的な職業技術教育を行うことを目的として、1991年に設立された三年制一貫の高等教育機関であり、大学に付属して設置されている。フランス全土で、81校(1996/97年度)が設置されており、パリ大学区には八校のIUPが設置されている。

IUPにおける教育は、大学と産業界・企業が密接に連携して人材育成にあたることをその目的とした職業技術教育課程であることから、教室での理論的な一般教育及び専門教育を受けることとあわせて、インターンシップ(企業実地研修)によって実際的な職業技術訓練を受けるものとなっている。このインターンシップの期間は学校によってそれぞれ異なっているが、最低でも六カ月以上と定められており、一般に長い期間を設定している学校への人気が高い。また、学生数は一クラス25人から100人の間になるように調整されており、大学において非難を浴びている巨大教室における一方的な講義という状態に比較して、密度の濃い教育が期待されている。教育課程の総時間数は、1,600時間から2,000時間の授業と、外国語二カ国語、上記のインターンシップが義務づけられている。また、全体の授業の半分は、産業界で活躍する専門家によって実施されている。

1996年における同課程への入学者数は約23,000人であり、1994年の18,000人、1995年の20,000人と比較して、年を経るにつれ増加している。この学校への入学者は、願書による書類審査及び筆記試験、面接などで選抜されることとなっており、学校によって異なるが全学校の平均競争率は三倍程度である。IUPへの入学資格は、高等教育機関において一年以上の教育を受けたもの、となっており、大学の第一課程(DEUG)及び大学付属職業技術教育短期大学課程(IUT)とリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)の第一学年を修了したものが入学するのが一般的である。

1995年の入学者を出身別にみると、45%が大学の第一課程(DEUG)から、39%がIUTとSTSから、5%がグランゼコール準備課程(CPGE)から、11%がこれら以外の高等教育機関から、となっている。また、第二学年には多くの編入者を受け入れており、43%が第一学年からの進学者、21%が大学付属職業技術教育短期大学課程(IUT)の修了者、11%がリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)の修了者、残り25%は、それら以外からとなっている。

表2-5: 職業技術専門教育課程 (IUP) 入学者状況 (1995年)

	出身教育課程・機関	比率
第一学年入学者	大学第一課程 (DEUG) 第一学年修了者	45%
	短期の職業技術教育機関 (IUT/STS) 第一学年修了者	39%
	グランゼコール準備課程 (CPGE) 第一学年修了者	5%
	その他	11%

第二学年入学者	第一学年からの進学者	43%
	大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）修了者	21%
	リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）修了者	11%
	その他（グランゼコール準備課程等）	25%

IUP の大きな特徴として、専門職業科目担当教員の大部分が企業の管理職となっていることが挙げられる。このことによって、IUP における教育は、学生が卒業後、企業において即戦力となることができるように、企業における実際的なノウハウを教えることが中心となっている。このために、企業のマーケティングマネージャーがマーケティングの授業を行い、エンジニアが工学の授業を行うというように、産業界から多くの教員を受け入れている。また、これらの産業界からの教員は、学生が在学中に教育の一環として実施されているインターンシップ（企業実地研修）とのスムーズな連携を助けている。加えて、情報や外国語などの一般教育科目に関しては、専門分野の教員が担当している。

IUP は三年制の高等教育機関であり、在学中に DEUP（DIPLOME D'ETUDES UNIVERSITAIRES PROFESSIONNELLES, DEUG と同等）及びリサンスを取得し卒業時にはメトリーズを取得することができる。また、メトリーズ取得と同時に、INGENIEUR-MAITRE（エンジニア・メトル学位, MASTER OF ENGINEERING）という称号を取得することができる。フランスにおいては、「INGENIEUR」の称号は、エンジニア称号委員会（CTI）によって認められた課程を修了したものにだけ与えられるものであり、IUP はこのエンジニア称号委員会（CTI）の認定を受けていないため、卒業後直ちに「INGENIEUR」となるわけではなく、二年間の職務経験の後にはじめて「INGENIEUR」称号を取得できるとされている。

一般的にフランスにおいては高等教育機関の教育内容について、教養的なものである大学の一般課程よりもより専門的な教育機関に対する評価が高くなっている。すなわち、四年間の高等教育を受けた場合（BAC+4）、この IUP の卒業生はメトリーズを取得した大学一般課程の卒業生よりも就職において好条件を獲得している。

卒業後にさらに上位の教育を希望するものには、大学第三課程である DRT 課程が用意されている。また研究職を目指す場合などには、DEA を経て博士課程へ進学することも可能である。

IUP における教育内容は、大きく第二次産業系と第三次産業系に分類されるが、卒業後すぐに産業界で働く能力を修得することを目的としているため、地域の産業界と協力してさらに細かい様々なコースが設定されている。

表 2-6 : 大学付属職業技術専門高等教育課程（IUP）の専攻分野別コース状況

第二次産業分野	GENIE DES SYSTEMES INDUSTRIELS（産業システム工学専攻）
	GENIE MATHEMATIQUE ET INFORMATIQUE（数学及び情報工学専攻）
	GENIE ELECTRIQUE ET INFORMATIQUE INDUSTRIELLE（電気及び電子工学専攻）

	<p>GENIE MECANIQUE ET PRODUCTIQUE (機械及び生産機械工学専攻)</p> <p>INGENIERIE DE LA SANTE (医療系技術専攻)</p> <p>GENIE CIVIL ET INFRASTRUCTURES (土木及び建築・都市工学専攻)</p> <p>GENIE DE L'ENVIRONNEMENT (環境工学専攻)</p> <p>GENIE CHIMIQUE (化学工学専攻)</p> <p>GENIE DES MATERIAUX (材料工学専攻)</p> <p>BIOTECHNOLOGIES ET BIOINDUSTRIES (遺伝子工学専攻)</p>
第三次産業分野	<p>MANAGEMENT ET GESTION DES ENTREPRISES (経営管理・会計学専攻)</p> <p>COMMERCE ET VENTE (貿易及び商業専攻)</p> <p>METHODES INFORMATIQUES APPLIQUEES A LA GESTION (MIAGE) (経営管理情報専攻)</p> <p>BANQUE, FINANCES ET ASSURANCE (金融業専攻)</p> <p>METIERS DE L'INFORMATION ET DE LA COMMUNICATION (情報コミュニケーション産業専攻)</p> <p>METIERS DU TRANSPORT, DE L'HOTELLERIE, DU TOURISME ET DES LOISIRS (旅行及び余暇観光業専攻)</p> <p>SCIENCES DE GESTION (経営工学専攻)</p> <p>AMENAGEMENT ET DEVELOPEMENT TERRITORIAL (国土開発関連産業専攻)</p> <p>INGENIERIE DOCUMENTAIRE (資料調査専攻)</p> <p>METIERS DES ARTS ET DE LA CULTURE (文化芸術関連産業専攻)</p>

三. 教員養成センター (IUFM)

INSTITUT UNIVERSITAIRE DE FORMATION DES MAITRES

教員養成センター (IUFM, INSTITUTE UNIVERSITAIRE DE FORMATION DES MAITRES) は、大学第二課程のリサンス (LICENCE) を取得した後に入学する、二年制の課程である。それぞれのアカデミー (大学区) に一カ所以上の割合で設置されており、フランス全土 (海外県・海外領土を含む) で 28 機関がおかれている。但し、この IUFM はいわば理念的な教育機関であり、実際にはアカデミー内の大学や大学付属の教育機関などに分散して各コースがおかれており、「センター」としてまとまって校舎等が設置されているものではない。(一例を挙げれば、パリ近郊クレティユ大学区の中等教育教員資格 (CAPES) 取得課程の場合、哲学はパリ第八大学に、数学はパリ第十三大学とマルヌ・ラ・ヴァレ大学におかれている。)

この教員養成センター (IUFM) に入学するためには、第一課程及び第二課程 (リサンス) の成績、願書による書類選考の他に、面接と筆記試験 (数学及びフランス語) の試験が実施されている。IUFM への入学希望者は近年増加傾向にあり、1997 年にはフランス全土で 179,340 人が受験、約 31% の 55,150 人が入学を許されている。また、入学のためには、成績以外に子供のためのスポーツ教室やサマーキャンプ等、社会教育活動への参加経験なども重視されているといわれている。

この教員養成センター (IUFM) では、一年目には主に教室で行う講義を受け、一年目の最後に実施される教員資格試験のための準備を行うこととなる。この教員資格試験に合格できないときは、二年目の課程に進むことはできない。二年目には「試補教員」 (PROFESSEUR STAGIAIRE) として、実際の学校現場での実習を中心とした教育が行われている。この「試補教員」となると、学生は公務員として月 7,000 フランの給料を受けることができる。

フランスの教員養成制度においては、必ずしもこの教員養成センター (IUFM) の第一学年に入学せず、大学や高等師範学校 (ENS) において資格試験の準備をすることも認められている。但し、初等教育教員資格 (CAPE) 試験の場合、全体の合格率が 12% と低い中、IUFM 出身者の合格率が 49% となっており、また合格者の約七割を占めるなど、IUFM の優位性が確立しているとみられる。

教員養成センター (IUFM) の第一学年以外の教育機関から資格試験に合格した場合であっても、試験合格後には教員養成センター (IUFM) の二年目の課程に在籍し、「試補教員」としての実務研修を受けることが義務づけられている。(アグレジェ教員資格試験の場合には、一年目の課程は置かれていないので、大学や高等師範学校で試験準備をすることとなる。)

表 2-7 : 教員養成センター (IUFM) 第二学年入学者の状況 (1997/98 年度)

	教員養成センター (IUFM)	その他	合計
初等教育レベル CAPE	4,972 (62.8%)	2,942 (37.2%)	7,914 (100.0%)
中等教育レベル CAPES	4,093 (62.5%)	2,453 (37.5%)	6,546 (100.0%)
CAPEPS	735 (77.8%)	210 (22.2%)	945 (100.0%)
CAPET	790 (63.5%)	285 (26.5%)	1,075 (100.0%)
CAPLP2	967 (64.0%)	543 (36.0%)	1,510 (100.0%)
CPE	207 (53.9%)	177 (46.1%)	384 (100.0%)
CAFEP	230 (51.9%)	213 (48.1%)	443 (100.0%)
AGREGATION	345 (29.2%)	835 (70.8%)	1,180 (100.0%)
合計	12,339 (41.7%)	7,658 (38.3%)	19,997 (100.0%)

注： 留年/再履修等のため、入学者数は在籍者数とは異なっている。また、AGREGATION の場合は教員養成センター (IUFM) からの入学者は他の専攻に在籍していたものである。

表 2-8 : 教員養成センター (IUFM) 在籍者数推移

	93/94	94/95	95/96	96/97	97/98
全課程合計	74,616	82,966	86,068	85,885	83,134
うち初等教育レベル課程	26,823	27,857	27,443	27,016	25,915
うち中等教育レベル課程	47,793	55,109	58,625	58,869	57,219
うち第一学年課程	50,816	56,450	58,544	59,538	58,191
うち第二学年課程	23,800	26,516	27,524	26,347	24,943

フランスの教員資格は、教育レベル (小学校, 中等教育) や専門分野 (普通教育, 職業技術教育, 保健体育) 等によって以下のような種類に分かれている。

表 2-9 : フランス教員資格の概要

初等教育レベル (PREMIER DEGRE)	CAPE 小学校教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DES ECOLES
中等教育レベル (SECOND DEGRE)	CAPES 中等教育教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT DU SECOND DEGRE
	CAPEPS 保健体育教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT D'EDUCATION PHYSIQUE ET SPORTIVE
	CAPET 職業技術教育教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT TECHNIQUE
	CAPLP2 職業リセ教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE LYCEES PROFESSIONNELS DE 2E GRADE
	CEP 学習及び進路指導担当教員資格 CONSEILLER PRINCIPAL D'EDUCATION
	CAFEP 私立学校中等教育教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT PRIVE
	AGREGATION アグレジェ教員資格 (アグレガシオン) AGREGATION

また、農務省が認定する農業リセ教員資格には以下の二つがある。

中等教育レベル (SECOND DEGRE)	CAPESA 農業リセ一般教育教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT SECONDAIRE AGRICOLE
	CAPETA 農業リセ職業技術教育教員資格 CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT TECHNIQUE AGRICOLE

(現在、この教員養成センター (IUFM) 及び教員養成制度に関する改革案が検討されており、その中では、各種の教員資格国家試験を大学においてリサンス (LICENCE) を取得した後に行うこととし、教員資格国家試験に合格したあとに二年間の IUFM 課程での研修を義務づけるという意見が出されている。これは、IUFM の第一学年目の課程が教員資格試験のための受験勉強に費やされることとなってしまっている現状に対して、二年間の課程を有効に活用するための方策として検討されているものである。)

(1) 初等教育教員資格 (CAPE)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DES ECOLES)

初等教育教員は、従来アンスティテューター (INSTITUTEUR) と呼ばれており、中等教育教員よりも資格取得が容易であると考えられてきたものであるが、制度改革により中等教育教員と同様にプロフェッサー (PROFESSEUR) となり、資格取得のための学歴要件も大学第二課程 (リサンス) 以上となったものである。

フランス全土で第一学年には 15,281 人が、第二学年には再履修を含めて 10,634 人が在籍している。(1997/98 年度) 第一学年に比べて第二学年が少なくなっているのは、第一学年修了時に実施される国家試験に合格できない場合には第二学年に進学できないことによる。また、第一学年在籍者の 83% が女性となっている。

この初等教育教員資格 (CAPE) の取得のための国家試験では、フランス語及び数学の筆記試験、教育に関する口頭試問、専門試験 (地学生物・歴史地理・物理技術の三科目から一科目選択)、体育実技、専門口頭試問 (言語・音楽・芸術の三科目から一科目選択) などが課されることとなっている。1996/97 年度の国家試験には約 46,000 人が受験し、合格者は約 8,500 人と合格率は 18.5% となっている。

(2) 中等教育教員資格 (CAPES)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT SECONDAIRE)

中等教育教員資格であり、この資格を持つ教員は、中学校 (コレージュ)、高等学校 (普通及び技術リセ) で教えることができるとされている。一週間に受け持つ授業時間数は一般に 18 時間であるが、音楽及び芸術科目担当教員に限り 20 時間となっている。

フランス全土で第一学年には 30,524 人が、第二学年には 7,858 人が在籍している。(1997/98 年度) 第一学年に比べて第二学年が著しく少なくなっているのは、第一学年修了時に実施される国家試験に合格できない場合には第二学年に進学できないことによる。また、第一学年在籍者の 69% が女性となっており、専門分野別では以下のような女性比率となっている。

表 2-10 : 中等教育教員資格 (CAPES) 取得課程の専門分野別女性比率 (1997/98 年度)

専門分野	女性比率
社会科学 (SCIENCES ECONOMIQUES ET SOCIALES)	61%
人文科学 (LITTERAIRES)	74%
うち外国語	85%
うち文学及び歴史地理	69%
自然科学 (SCIENTIFIQUES)	51%
うち数学	52%
うち生物地学	64%
うち物理	22%
全体平均	69%

この中等教育教員資格 (CAPES) 取得のための試験は、フランス語及び数学等の一般教養に関する筆記試験、専門分野に関する筆記試験及び口頭試問となっている。1996/97 年度の国家試験には、56,054 人が受験し、7,619 人が合格とその合格率は 13.6% となっている。

この試験 (コンクール, CONCOURS) には外部試験 (CONCOURS EXTERNE) と内部試験 (CONCOURS INTERNE) と呼ばれる二種類の試験が実施されている。外部試験は一定の学歴要件を満たすものは誰でも受験することの出来る試験となっており、一方内部試験は既に国家公務員 (カテゴリー A, リサンス以上) として何らかの職 (教育関係には限定されない。) に就いているものを対象とした試験となっている。

専門分野別には以下の 26 分野 (現在はタヒチフランス語-TAHITIEN FRANCAIS があるので 27 分野) が用意されている。

表 2-11 : 中等教育教員資格 (CAPES) 試験の実施状況 (外部試験, 1994 年)

専攻分野		募集数	受験者数	合格者数
PHILOSOPHIE	哲学	300	1,493	244
LETTRES CLASSIQUES	古文	500	436	246
LETTRES MODERNES	現代文	2,000	4,343	1,451
HISTOIRE-GEOGRAPHIE	歴史・地理	1,650	6,758	1,180
ALLEMAND	ドイツ語	350	1,153	241
ANGLAIS	英語	2,220	5,310	1,301
ARABE	アラビア語	7	82	7

CHINOIS	中国語	1	23	1
ESPAGNOL	スペイン語	630	2,381	485
HEBREU	ヘブライ語	1	8	1
ITALIEN	イタリア語	40	306	40
PORTUGAIS	ポルトガル語	8	67	6
RUSSE	ロシア語	3	34	3
MATHEMATIQUES	数学	2,385	5,125	1,442
PHYSIQUE-CHIMIE	物理・化学	1,200	3,801	1,052
PHYSIQUE-ELECTRICITE	物理（電気）	250	607	208
BIOLOGIE-GEOLOGIE	生物・地学	330	1,658	330
EDUCATION MUSICALE	音楽	300	468	171
ARTS PLASTIQUES	美術	173	1,364	173
BASQUE	バスク語	3	5	3
BRETON	ブルトン語	3	8	3
CATALAN	カタラン語	3	11	3
OCCITAN-LANGUE D'OC	オック語	14	26	14
LANGUE CORSE	コルシカ語	9	21	9
SCIENCES ECONOMIQUES ET SOCIALES	政治経済・社会	250	1,956	247
DOCUMENTATION	司書	250	2,616	250
合計		12,880	40,063	9,111

(3) 保健体育教員資格 (CAPEPS)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT D'EDUCATION PHYSIQUE ET SPORTIVE)

中等教育における保健体育教員資格であり、この資格を持つ教員は、中学校（コレージュ）、高等学校（普通及び技術リセ）で保健体育の科目を教えることができるとされている。一週間に受け持つ授業時間数は一般に 18 時間であるが、音楽及び芸術科目担当教員に限り 20 時間となっている。

フランス全土で第一学年には 3,427 人が、第二学年には 1,106 人が在籍している。（1997/98 年度）また、第一学年在籍者の 43% が女性である。

この保健体育教員資格 (CAPEPS) 取得のための試験は、体育に関する専門知識（運動生理学、心理学、体育史、指導法、等）と体育実技などとなっている。

(4) 職業技術教育教員資格 (CAPET)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT TECHNIQUE)

中等教育における職業技術教育教員資格であり、この資格を持つ教員は、中学校（コレージュ）、高等学校（普通及び技術リセ）で職業技術科目を教えることができるとされて

いる。一週間に受け持つ授業時間数は一般に 18 時間であるが、音楽及び芸術科目担当教員に限り 20 時間となっている。

フランス全土で第一学年には 3,066 人が、第二学年には 1,342 人が在籍している。(1997/98 年度) また、第一学年在籍者の 41% が女性となっており、教員資格試験の中で唯一男性在籍者が女性を上回っているコースとなっている。特に第二次産業分野のコースでは女性比率が 21% (第三次産業分野のコースでは 57%) となっている。

この職業技術教育教員資格 (CAPET) 取得のための試験は、フランス語及び数学等の一般教養に関する筆記試験、専門分野に関する筆記試験及び口頭試問となっている。1996/97 年度の国家試験には、受験者数 8,419 人に対して合格者はわずか約 1,334 人 (15.8%) となっている。

専門分野別には以下のようなものがあり、それぞれの合格者数等は以下のようになっている。

表 2 - 1 2 : 職業技術教育教員資格 (CAPET) 試験の実施状況 (1994 年)

専攻分野		募集数	受験者数	合格者数
GENIE MECANIQUE	機械工学	350	778	323
GENIE CIVIL	土木エネルギー工学	80	213	60
GENIE INDUSTRIEL	産業工学 (注)	20	16	8
GENIE ELECTRIQUE	電気工学	470	1,058	369
INDUSTRIES GRAPHIQUES	産業デザイン	-	-	-
SCIENCES ET TECHNIQUES MEDICO-SOCIALES	医療周辺領域分野	35	96	23
BIOTECHNOLOGIES	生物工学	70	560	65
TECHNOLOGIE	産業技術	500	524	351
ECONOMIE ET GESTION	経済及び会計	855	4,336	853
INFORMATIQUE ET GESTION	情報	30	374	30
HOTELLERIE-TOURISME	ホテル及び観光業	50	123	40
ARTS APPLIQUES	芸術	40	169	40
合計		2,500	8,247	2,162

(注) 1994 年試験では木工業関係のみ募集があり、材料工学や繊維、窯業などの募集がされていない。

(5) 職業リセ教員資格 (CAPLP2)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE LYCEES PROFESSIONNELS DE 2E GRADE)

職業リセにおける教員資格であり、この資格を持つ教員は、職業高等学校 (職業リセ) で教えることができるとされている。一週間に受け持つ授業時間数は一般に 18 時間であるが、実技科目担当教員に限り 23 時間となっている。

フランス全土で第一学年には 2,843 人が、第二学年には 1,831 人が在籍している。(1997/98 年度) また、第一学年在籍者の 57% が女性となっている。

この職業リセ教員資格 (CAPLP2) 取得のための試験は、フランス語及び数学等の一般教養に関する筆記試験、専門分野に関する筆記試験及び口頭試問となっている。1996/97 年度の国家試験 (外部試験) には、受験者数 18,855 人に対して合格者はわずか約 2,127 人 (11.3%) となっている。

この試験 (コンクール, CONCOUR) には外部試験 (CONCOURS EXTERNE) と内部試験 (CONCOURS INTERNE) と呼ばれる二種類の試験が実施されている。外部試験は一定の学歴要件を満たすものは誰でも受験することの出来る試験となっており、一方内部試験は既に国家公務員 (カテゴリー A, リサンス以上) として何らかの職 (教育関係には限定されない。) に就いているものを対象とした試験となっている。

専門分野別には以下のように、文学などの一般科目から職業科目まで多様なものとなっている。

表 2-13 : 職業リセ教員資格 (CAPLP2) 試験の実施状況 (外部試験, 1994 年)

専攻分野		募集数	受験者数	合格者数
MATHS-SCIENCES PHYSIQUE	数学・物理	380	1,395	380
LETTRES-HISTOIRE	人文歴史	350	1,516	350
LANGUES VIVANTES-LETTRES	外国語	355	1,727	317
ARTS APPLIQUES	芸術	70	268	70
BIOTECHNOLOGIES	生物工学	80	347	40
SCIENCES ET TECHNIQUES MEDICO-SOCIALES	医療周辺領域分野	35	144	25
GENIE MECANIQUE	機械工学	70	409	60
GENIE ELECTRIQUE	電気工学	125	727	125
GENIE INDUSTRIEL	産業工学	-	-	-
GENIE CIVIL	土木エネルギー工学	45	168	29
GINIE CHIMIQUE	化学工学	-	-	-
ADMINIS-BUREAUTIQUE	一般事務	150	818	150
COMPTABILITE ET BUREAUTIQUE	情報事務	150	1,428	150
VENTE	販売・商業	150	1,081	150
HOTELLERIE-RESTAURATION	ホテル及び飲食業	40	128	34
合計		2,000	10,156	1,880

(6) 学習及び進路指導担当教員資格 (CPE) (CONSEILLER PRINCIPAL D'EDUCAION)

中等教育における学習指導及び進路指導を担当する専門教員資格であり、この資格を持つものは、中学校 (コレッジ), 高等学校 (普通及び技術リセ) で上記の職務を担当することができる。一週間に受け持つ授業時間数はないが、週 39 時間の労働時間が定められている。

フランス全土で第一学年には 1,381 人が、第二学年には 444 人が在籍している。(1997/98 年度) また、第一学年在籍者の 76% が女性である。

この学習及び進路指導担当教員資格 (CPE) 取得のための試験は、一般的な教育に関する知識や経済、社会、文化などの一般教養に関する筆記試験の他、カウンセリングや教育指導、フランス教育制度などに関する専門的な試験が課されることとなっている。

(7) 私立学校中等教育教員資格 (CAFEP)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT PRIVE)

フランスにおいては、私立学校のみで教鞭を執ることができる資格として、私立学校中等教育教員資格 (CAFEP) を設けている。一般の学校教員資格は国公立を問わない教員資格であるのに対して、この私立学校教員資格を持つ教員は、私立の中学校 (コレージュ) 及び高等学校 (リセ) のみで教えることができるとされている。フランス全土で初等教育レベルで約 40,000 人、中等教育レベルで約 85,000 人が、私立学校 (主にカトリック系学校) で教鞭を執っている。

この私立学校中等教育教員資格 (CAFEP) 取得課程には、フランス全土で第一学年に 1,669 人が、第二学年には 457 人が在籍している。(1997/98 年度) また、第一学年在籍者の 84% が女性となっている。

(8) アグレジェ教員資格 (AGREGATION)

アグレジェ教員資格 (アグレガシオン, AGREGATION) とは、高等学校 (普通及び技術リセ) 及び高等教育第一課程 (大学第一課程, 大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT), リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS), グランゼコール準備課程 (CPGE) 等) における教授資格であり、最もレベルの高い教員資格となっている。アグレガシオン資格を持つ教員が高等学校で教える場合、一週間に受け持つ授業時間数は中等教育教員資格 (CAPES) を持つ教員よりも少なく、一般に 15 時間であるが、芸術及び体育科目担当教員に限り 17 時間となっている。また、給与も初任給で 15% 程度高くなっており、さらに経験年数が増えるに従って格差が 30% 程度まで拡大する。

このアグレガシオンに関しては、教員養成センター (IUFM) では国家試験のための準備教育を行っておらず、大学や高等師範学校 (ENS) で、または中等教育教員資格 (CAPES) 取得準備課程等で準備教育が行われている。フランス全土で第二学年に 1,271 人が在籍している。(1997/98 年度)

このアグレガシオン取得のための国家試験受験資格は、大学第二課程学位 (メトリーズ) または理工系ビジネス系等の専門高等教育機関修了学位、他の教員資格などとなっている。

このアグレガシオン教員資格試験は、フランス語及び数学等の一般教養に関する筆記試験、専門分野に関する筆記試験及び口頭試問となっている。1996/97年度の国家試験には21,379人が受験し、合格者は約2,260人と合格率は10.6%となっている。

この試験（コンクール，CONCOUR）には外部試験（CONCOURS EXTERNE）と内部試験（CONCOURS INTERNE）と呼ばれる二種類の試験が実施されている。外部試験は一定の学歴要件を満たすものは誰でも受験することの出来る試験となっており，一方内部試験は既に国家公務員（カテゴリーA，リサンス以上）として何らかの職（教育関係には限定されない。）に就いているものを対象とした試験となっている。

専門分野別には以下のように，文学などの一般科目から専門科目まで多様なものとなっている。また，中等教育教員資格（CAPES）では実施されない科目の文法，日本語，ポーランド語，工学系の各科目が実施されることや，「歴史・地理」「物理・化学」となっている科目がそれぞれ独立した科目となっていることなど，高等教育における教授資格を含むことから，より多様で高度な内容となっている。

表2-14：アグレジェ教員資格（AGREGATION）試験の実施状況（外部試験，1994年）

専攻分野		募集数	受験者数	合格者数
PHILOSOPHIE	哲学	87	955	87
LETTRES CLASSIQUES	古典文学	115	417	115
GRAMMAIRE	文法	15	58	15
LETTRES MODERNES	近現代文学	209	1,335	205
ALLEMAND	ドイツ語	92	414	60
ANGLAIS	英語	235	1,432	128
ARABE	アラビア語	5	28	4
CHINOIS	中国語	-	-	-
ESPAGNOL	スペイン語	72	502	72
HEBREU	ヘブライ語	1	3	1
ITALIEN	イタリア語	14	114	14
JAPONAIS	日本語	2	9	2
POLONAIS	ポーランド語	1	5	1
PORTUGAIS	ポルトガル語	4	25	3
RUSSE	ロシア語	2	13	2
GEOGRAPHIE	地理	50	361	50
HISTOIRE	歴史	171	2,373	171
SCIENCES SOCIALES	社会科学	49	334	49
MATHEMATIQUES	数学	484	2,085	416
PHYSIQUE	物理	247	989	160
CHIMIE	化学	87	679	83
PHYSIQUE APPLIQUEE	応用物理	99	368	50
SCIENCES NATURELLES	生物・地学	154	1,045	154
EDUCATION MUSICALE	音楽	59	133	20
ARTS PLASTIQUES	美術	48	366	48
EDUCATION PHYSIQUE ET SPORTIVE	体育	47	378	47

GENIE CIVIL	土木工学	63	102	34
MECANIQUE	機械	123	383	97
GENIE MECANIQUE	機械工学	101	278	61
GENIE ELECTRIQUE	電気工学	105	519	63
BIOCHIMIE - GENIE BIOLOGIQUE	生物化学工学	30	152	30
ECOMONIE ET GESTION	経済・会計	229	1,538	178
合計		3,000	17,393	2,420

(9) 農業リセ一般教育教員資格 (CAPESA)

及び農業リセ職業技術教育教員資格 (CAPETA)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT
SECONDAIRE AGRICOLE)

(CERTIFICAT D'APTITUDE AU PROFESSORAT DE L'ENSEIGNEMENT
TECHNIQUE AGRICOLE)

農務省が所管する農業リセ (LYCEE AGRICOLE) における各科目を担当する教員資格であり、一般教育科目を担当する「農業リセ一般教育教員資格 (CAPESA)」と農業分野の専門教育科目を担当する「農業リセ職業技術教育教員資格 (CAPETA)」がある。一週間に受け持つ授業時間数は、週 18 時間となっている。

これらの農業リセ教員資格試験の準備は、農務省が所管する農業リセ教員養成学校 (ENFA, ECOLE NATIONALE DE FORMATION AGRONOMIQUE) における一年間の課程で行われ、資格試験合格後は農業リセにおける試補教員としての実務研修を行うこととなる。

表 2-15 : 農業リセ教員資格 (CAPESA/CAPETA) 試験の実施状況

一般教育教員資格 (CAPESA)	LETTRES MODERNES (近代文学) HISTOIRE ET GEOGRAPHIE (歴史・地理) MATHEMATIQUES (数学) PHYSIQUE ET CHIMIE (物理・化学) BIOLOGIE, ECOLOGIE (生物学・生態学) SCIENCES ECONOMIQUES ET SOCIALES, GESTION (経済社会科学・会計学) LANGUES VIVANTES (外国語) EDUCATION SOCIOCULTURELLE, ANIMATION ET COMMUNICATION (文化・コミュニケーション) DOCUMENTATION (司書)
職業技術教育教員資格 (CAPETA)	SCIENCES ET TECHNOLOGIES AGRONOMIQUES ET DE L'ENVIRONNEMENT (農業科学及び環境科学) BIOCHIMIE, GENIE BIOLOGIQUE ET TECHNOLOGIE ALIMENTAIRE (生物化学・生物工学・農業技術) SCIENCES ET TECHNOLOGIE DES AGROEQUIPEMENTS, DES EQUIPEMENTS AGROALIMENTAIRES ET HYDRAULIQUES (農業生産機器操作及び乗馬・飼育)

第三章 短期の職業技術高等教育機関

一．短期の職業技術高等教育機関の概要

短期の職業技術高等教育機関とは、バカロレア取得後二年間の職業技術教育を施す高等教育機関であり、フランスの高等教育制度において、バカロレア資格取得後に進学する短期（二年間）の職業技術教育課程には、大学本体の第一課程である DEUST 以外に、大学に付属して設置されている IUT（INSTITUT UNIVERSITAIRE DE TECHNOLOGIE、大学付属職業技術教育短期大学課程）と、主なりセ（高等学校）に付属して設置されている STS（SECTION DE TECHNICIENS SUPERIEURS、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程）の二つの学校制度が並存している。一般的には、これらの二種類の学校は同等の教育レベルと職業技術教育を受けることができると考えられている。

なお、一般に短期の高等教育機関として考えられることもあるグランゼコール準備課程（CPGE）は、課程自体は主に二年間であるが、課程修了後には理工系やビジネス系、高等師範学校などの専門高等教育機関へ進学することを前提としており、長期課程の一部分とみることができる。また、進学するバカロレア取得者の意識や社会的な認識からも、グランゼコール準備課程（CPGE）を等しく短期の高等教育機関であるとみることが不適切であることから、専門高等教育機関の項で詳しくみることとする。さらには、バカロレア取得後二年間の課程で芸術分野の高等教育学位（DMA 等）もあるが、これらについても専門高等教育機関の項で扱うこととする。

大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）と、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）は、卒業後に直接就職することを目的として、職業技術教育を行うと同時に、卒業後さらに上位の高等教育を受けることのできる資格を付与している。この二つの教育機関は、教育課程の期間がそれぞれ二年間と等しく、また教育内容に関しても、職業技術教育や企業での実習など非常に似通っている。全体的に言えば、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）では 100 種類を超える細かい専門分野（そのうち約四分の一は農業分野）別の修了証が用意されているのに対して、職業技術教育短期大学課程（IUT）では 23 種類と、やや汎用的な専門分野別の学位となっている。

これら二つの短期の職業技術高等教育機関の大きな違いとしては、課程修了後の進学状況が挙げられることが多い。大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）では、やや汎用的な範囲の専門教育を行っていることから、課程修了後に大学第二課程や理工系ビジネス系などの専門高等教育機関へ進学する学生が約六割となっており、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）の約四割より高くなっている。

二．大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）

INSTITUT UNIVERSITAIRE DE TECHNOLOGIE

大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT, INSTITUT UNIVERSITAIRE DE TECHNOLOGIE）は、1966年に設立された制度で、大学に付属して設置されている二年一貫の職業技術教育課程であり、バカロレア取得後の学生を対象としている。1996/97年度のバカロレア取得者の進学先状況を見ると、普通バカロレア取得者のうち6.9%が、技術バカロレア取得者の10.5%が、職業バカロレア取得者の0.8%がこの大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）へと進学している（バカロレア取得者全体では8.5%）。主に技術バカロレア取得者のためと考えられることが多いが、実際には大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）の入学者の65.8%は普通バカロレアの取得者となっている。1996/97年度の大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）在籍者数は、約109,000人（第二次産業系コース50,000人、第三次産業系コース59,000人）となっており、1991/92年度の在籍者数約79,000人と比較すると、約1.4倍と大きな伸びを示している。

この大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）への入学には、原則として希望専攻分野に対応するバカロレアを取得していることが必要であり、さらに高等学校時代の成績（及び調査書）による選抜が課せられている。入学の際の平均的な競争率で10倍程度となっているが、学校間での差が激しく、大量の願書が寄せられる学校もあれば、それほどでもないところもあるのが現状である。

1996年には、全国で94校の大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）があり、第二次産業と第三次産業の23の専攻コース（第二学年では46専攻）が設置されている。教育方法は、卒業生がすみやかに産業界に入っていけることを目指して設定されており、実務的実践的な内容が主体となっている。

大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）修了によりDUT（DIPLOME UNIVERSITAIRE DE TECHNOLOGIE, 職業技術基礎教育学位）という学位を取得する。1995年のDUT取得者数は37,000人となっている。（参考：DEUG取得者数130,000人、BTS取得者数76,000人）このDUTは、DEUG等と同様に大学の第一課程修了相当と見なされており、修了後に大学第二課程等へ進学することも認められている。このDUTを取得するためには、二年間で合計1,600時間から2,000時間の教育を受けることとされており、授業時間全体の半分は少人数制による実験や企業等の現場での実習となっている。

教育課程の内容では、他の職業技術教育課程と同様に、フランス語や外国語、数学や物理（専攻コースにより異なる）などの一般教養教育に加えて、職業技術教育分野で教室における理論学習と実際的な訓練を併せて行っている。この課程は、大学内にありながら大学本体とは大きく異なり、一週間30時間から35時間の長い授業時間が設定されている。さらに、学校が長い休みになる時期には、インターンシップ（企業等における実地研修）

が設定されており（六週間から八週間で義務となっているが、実際にはより長い期間が一般的で、かつ人気が高い。）、八週間から十二週間の実地研修の他、休み中にも多くの課題が課されている。

この大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）では、大学等の高等教育機関の教員とともに、産業界からその管理職が教員として教育に携わっている。リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）との違いとして、大学の付属機関として設置されていることから、国外の大学への留学機会や国際交流などの点で比較的自由であることも挙げられる。

同課程の修了時には、最終筆記試験は課されていないが、教員による評価と口頭試問が課されている。教員による評価は、年間を通じて実施される各種の試験や、休み中に行ったインターンシップのレポートなどが対象となっている。また、入学者のうち、約八割の学生が職業技術基礎教育学位（DUT）を取得しており、課程の修了率は大学第一課程（修了率は約六割）に比べて非常に高いものとなっている。

さらに、二年以上の高等教育を受けたものを対象に職業技術訓練を施す課程（ANNEE POST PREMIER CYCLE, ANNEE SPECIALE）が設定されており、主に大学第一課程を修了したものが就職に必要な職業技術教育を受けるために編入している。この課程の修了によっても DUT の学位が取得できる。これは、一旦大学の第一課程に進学して修了したものの、それだけでは就職できず、改めて専門的な職業技術を習得することを目的とした学生を対象としているといえる。

二年間の大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）修了後の進学状況を見ると、課程修了者の 60% がさらに上位の学校（大学、理工系及びビジネス系専門高等教育機関等）へ進学している。このことは、本来二年間の短期職業技術教育を受けて社会に出るコースと考えられていたものが、大学に比較してきめ細やかな教育を施すこの課程（IUT）への評価が高まるとともに、これを經由してさらに上位の学校を目指すという、いわば一つの過程として IUT が認識されつつあることがいえる。現在では、大学本体の第一課程（DEUG）課程の大教室授業や教師との関係の薄さなどを嫌った一部の優秀な学生までが、IUT 課程修了後に大学第二課程等へ進学することを前提としながら入学する傾向があるといわれており、本来の短期教育課程の意味合いが薄れつつあることが指摘されている。

一方、課程終了後さらに専門領域について学ぶことを希望する学生に対応することを目的として、一年間の課程の DNTS（DIPLOME NATIONAL DE TECHNOLOGIE SPECIALISEE）課程が 1995 年に設立された。これは、大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）またはリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）の修了後にさらに教員の指導を受けながら、年間 450 時間の企業実習を行うというものである。入学は面接と、場合によっては試験が実施されることもある。現在第二次産業分野で 35 校、第三次産業分野で 14 校にこの DNST 課程が設定されている。また、これ以外にも DTA（DIPLOME DE TECHNOLOGIE APPLIQUEE）、DUTA（DIPLOME UNIVERSITAIRE DE TECHNOLOGIE APPROFONDIE）、DU（DIPLOME UNIVERSITAIRE）、DEST（DIPLOME D'ETUDES SUPERIEURES TECHNOLOGIQUES）など、各学校が独自に認定する各種の修了証・学位が授与されるコースも数多く設定されている。

この大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）では、次の表に示すような専攻分野別のコースが設定されている。専攻分野別の学生数や学校数では、第二次産業分野では電気工学や機械工学に多くの学生が集まっており、また第三次産業分野では経営管理・会計や商業の専攻コースの学生数が多くなっている。さらに女子学生比率をみると、一般的に第二次産業分野では女子の比率が低くなっており、わずか18.6%となっている。一方、第三次産業分野では全体で53.5%と女子の比率が高い。

表3-1：職業技術教育短期大学課程の専攻分野別の学校数と在籍学生数（1996/97年度）

	専攻分野	学校数	学生数
第二次産業分野	農学・応用生物学 BIOLOGIQUE APPLIQUEE	33	5,400
	化学 CHIMIE	21	3,644
	化学工学 GENIE CHIMIQUE	8	873
	土木工学 GENIE CIVIL	20	4,107
	電気工学 GENIE ELECTRIQUE	51	11,322
	機械工学 GENIE MECANIQUE	44	8,600
	熱工学 GENIE THERMIQUE	15	1,698
	保健衛生学 HYGIENE ET SECURITE	5	874
	計測工学 MESURES PHYSIQUES	32	5,484
	整備工学 MAINTENANCE INDUSTRIELLE	24	2,629
	生産管理工学 ORGANISATION ET GENIE DE LA PRODUCTION	19	1,588
	物質科学工学 SCIENCES, GENIE DES MATERIAUX	5	349
	情報通信工学 GENIE DES TELECOMMUNICATIONS	17	1,715
	第二次産業分野小計	294	48,283
第三次産業分野	経営管理・会計 GESTION DES ENTERPRISES	72	19,849
	情報・コミュニケーション INFORMATION - COMMUNICATION	18	3,714
	法律実務 CARRIERES JURIDIQUES	9	1,897
	情報技術 INFORMATIQUE	41	7,695
	社会福祉 CARRIERES SOCIALES	9	1,927
	統計 STATISTIQUES	8	1,259
	商業 TECHNIQUES DE COMMERCIALISATION	69	17,019
	運輸 GESTION LOGISTIQUE ET TRANSPORT	19	2,771
	情報ネットワーク SERVICE, RESEAUX DES COMMUNICATIONS	6	554
	経営管理 GESTION ADMINISTRATIVE ET COMMERCIALE	4	462
	第三次産業分野小計	255	57,149
合計	(海外県及び海外領土を除く)	549	105,432

三. リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)

SECTION DE TECHNICIENS SUPERIEURS

高級技術者養成短期高等教育課程 (STS, SECTION DE TECHNICIENS SUPERIEURS) は、国立及び私立のリセに付属して設置されている修業年限二年の短期高等教育課程である。この課程は、バカロレア取得者に対して高等教育レベルの職業技術教育を行うことを目的として設立されており、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) とその目的を同じくしているが、大きな違いとして、同課程が中等教育の延長として設置されていることが挙げられる。すなわち、授業は中等教育と同じような小規模教室型の授業を中心としており、教師と学生のコミュニケーションが密接であることを特徴としている。

課程修了時には、BTS (BREVET DE TECHNICIEN SUPERIEUR, 高級技術者認定証) という資格認定証を取得する。この BTS 資格は二年間の高等教育学位であり、大学第一課程学位と同レベルのものと考えられている。この課程への入学には、リセ時代の成績や願書等による選抜が課せられており、学校及びコースによっては筆記による試験や面接を行うところもある。入学者の 55.4% は技術バカロレア取得者であり、入学者の 65.8% を普通バカロレア取得者が占める大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) に比べて、本来の短期の高等教育の職業教育課程という色彩を強く残しているといえる。入学希望者の平均的な競争率は三倍前後となっており、中でも国立の STS は私立のそれと比較して、入学が難しいものとなっている。

このリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) の在籍者 (1996/97 年度) は、約 236,000 人となっており、高等教育機関全体の在籍者の 10.9% を占めている。また、専攻分野別では、第二次産業系コースに約 90,000 人、第三次産業系コースに約 146,000 人が在籍している。1995 年には、BTS (BREVET DE TECHNICIEN SUPERIEUR) 資格認定証が 76,715 人に授与されている。

1996 年には、技術バカロレア取得者の 46.3% がこのリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) へと進学しており、特に工業系技術バカロレア (BAC STI) の取得者は、その三分の二が STS へと進んでいる (大学へは一割弱程度。)。また、サービス産業系技術バカロレア (BAC STT) の取得者では、約半数強が STS へ、約三分の一が大学へと進学している。

この課程の一週間の平均的な授業時間は、32 時間から 35 時間となっており、中等教育などと同様の長い授業時間を設定している。第一学年においては、授業時間の半分が一般教養科目に割り当てられており、残りの半分は、実験や指導プロジェクトなどの職業技術教育科目となっている。また、第一学年の課程から工場や企業等での実習が予定されていることも高い評価を得ている。さらに第二学年では授業時間数全体の約三分の二が職業技術教育に割り当てられている。同課程の修了時には課題学習に関する報告書 (PROJET D'ETUDES, 一種の卒業論文に相当するもので、市場調査や広告の作成、試作品の製作な

どが代表的なものである。)の発表が必要であると同時に、BTS 資格の取得のための最終的な試験では、一つの実技試験を含む六種類の試験に合格しなければならないとされている。課程修了者の入学者に対する割合は、国立機関で 73%，教育学術省の認定 (RECONNU) を受けている私立機関で 67%，それ以外の私立機関で 43%となっている。

二年間の課程修了後の進学率を見ると、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) の修了者の 60%がさらに上位の学校 (大学、理工系専門高等教育機関、ビジネス系専門高等教育機関等)へ進学しているのに対して、このリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) の修了者の進学率は 40%となっている。このことは、STS の課程が、より実際的なもので、学術的な専門教育の基礎とはなっていないことを示しているが、それでも半数弱の卒業生が進学していることを考えると、本来の同課程の「短期の高等職業技術教育を施し、卒業後は社会に出る」という目的から離れているとも指摘されている。

この BTS 資格は、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) で授与される DUT 学位に比較して、より専門的な狭い領域の資格となっており、教育学術省の所管する機関で授与されるものとしては 100 分野以上の細かい分類がなされている。さらにそれら以外に農務省が所管する BTSA (BREVET DE TECHNICIEN SUPERIEUR AGRICOLE) といわれる農業分野の 15 の資格が設定されている。

表 3-2 : 高級技術者養成短期高等教育課程の専攻分野

	産業分野	専攻
第二次産業分野	農業	BTS: 農業機器 (AGROEQUIPEMENT) など 3 専攻 BTSA: 15 専攻
	保健衛生 土木建築・エネルギー 物理・化学・生物 物質・金属 繊維 機械・生産機械・精密機械 電気・電子 整備 情報技術	保健・衛生・環境 1 専攻 建築資材、家庭内情報システム、内装など 14 専攻 水質関連、生物化学、塗料など 11 専攻 危険物取扱、紙加工品など 9 専攻 木綿加工品、絹加工品、織物など 5 専攻 エンジニア補助、自動車修理など 8 専攻 電気、電子など 3 専攻 機械整備、自動車整備など 3 専攻 産業情報システム、経営情報システムの 2 専攻
第三次産業分野	商業・サービス・旅行 会計・経営管理・法律 情報・コミュニケーション 美術工芸 医療サービス	商業実務、購買、観光サービス、ホテルなど 9 専攻 簿記、保険業、不動産業など 6 専攻 企業情報システム、音響映像、写真など 4 専攻 インテリアデザイン、陶器、デザインなど 12 専攻 臨床検査、カウンセリング、眼鏡など 7 専攻

第四章 專門高等教育機関

フランスにおいては、大学及び大学に付属する高等教育機関、短期の職業技術高等教育機関である大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）及びリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）以外に、それぞれ入学資格や設立目的、教育課程を異にする多数の専門高等教育機関が存在している。大きく分類すると、専門高等教育機関としては理工系機関（ECOLE D'INGENIEUR）とビジネス系機関（ECOLE DE COMMERCE）が二つの大きなグループを形成しているが、これら以外にも、高等師範学校、政治学院、建築学校、芸術系専門高等教育機関、獣医師学校など、独特の教育課程・制度を持つ学校群が存在している。これらの専門高等教育機関の在籍者は全体で約 360,000 人（高等教育在籍者合計の 17%、1996/97 年度。以下同じ。）、内訳は理工系が最も多く約 79,000 人（3.7%）、ビジネス系が約 47,000 人（2.2%）となっている。

また、これらの専門高等教育機関への入学試験に向けた教育を行う、グランゼコール準備課程（CPGE）と呼ばれる課程があり、主にリセに付属している。このグランゼコール準備課程（CPGE）の在籍者は約 79,000 人（3.7%）である。

表 4 - 1 : 専門高等教育機関別在籍者 (1996/97 年度)

	在籍人数 (人)	比率 (%)
グランゼコール準備課程 (CPGE)	78,839	3.7%
理工系専門高等教育機関 (ECOLE D'INGENIEUR)	79,286	3.7%
ビジネス系専門高等教育機関 (ECOLE DE COMMERCE)	47,293	2.2%
高等師範学校 (ENS)	3,065	0.1%
建築学校 (ECOLE D'ARCHITECTURE)	18,787	0.9%
獣医師学校 (ENV)	2,080	0.0%
芸術系専門高等教育機関	28,473	1.3%
医療周辺領域系専門高等教育機関 (看護婦学校等)	69,262	3.2%
社会福祉系専門高等教育機関	17,041	0.8%
その他の高等教育機関 (公務員養成機関・ジャーナリズム・文芸系学校等)	23,185	1.1%
専門高等教育機関小計	367,311	17.0%
大学等を含む高等教育機関合計	2,155,950	100.0%

一. グランゼコール (GRANDES ECOLES)

フランスの高等教育制度において、一般的に「グランゼコール」とは大学以外の高等教育機関であると説明されるが、この定義は正確であるとはいえない。例えば、芸術系の専門高等教育機関である国立の各地方音楽院は大学とは異なる文化省所管の専門高等教育機関であるが、これを指して「グランゼコールである」とはいいがたい。また「グランゼコール」を「大学校」と訳することもあるが、日本で一般にいわれている「大学校」とは社会の位置づけが大きく異なっている。(日本における大学校とは、文部省以外の各省庁が所管する機関であり、気象大学校や防衛大学校のように高校卒業生を対象に四年間の教育訓練を行うところもあれば、警察大学校や税務大学校のように公務員を訓練する一種の職業訓練施設もある。)また、「高等専門学校」という訳も見受けられるが、日本の「高等専門学校」とは大きく異なるものである。そこで、それぞれの専門高等教育機関の制度を細かくみる前にまず、「グランゼコールとは何か」ということについて一定の定義を与えておきたい。

フランスで「グランゼコール」という場合には、大きく二つの意味があると考えることができる。

一つは「選抜試験を課す、prestigeの高い大学レベルの教育を行う学校」(教育学術省)であり、大学と並存する高等教育機関の制度及び各学校を指す、広い意味での「グランゼコール」である。(この定義によれば、芸術系専門高等教育機関のうち、パリ及びリヨンの高等音楽院やパリの高等美術学校なども「グランゼコール」に含まれることとなるが、地方音楽院などは含まれないとされている。)また、1969年に設立されたグランゼコール協議会(CONFERENCE DES GRANDES ECOLES)に加盟している学校数は、1997年に理工系が130校、ビジネス系が28校、その他高等師範学校や獣医師学校等が17校となっている。同協議会によると、「毎年20,000人がフランス産業界の管理職候補としてグランゼコールから巣立っている。」という。

もう一つは、フランス全土で数校の「偉大な(GRANDE)な専門高等教育機関」というものであり、こちらは非常に狭い意味での「グランゼコール」となる。これらのグランゼコールをいう場合、(真のという意味で)「ヴレモン・グランゼコール」や「グラン・グランゼコール」といういい方をすることもある。この意味におけるグランゼコールに含まれるものは、非常に少なく、理工系及びビジネス系の専門高等教育機関、高等師範学校を合計しても10校から15校ぐらいと考えられる。

以下は、これらの「グラン・グランゼコール」に如何なる学校が含まれるのかを概観し、その全体像の把握を試みたものであるが、教育内容や設置形態などによって明確に定義することは不可能であり、学校名の羅列に留まるものである。しかしながら、このことは同時に、「グラン・グランゼコール」というべきものの範囲が流動的で、一概に規定することが難しいことの証左であることを示しているものと考えられる。

(1) 理工系グランゼコール

理工系のグランゼコールとして一般に認められているのは以下の11校(特に上位三校)であり、これらの学校の卒業生は、官界産業界などでの管理職として特別な地位が与えられている。フランスにおいては、学歴のみならず、卒業した学校によって入社時のポストや給料などの待遇が大きく異なっているが、これら理工系グランゼコールの卒業生は、最も優遇された条件が与えられるのが通例である。これらの各校の卒業に際しては、卒業生は国営企業やフランスを代表する大企業、官公庁等に数多く採用されている。

1. *ECOLE POLYTECHNIQUE (X)* : エコール・ポリテクニク

1794年に設立された、国防省(陸軍)が所管する陸軍の技術系士官養成学校であり、「陸軍理工科学学校」と訳する。しかし、現在では卒業後に各省庁や民間企業へ就職するものがほとんどとなっており、卒業後引き続き軍務につくのは一割以下である。ここでは、入学と同時に一年間の軍務に就くこととされており、実際の教育は第二学年から始められることとなる。実質的な教育は二年間しかないことから、卒業後に他の専門高等教育機関で学ぶ学生も多くみられる。理工系グランゼコールの中では第一の地位を占めると考えられている。入学に際しては、筆記試験、面接(口頭試問)の他、運動能力の試験も実施される。

このエコール・ポリテクニク(通称ポリテク)は、いわば理工系グランゼコールの頂点にあるものであることは、多くが認めるところであり、その在學生及び卒業生をポリテクニシャンあるいはXit(イクジット)と呼んで特別視しているところがある。

「ポリテクニク」という言葉から連想されるように、また、陸軍の技術士官学校として成立してきたその経緯から、一般に工学系教育中心と考えられているが、その教育課程は主に理論的なもので、物理や数学といった科目が非常に重視されており、人文科学や社会科学系科目も教授されている。また、体育にも週6時間が割かれている。

エコール・ポリテクニクに在学する生徒は学生身分の国家公務員であり、毎月約9,000フランの給料を受ける。第一学年への入学者数は約400人。

2. *ECOLE CENTRALE DES ARTS ET MANUFACTURES (CENTRALE PARIS)* : セントラル・パリ

教育学術省所管、「中央理工科学学校」と訳される。1829年設立。第一学年への入学者数は約350人。セントラル・パリはあらゆる産業分野において高度な技術を有するエンジニアや技術系官僚、学術研究者などを養成することを目的とした高等教育機関であり、最終学年においては卒業後の進路に合わせたいくつかのコースに分かれて教育が行われる。入学の判定に際して国籍を一切考慮に入れないとされており、フランスの国籍を有していない場合の差別はなく、外国人受験者に対する特別

な入学枠なども設定されていない。このセントラル・パリの在學生及び卒業生は「セントラリアン」と呼ばれる。

3. *ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES MINES DE PARIS (MINES DE PARIS)* : ミーヌ・パリ

経済財政産業省が所管，「鉱山技師学校」と訳されるが，実際に鉱山技師になるものではなく（エルフなどの石油会社に入社するケースはある），卒業後は主に産業界へ進む。教育課程は理工系全般となっており，一部ビジネススクールのなところもみられる。1783年設立。第一学年への入学者数は約100人。

4. *ECOLE NATIONALE DES PONTS ET CHAUSSEES (PONTS ET CHAUSSEES)* : ポン・ゼ・ショセ

運輸建設省が所管，「土木学校」と訳されるが，実際はかなり一般的な理工系教育を行っており，卒業後は産業界や諸官庁に進む。グランゼコールの中で最も長い歴史を持っており，1747年の設立。第一学年への入学者数は約100人。

5. *ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES TELECOMMUNICATIONS (TELECOM PARIS)* : テレコム・パリ

経済財政産業省が所管する情報技術系グランゼコールで，1878年の設立。第一学年への入学者数は約130人。

6. *ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES TECHNIQUES AVANCEES (ENSTA)* : ENSTA

国防省が所管する理工系グランゼコール。設立は1970年と新しい。第一学年への入学者数は約100人。

7. *ECOLE SUPERIEURE D'ELECTRICITE (ESE SUPELEC)* : スープレック

私立の理工系グランゼコール。1894年の設立。第一学年への入学者数は約300人。

8. *ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DE L'AERONAUTIQUE ET DE L'ESPACE (SUP'AERO)* : スーブ・エアロ

国防省所管，航空機産業分野の教育を主体としており，1909年の設立。第一学年の入学者数は約150人。

9. *ECOLE SUPERIEURE D'OPTIQUE (SUP'OPTIQUE)* : スーブ・オプティック

私立の理工系グランゼコール。光学分野の教育を主体としており，1920年の設立。第一学年の入学者数は約50人。

10. *INSTITUT NATIONAL AGRONOMIQUE PARIS-GRIGNON (INA-PG)* : グリニャン

農務省が所管する農業系グランゼコール。バイオテクノロジー関係に強い。1876年の設立。第一学年への入学者数は約230人。

さらに純粋なエンジニア養成のための理工系グランゼコールではないが、高等師範学校（ENS）ウルム／セーブル校の理工系コースも高い評価を受けている。第一学年への入学者数は約 90 人となっている。（詳細は「高等師範学校」の項参照。）

これらの 11 校の一年間の入学者数（二年間のグランゼコール準備課程等の後に入学する学生数）は、合計してもわずかに約 2000 人である。これは、フランスにおける一学年あたりの平均人口 70 万人のわずか 0.3% である。（参考までに日本における東京大学の工学部、理学部、農学部的一年間の入学定員は三学部合計で 1,648 人となっている。）

(2) ビジネス系グランゼコール

ビジネス系のグランゼコールとしては、パリ及びパリ近郊に位置する次の三校とリヨン高等商業学院が該当すると考えられている。これらのビジネス系グランゼコールの卒業生もまた理工系のそれと同様に、特に企業の管理職候補として高い初任給を獲得するといわれている。

1. *ECOLE DES HAUTES ETUDES COMMERCIALES (HEC)* : アッシュ・ウー・セー。「高等商業学院」と訳される。第一学年への入学者数は約 400 人。
2. *ECOLE SUPERIEURE DES SCIENCES ECONOMIQUES ET COMMERCIALES (ESSEC)* : エセック。「経済商業高等教育学院」第一学年への入学者数は約 400 人。
3. *ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE PARIS (ESCP)* : ウー・エス・セー・ペー。「パリ高等商業学院」第一学年への入学者数は約 330 人。
4. *ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE LYON (ESC Lyon, EM LYON)* : 「リヨン高等商業学院」第一学年への入学者数は約 250 人。

これらの四つのビジネス系グランゼコールの入学者数（1997 年）合計は、約 1,400 人となっており、これはフランスの一学年あたりの平均人口約 70 万人のわずか 0.2% である。

(3) 高等師範学校（*ECOLE NORMALE SUPERIEURE, ENS*）

以上のような理工系及びビジネス系のグランゼコールの他に、人文科学及び社会科学系の専門高等教育機関として、高等師範学校のウルム／セーブル校とフォントネー／サン・クルー校の社会及び人文科学系のコースがあり、これもグランゼコールであると考えられる。このコースへの入学者数は以下のようにになっている。

1. *ECOLE NORMALE SUPERIEURE* : 高等師範学校ウルム／セーブル校。社会及び人文科学系コースの第一学年への入学者数は約 100 人。
2. *ECOLE NORMALE SUPERIEURE DE FONTENAY-SAINT-CLOUD* : 高等師範学校フォントネー／サン・クルー校。社会及び人文科学系コースの第一学年への入学者数は約 120 人。

これらの二つの学校の一年間の入学者数合計は約 220 人である。

厳密な意味において「GRANDE」（偉大な）といわれるような学校＝グランゼコールとしては、これらの数校のみが挙げられると考えられる。すなわち、国立私立の別や理工系ビジネス系を問わず、産業界や官界における上級管理職・上級研究者を養成するという目的に適合した課程を有し、優秀な人材（教員及び学生）を集め、高いレベルの教育を施すという機関としては、これらが真の「グランゼコール」であるといえるものと思われる。

また、これらの「グランゼコール」では、その学校名に関わらず、教養教育が重視されていることがその特徴である。例えば、ミーヌ・パリであるが、パリ鉱山技師学校とも訳されるこのグランゼコールでは、教育課程においてはいわゆる技術技能よりも、理論的なものや、さらにはビジネススクールの経営管理や法律までも学ぶことになるのである。名称に残る「鉱山技師」を目指している学生はいないといってもよいぐらい、鉱山技術教育からは離れた教育課程となっている。

さらに、上記に挙げたような一般的な意味での「グランゼコール」とは若干外れるが、国立行政学院（ENA）及びパリ政治学院（IEP PARIS または SCIENCE PO）や国立古文書学校（ECOLE NATIONALE DES CHARTES）、国立高等美術学校（ECOLE NATIONALE DES BEAUX-ARTS）、国立高等音楽院（CONSERVATOIRE NATIONAL SUPERIEUR DE MUSIQUE ET DE DANSE）なども、それぞれの専門分野におけるトップクラスの学生を集めており、「グラン・グランゼコール」に含めていわれる場合もある。

二. グランゼコール準備課程 (CPGE)

CLASS PREPARATOIRE DES GRANDES ECOLES

グランゼコール準備課程は、リセを卒業しバカロレアを取得した後に進学する、一般に二年制（獣医師学校に進学することを目的とした課程は一年間）の高等教育課程であり、「ブレパ」と呼ばれる。この課程の目標は、修了後に理工系あるいはビジネス系の専門高等教育機関や高等師範学校などへの入学試験（CONCOUR, コンクール）の準備をすることにある。このグランゼコール準備課程を経ずにバカロレア取得直後に入学できる専門高等教育機関も存在しているが、特にグランゼコールと呼ばれる一部の専門高等教育機関の場合には、準備課程に入らなければ受験資格さえも与えられないか、与えられても非常に狭き門となっている。

これらの課程への入学は、高校時代の成績やバカロレアの評価、調査表、面接などによる厳しい選抜によって行われる。特にグランゼコールと呼ばれる一部の専門高等教育機関への進学者を多く輩出している、名門高等学校（リセ）のグランゼコール準備課程への入学は非常に厳しく、「受験戦争」とも呼ばれるような状況に近いものとなっている。

これらのグランゼコール準備課程は、理工系（CLASS PREPARATOIRE SCIENTIFIQUE）とビジネス系（CLASS PREPARATOIRE ECONOMIQUES ET COMMERCIALES）、人文及び社会科学系（CLASS PREPARATOIRE LITTERAIRES）の三つに分類することができる。主に理工系課程では理工系専門高等教育機関の、ビジネス系課程ではビジネス系専門高等教育機関の入学試験のための準備をすることとなっている。また人文及び社会科学系課程は、高等師範学校や国立古文書学校、政治学院などの専門高等教育機関入学のための試験に向けた課程となっている。

1 理工系グランゼコール準備課程

(CLASS PREPARATOIRE SCIENTIFIQUE)

グランゼコール準備課程の大部分を占める理工系グランゼコール準備課程は、数学課程、農業化学課程、獣医師学校進学課程、技術教育課程の四つに分けられる。

(1) 数学課程

数学系のグランゼコール準備課程は、自然科学系普通バカロレア（BAC S）の取得者を対象とした課程で、第一学年を上級数学課程（MATH SUPERIEURE）と呼んで三コース、第二学年を特別数学課程（MATH SPECIALE）と呼んで四コースに細分化している。

まず、第一学年（上級数学課程，MATH SUPERIEURE）は，その専攻分野に従って数学物理上級課程，物理化学上級課程，物理技術上級課程の三コースに分かれている。また，この課程（及びそれに在籍する生徒）のことを通称で，イポトウパン（HYPOTAUPIN）という。

第二学年（特別数学課程，MATH SPECIALE）では，第一学年と同様に数学物理特別課程，物理化学特別課程，物理技術特別課程があり，さらに第一学年の各コース（主には物理化学上級課程）から進学する物理及びエンジニアリング特別課程が設置されている。この課程（及びそれに在籍する生徒）のことは，通称でトウパン（TAUPIN）という。

表4-2：理工系グランゼコール準備課程数学系コース

第一学年：上級数学課程 イポトウパン (HYPOTAUPIN)	第二学年：特別数学課程 トウパン (TAUPIN)
数学物理上級課程 (MPSI) (MATHEMATIQUES, PHYSIQUE ET SCIENCES DE L'INGENIEUR)	→数学物理特別課程 (MATHEMATIQUES ET PHYSIQUE, MP)
物理化学上級課程 (PCSI) (PHYSIQUE, CHIMIE ET SCIENCES DE L'INGENIEUR) (物理エンジニアリング特別課程にのみ進学する工業技術専修課程というものもおかれている場合がある。)	→物理化学特別課程 (PHYSIQUE ET CHIMIE, PC)
物理技術上級課程 (PTSI) (PHYSIQUE, TECHNOLOGIQUE ET SCIENCES DE L'INGENIEUR)	→物理技術特別課程 (PHYSIQUE ET TECHNOLOGIQUE, PT)
(上記の各上級課程)	→物理エンジニアリング特別課程 (PHYSIQUE ET SCIENCES DE L'INGENIEUR, PSI)

これらの数学課程の各コース別に，前項で述べたグランゼコールへの入学定員をみると，以下のようになっている。これによると，数学物理コースと物理化学コースからの入学定員の割合が非常に大きくなっており，これらの二つのコース，特に数学物理コースに優秀な生徒が集まることが指摘されている。

表4-3：理工系グランゼコール数学課程コース別入学定員

	数学課程				その他	
	MP 数学物理	PC 物理化学	PT 物理技術	PSI 物理エンジニアリング	TSI 工業技術	その他・大学等
X	190	180	-	-	0-1	-
CENTRALE PARIS	160	85	10	65	6	Licence 20
MINES DE PARIS	45	21	4	18	0-2	Licence/DNTS

PONTS ET CHAUSSEES	30-40	16-24	0-1	16-24	0-1	-
TELECOM PARIS	50-66	22-28	0-1	22-28	1-5	MT
ENSTA	34-42	34-42	3-7	3-7	0-5	MT
SUPELEC	110	110	7	40	4	DUT/DEUG 17
SUP'AERO	40-60	30-50	2-5	10-25	0-5	-
SUP'OPTIQUE	19	20	2	8	1	DUT/BTS
INA-PG	BCPST (農業系グランゼコール準備課程) 180, DEUG 20, DUT/BTS/BTSA 7					

－数学物理コース (MATHEMATIQUES - PHYSIQUE, MP)

数学物理上級課程 (第一学年, MPSI) 及び数学物理特別課程 (第二学年, MP*/MP)

理工系グランゼコールの中でも、最も優秀な生徒が集まるとされるコースで、フランス全土で、第一学年に相当する上級課程は 159 校に設置されている。第二学年に相当する特別課程は、さらに「グランゼコール」と呼ばれるトップレベルの数校を目指すもの (MP* : MP エトワール) が 51 校と、それ以外のもの (MP) が 108 校に設置されている。

また、第二学年には下記の物理エンジニアリング特別課程へ進む学生も見られる。

教育課程については、以下のように数学に最も重点が置かれており、全授業時間数の三分の一以上を占めており、次いで物理が重視されている。

表 4 - 4 : 数学物理コースの授業科目・時間数

	第一学年		第二学年
	第一学期	第二学期以降	
数学	1 2 時間	1 2 時間	1 2 時間
物理	6 時間	6 時間	7 時間
化学	2 時間	2 時間	2 時間
工業技術 (SCIENCES INDUSTRIELLES)	2 時間	2 時間または 4 時間	2 時間
情報 (INFORMATIQUE)	1 時間	1 時間	1 時間
フランス語・哲学	2 時間	2 時間	2 時間
外国語 I	2 時間	2 時間	2 時間
体育	2 時間	2 時間	2 時間
個人研究	—	2 時間	2 時間

注 : 情報については、選択により第一学年の第二学期以降 3 時間とすることができる。但し、その場合には工業技術科目の授業は 2 時間減となる。

－物理化学コース (PHYSIQUE - CHIMIE, PC)

物理化学上級課程 (第一学年, PCSI) 及び物理化学特別課程 (第二学年, PC*/PC)

フランス全土で、第一学年に相当する上級課程は 139 校に設置されている。第二学年に相当する特別課程は、さらに「グランゼコール」と呼ばれるトップレベルの数校を目

指すもの (PC* : PC エトワール) が 62 校と、それ以外のもの (PC) が 77 校に設置されている。

また、1997 年には新たに物理化学コースの工業技術専修課程が設置された。これは自然科学系普通バカロレアの工業技術専攻を取得した学生を対象としたもので、第二学年は下記の物理エンジニアリング特別数学課程へ進むこととされている。

教育課程は、数学物理コース (MP) と同様に数学に最も重点が置かれているが、物理及び化学の比重がやや高くなっている。

表 4 - 5 : 物理化学コースの授業科目・時間数

	第一学年		第二学年
	第一学期	第二学期以降	
数学	10 時間	10 時間	9 時間
物理	8 時間	8 時間	8.5 時間
化学	4 時間	4 時間	5.5 時間
工業技術 (SCIENCES INDUSTRIELLES)	4 時間	—	—
情報 (INFORMATIQUE)	1 時間	1 時間	1 時間
フランス語・哲学	2 時間	2 時間	2 時間
外国語 I	2 時間	2 時間	2 時間
体育	2 時間	2 時間	2 時間
個人研究	—	2 時間	2 時間

注：化学については、工業技術専修課程の場合には第一学年の第二学期以降 2 時間となり、代わりに工業技術が 4 時間となる。また、第二外国語 (週 2 時間) を選択することもできる。

— 物理技術コース (PHYSIQUE - TECHNOLOGIE, PT)

物理技術上級課程 (第一学年, PTSI) 及び物理技術特別課程 (第二学年, PT*/PT)

この物理技術コースは、フランス全土で、第一学年に相当する上級課程は 73 校に設置されている。第二学年に相当する特別課程は、さらに「グランゼコール」と呼ばれるトップレベルの数校を目指すもの (PT*) が 16 校と、それ以外のもの (PT) が 57 校に設置されている。

教育課程の特徴として、数学重視は他の数学課程と同様であるが、工業技術の比率が数学に次いで高くなっていることが挙げられる。

表 4 - 6 : 物理技術コースの授業科目・時間数

	第一学年		第二学年
	第一学期	第二学期以降	
数学	9 時間	9 時間	9 時間
物理	6 時間	6 時間	6 時間
化学	2 時間	2 時間	2 時間

工業技術 (SCIENCES INDUSTRIELLES)	8 時間	8 時間	8 時間
情報 (INFORMATIQUE)	1 時間	1 時間	1 時間
フランス語・哲学	2 時間	2 時間	2 時間
外国語 I	2 時間	2 時間	2 時間
体育	2 時間	2 時間	2 時間
個人研究	—	2 時間	2 時間

注：数学については、物理エンジニアリング特別課程 (PSI) へ進学する場合には、第一学年の第二学期以降は週一時間多い週 10 時間となる。工業技術については、リセの最終学年で工業技術を履修していない場合には、第一学年では週 10 時間となる。また、第二外国語 (週 2 時間) を選択することもできる。

—物理エンジニアリングコース (PHYSIQUE ET SCIENCES DE L'INGENIEUR, PSI)

物理エンジニアリング特別課程 (第二学年のみ, PSI/PSI*)

数学系の理工系グランゼコール準備課程の中で、最も新しく設置された課程である。

第二学年に相当する特別数学課程だけがあり、この物理エンジニアリング特別課程には、第一学年の各上級数学課程から入学することになる。また、1997 年に新たに設置された、物理化学コースの工業技術専修課程 (自然科学系普通バカロレアの工業技術専攻を取得した学生を対象とする。) からは、自動的にこの物理エンジニアリング特別数学課程へ進むこととされている。

表 4-7 : 物理エンジニアリングコースの授業科目・時間数

	第二学年
数学	10 時間
物理	7.5 時間
化学	2.5 時間
工業技術 (SCIENCES INDUSTRIELLES)	4 時間
情報 (INFORMATIQUE)	1 時間
フランス語・哲学	2 時間
外国語 I	2 時間
体育	2 時間
個人研究	2 時間

注：第二外国語 (週 2 時間) を選択することもできる。

これらの理工系グランゼコール準備課程においては入学時点のみならず、入学後でも競争が激しく、全体で、約 15% の学生が第一学年から第二学年に進級できずに退学している。その場合には、上級数学課程修了後に編入を認めている理工系専門高等教育機関へ進むか、大学第一課程の第二学年編入、大学付属の職業技術専門教育課程 (IUP) へ入学するなど、いくつかの道が残されている。また、それらの編入試験に通らなかった場合には、新たに

大学第一課程の第一学年や大学付属職業技術短期大学課程（IUT）やりせ付属の高級技術者養成短期高等教育課程（STS）に入学し直すなどが必要となる。

(2) 農業化学課程 (BIOLOGIE, CHIMIE, PHSIQUE ET SCIENCES DE LA TERRE, BCPST)

農業化学課程（BCPST）は、自然科学系普通バカロレア（BAC S）取得者を対象としたもので、準備課程修了後に農業系の専門高等教育機関への進学を目指すための課程である。フランス全土で47校に同課程が設置されている。

表4-8：農業化学課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
数学	8時間	7時間
物理	4時間	4時間
化学	3時間	3.5時間
生物 (SCIENCES BIOLOGIQUES ET DE LA TERRE)	8時間	6.5時間
情報 (INFORMATIQUE)	0.5時間	—
フランス語・哲学	2時間	2時間
外国語 I	2時間	2時間
地理	—	1.5時間
体育	2時間	2時間
個人研究	1時間	2.5時間

注：第二外国語（週2時間）を選択することもできる。

(3) 獣医師学校進学課程 (CLASSE PREPARATOIRE “VETO”)

獣医師学校進学課程は、自然科学系普通バカロレア（BAC S）取得者を対象としたもので、課程修了後に獣医師学校（ECOLE VETERINAIRE）への入学試験への準備をする課程である。この課程は、他のグランゼコール準備課程とは異なり、一年間の準備課程である。

この課程への入学には、毎年約1600人が入学を希望し、約三割の450人が入学を許されている。また、女子比率が59%と高いのもこの課程の特徴である。

教育課程の内容では、生物及び物理化学がそれぞれ全体の授業時間数の三分の一を占めており、獣医学分野の基礎的な教育という色彩が強いものとなっている。

表4-9：獣医師学校進学課程の授業科目・時間数

	第一学年
生物 (BIOLOGIE)	12時間
物理化学	12時間
数学	3時間

フランス語・哲学	2時間
外国語Ⅰ	2時間
体育	2時間

(4) 技術教育課程 (CLASSE PREPARATOIRE TECHNOLOGIQUE)

理工系グランゼコール準備課程において、数学課程の各コースや農業化学課程、獣医師学校進学課程が自然科学系普通バカロレア (BAC S) 取得者を対象としているのに対して、技術教育課程の各コースは技術バカロレア (BAC STI/STL) 取得者を対象にした課程となっている。この技術教育課程には、工業系技術バカロレア取得者を対象とした「産業科学技術コース」(TSI) と、化学系技術バカロレア取得者を対象とした「物理化学技術コース」(TPC)、「生物化学技術コース」(TB) がある。

－産業科学技術コース (TECHNOLOGIE ET SCIENCES INDUSTRIELLES, TSI)

工業系技術バカロレア (BAC STI) 取得者及び化学系技術バカロレア (BAC STL) 工業系物理専攻コース取得者を対象としたもので、フランス全土で 28 校に設置されており、合計 1500 人が在籍している。このコースは女子の比率が 6% と極めて低くなっているのもその特徴である。

表 4-10 : 産業科学技術コースの授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
数学	10時間	10時間
物理	6 または 7 時間	6 時間
化学	2 時間	2 時間
電気工学	3.5 または 4.5 時間	3.5 時間
機械工学	3.5 または 4.5 時間	3.5 時間
情報 (INFORMATIQUE)	1 時間	1 時間
フランス語・哲学	2 時間	2 時間
外国語Ⅰ	2 時間	2 時間
体育	2 時間	2 時間
個人研究	2 時間	2 時間

注：物理，電気工学，機械工学の時間数はリセ最終学年での履修状況により異なる。

－物理化学技術コース (TECHNOLOGIE, PHYSIQUE ET CHIMIE, TPC)

化学系技術バカロレア (BAC STL) の工業系物理コースまたは工業系化学コース取得者を対象としたコースで、原則として課程修了後に化学学校 (ECOLE DE CHIMIE) へ進学する学生を対象にする。パリとグルノーブル，トゥールーズの三校にのみ設置されており、合計約 130 人が在籍している。

表 4 - 1 1 : 物理化学技術コースの授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
数学	10時間	10時間
物理及び物理技術 (PHYSIQUE ET TECHNOLOGIE PHYSIQUE)	8時間	6時間
化学及び化学技術 (CHIMIE ET TECHNOLOGIE CHIMIQUE)	7時間	6.5時間
情報 (INFORMATIQUE)	1時間	1時間
フランス語・哲学	2時間	2時間
外国語	2時間	2時間
体育	2時間	2時間
個人研究	2時間	2時間

①-生物化学技術コース (TECHNOLOGIE ET BIOLOGIE, TB)

生物化学技術コースは、化学系技術バカロレア (BAC STL) の生物化学・生物工学コースを取得したものを対象としており、課程修了後に農業化学課程 (BCPST) と同様に農業系の専門高等教育機関への進学を目指している。同様に、農業系技術バカロレア (BAC STPA/STAE) の取得者も一部受け入れている。

(5) その他の理工系課程

以上の他、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) とリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) の修了者を対象としたグランゼコール準備課程も一部に設置されている。これらは、ATS (ANNEES PREPARATOIRES SPECIALES POUR TECHNICIEN SUPERIEUR) といわれており、教育課程の期間は一年間となっている。専攻分野別に以下の二つのコースがある。

①-工業技術コース (TECHNOLOGIE INDUSTRIELLE)

第二次産業系の DUT/BTS を取得した学生を対象としており、フランス全土で 17 校に置かれている。

①-生物化学コース (BIOLOGIE)

生物化学分野の DUT/BTS/BTSA を取得した学生を対象としており、フランス全土で 11 校に置かれている。

2 ビジネス系グランゼコール準備課程

(CLASSE PREPARATOIRE ECONOMIQUES ET COMMERCIALES)

ビジネス系グランゼコール準備課程は、理工系グランゼコール準備課程と並んで、グランゼコール準備課程の大きな部分を占めており、従来、高等商業教育準備課程 (PREPA HEC, HAUT ENSEIGNEMENT COMMERCIAL) といわれていた一年間のものが、制度改正により二年間への延長されたものである。

このビジネス系グランゼコール準備課程は、大きく専攻分野別に三つに分類することが出来る。(但し、大部分のビジネス系グランゼコール準備課程在籍者は、理数課程と考えることができる。)

(1) 理数課程 (FILIERE SCIENTIFIQUE)

理工系グランゼコール準備課程と同様に、ビジネス系グランゼコール準備課程でも数学の能力を非常に重視している。この理数課程は一般課程 (GENERALE) と呼ばれることもあり、ビジネス系グランゼコール準備課程在籍者の約半数を占めている。特にグランゼコールと呼ばれるトップレベルの数校への入学者の約八割がこの理数課程の出身者となっている。この理数課程はフランス全土で 118 校に設置されている。

この理数課程への入学は、原則として自然科学系普通バカロレア (BAC S) 取得者とされており、入学者の 97% を占めている。社会科学系普通バカロレア (BAC ES) の取得者の場合には、「数学専修コース (BAC ES - MATH)」の成績優秀者に限って入学を認めているが、全体の入学者のわずか 2% となっている。

教育課程の内容では、数学及び情報科目に重点が置かれているが、「文化及び人文科学」、「二つの外国語」、「歴史、地理及び経済」にも、それぞれ週六時間が割かれており、ビジネス系の専門高等教育機関で学習する分野の基礎的な知識を取得することになる。

表 4 - 1 2 : 理数課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
数学及び情報 (MATH ET INFORMATIQUE)	9 時間	9 時間
文化及び人文科学 (CULTURE ET SCIENCES HUMAINES)	6 時間	6 時間
外国語 I	3 時間	3 時間
外国語 II	3 時間	3 時間
歴史、地理及び経済 (HISTOIRE ET GEO, ECONOMIQUES)	6 時間	6 時間
体育	2 時間	2 時間

(2) 経済課程 (FILIERE ECONOMIQUE)

経済課程への入学は、原則として社会科学系普通バカロレア (BAC ES) 取得者とされており、入学者の91%を占めている。人文科学系普通バカロレア (BAC L) の取得者の場合には、「数学専修コース (BAC L - MATH)」の成績優秀者に限って入学を認めており、入学者の5.5%となっている。この経済課程はフランス全土で99校に置かれている。

教育課程は、理数課程と同様に数学及び情報科目に重点が置かれている (週八時間) が、「文化及び人文科学」、「二つの外国語」、「経済分析及び現代史」にも、それぞれ週六時間が割かれている。

表4-13：経済課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
数学及び情報 (MATH ET INFORMATIQUE)	8時間	8時間
文化及び人文学 (CULTURE ET SCIENCES HUMAINES)	6時間	6時間
外国語 I	3時間	3時間
外国語 II	3時間	3時間
経済分析及び現代史 (ANALYSE ECONOMIQUE ET HISTOIRE DE SOCIETES CONTEMPORAINES)	6時間	6時間
経済	2時間	2時間
体育	2時間	2時間

(3) 技術課程 (FILIERE TECHNOLOGIQUE)

技術課程への入学は、理数課程や経済課程と異なり、サービス産業系技術バカロレア (BAC STT) 取得者とされている。この技術課程は、ビジネス系グランゼコール準備課程在籍者のわずか6%、約600人が在籍するものとなっており、フランス全土で22校に置かれている。

教育課程は、理数課程や経済課程と異なり、「二つの外国語」に合計週九時間が割かれており、合計の授業時間も他の課程よりも4時間から5時間多くなっている。これは、リセ (高等学校) の技術バカロレア取得課程が主に短期の職業技術高等教育機関への進学に対応するものであり、基礎的学習を補う必要があるとされているためであると考えられる。

この技術課程からビジネス系専門高等教育機関への進学は非常に困難であるとされており、特にグランゼコールと呼ばれる上位校 (HEC, ESSEC, ESCP, EM LYON) では、この技術課程からの学生を受け入れていないのが実状となっている。

表4-14：経済課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
数学及び情報 (MATH ET INFORMATIQUE)	6時間	6時間
文化及び人文学 (CULTURE ET SCIENCES HUMAINES)	6時間	6時間

外国語 I	4 時間	4 時間
外国語 II	5 時間	4 時間
経済	4 時間	4 時間
会計及び情報 (TECHNIQUE DE GESTION ET INFORMATIQUE)	4 時間	4 時間
法律 (DROIT)	3 時間	3 時間
体育	2 時間	2 時間

(4) 高等師範学校カシャン校経済及び社会科学コース進学課程 (PREPA ENS CACHAN D)

以上のようなビジネス系グランゼコール準備課程とならんで、高等師範学校カシャン校の経済及び社会科学コース (D コース) への進学準備のための準備課程も置かれている。

高等師範学校カシャン校の経済及び社会科学コースには、企業組織及び管理専攻 (D1, ORGANISATION ET ADMINISTRATION DES ENTREPRISES) と経営学及び会計学専攻 (D2, GESTION DES ENTREPRISES ET DES COLLECTIVITES), 社会科学専攻 (D3, SCIENCES SOCIALES) の三つのコースが置かれているが、社会科学専攻へは下記の人文及び社会科学系グランゼコール準備課程から進むことになっている。

この高等師範学校カシャン校経済及び社会科学コース進学課程には、バカロレア取得直後に入学する二年間のものと、大学第一課程等で二年間の教育を受けたものを対象とする一年間のものがある。

二年課程への入学資格は、原則として自然科学系及び社会科学系の普通バカロレア (BAC S/ES) 取得者となっているが、人文科学系普通バカロレア (BAC L) やサービス産業系の技術バカロレア (BAC STT) からも若干名を受け入れている。二年課程はフランス全土で 12 校におかれている。

一年課程への入学資格は、大学第一課程 (DEUG), 大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT), リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) 等で二年間の高等教育を受けたものとなっており、この一年課程はフランス全土で 7 校に設置されている。

3 人文及び社会科学系グランゼコール準備課程

(CLASSE PREPARATOIRE LITTERAIRES)

人文科学及び社会科学系の高等教育は、大学においてなされることが主流となっていることから、あまり人文及び社会科学系グランゼコール準備課程の学校数は多くはない。また、在籍する学生数も二学年合計で 10,600 人 (1995/96 年度) と、グランゼコール準備課程全体の 13.9% を占めるのみであり、少ないものとなっている。

人文及び社会科学系グランゼコール準備課程には、高等師範学校（ウルム／セーブル校とフォントネー／サン・クルー校）の人文コース及び社会科学系コースや国立古文書学校、陸軍士官学校人文コース、政治学院などへの進学を希望する学生がフランス全土より集まっており、これらの専門高等教育機関別に細かく分類されたコース設定がなされている。この課程では、伝統的に第一学年のことを「イポカーニュ（HYPOKHAGNE）」、第二学年のことを「カーニュ（KHAGNE）」と呼ぶこととされており、第一学年は五コース、第二学年は六コースに分かれている。

但し、高等師範学校や国立古文書学校等の専門校等教育機関の入学定員は非常に限られており、準備課程に在籍する学生の一部だけしか入学することができない。その場合、各専門高等教育機関への入学を果たせなかった学生は、引き続き大学第二課程に編入したり、1995年以降認められるようになったビジネス系専門高等教育機関への進学をする学生も多くみられる。

表4-15：人文及び社会科学系グランゼコール準備課程

第一学年：(LETTRES SUPERIEUR) イポカーニュ (HYPOKHAGNE)	第二学年：(PREMIERE SUPERIEUR) カーニュ (KHAGNE)
高等師範学校人文コース進学課程 (LETTRES SUPERIEUR)	→フォントネー／サン・クルー校進学課程 (PREMIERE SUPERIEUR ENS FONTENAY-ST-CLOUD) →ウルム／セーブル校人文コース進学課程 (PREMIERE SUPERIEUR ENS A/L) →国立古文書学校進学課程 (Bコース) (PREMIERE SUPERIEUR ENS A/L OPTION CHARTES B)
政治学院進学特別課程 (LETTRES SUPERIEUR OPTION SCIENCES PO)	(一年課程)
高等師範学校ウルム／セーブル校社会科学 コース進学課程 (LETTRES SUPERIEUR B/L)	→同左 (PREMIERE SUPERIEUR ENS B/L)
陸軍士官学校人文コース進学課程 (LETTRES SUPERIEUR SAINT-CYR)	→同左 (PREMIERE SUPERIEUR SAINT-CYR)
国立古文書学校進学課程 (Aコース) (LETTRES SUPERIEUR CHARTES)	→同左 (PREMIERE SUPERIEUR CHARTES)

(1) 高等師範学校人文コース進学課程 (LETTRES SUPERIEUR)

人文及び社会科学系グランゼコール準備課程の中で、最も多くの学生が所属している課程であり、フランス全土に四校しかない高等師範学校の中でも、さらに優秀な学生が集まるウルム／セーブル校人文コースとフォントネー／サン・クルー校、あるいはラテン語及び古代ギリシャ語古文書の専門家を養成する国立古文書学校への入学準備をするための課程となっている。第一学年は共通で、第二学年に進学するに際して、以下の三コースに分かれることになる。第一学年と第二学年合計の在籍者数は1995年に約8,900人と、人文及び社会科学系グランゼコール準備課程在籍者の大部分がこの高等師範学校人文コース進学

課程の学生となっている。第一学年を設置している学校はフランス全土で 87 校となっている。

1. 高等師範学校フォントネー／サン・クルー校進学課程
(PREMIERE SUPERIEUR ENS FONTENAY-SAINT-CLOUD)

課程修了後に高等師範学校フォントネー／サン・クルー校の各専攻分野（文学，言語学，人文科学，経済社会科学の四専攻）を目指す学生を対象とした課程である。この課程の第二学年に在籍する学生数はフランス全土の 51 校に 2,200 人（1995 年）となっており，そのほとんどが高等師範学校フォントネー／サン・クルー校への入学試験を受験する。（1996 年の入学試験受験者数は各専攻合計で 2,082 人，最終合格者数はわずか 6% の 115 人となっている。また，各専攻別では以下のようになっており，どの専攻分野でも非常に厳しい入学試験となっている。）

表 4 - 1 6 : 各専攻別入学試験受験者数及び最終合格者数 (1996 年)

	受験者数	最終合格者数
LETTRES (文学)	759	36
LANGUES (言語学)	522	36
SCIENCES HUMAINES (人文学)	801	38
SCIENCES ECONOMIQUE ET SOCIALES (経済社会科学)	200	5

2. 高等師範学校ウルム／セーブル校人文コース進学課程 (PREMIERE SUPERIEUR ENS A/L)

同課程は，高等師範学校の中でも最も長い歴史をもち，非常に社会的評価の高いウルム／セーブル校の人文コースへの入学を目指す課程となっており，在籍者数は 31 校に約 1,200 人（1995 年，下の国立古文書学校進学課程 A コースを含む）である。課程修了後には，その大部分の 1,005 人が高等師範学校ウルム／セーブル校人文コースの入学試験を受験（1996 年），合格者はわずか 75 人となっている。

3. 国立古文書学校進学課程 B コース (PREMIERE SUPERIEUR ENS A/L OPTION CHARTES B)

同課程は，課程修了後，国立古文書学校への入学試験 B への準備をする課程であり，フランス全土で 7 校に設置されている。（国立古文書学校進学課程の項参照。）

これらの各準備課程で授業科目は以下の通りであり，歴史や哲学など人文科学分野の基礎的な科目に重点が置かれている。

表 4 - 1 7 : 高等師範学校人文コース進学課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年	
		ウルム／セ ーブル校人 文コース進 学課程及び 古文書学校 進学課程	フォントネー／サン・クル ー校進学課程
必修科目			
フランス語	5 時間	4 時間	5 時間
歴史	5 時間	—	2 時間
現代史	—	4 時間	—
哲学	4 時間	6 時間	4 時間
外国語 I	4 時間	3 時間	2 時間
ラテン語またはギリシャ語	—	4 時間	—
地理	2 時間	—	2 時間
体育	2 時間	2 時間	2 時間
選択科目 (1 科目選択)			
哲学	—	3 時間	6 時間
フランス語	—	3 時間	—
ラテン語	5 時間	5 時間	—
基礎ラテン語	4 時間	—	—
ギリシャ語	4 時間	4 時間	—
基礎ギリシャ語	4 時間	—	—
外国語 I	3 時間	3 時間	9 時間
外国語 II	4 時間	6 時間	—
古代史	—	2 時間	—
歴史文献解釈	—	3 時間	—
地理	2 時間	4 時間	—
造形芸術	6 時間	6 時間	—
音楽	6 時間	6 時間	—
古典言語 (ラテン語・ギリシャ語)	—	—	8 時間 (4 時間・4 時間)
現代言語 (仏語・ラテン語または外国語)	—	—	8 時間 (6 時間・2 時間)
歴史地理 (歴史・地理)	—	—	8 時間 (4 時間・4 時間)

(2) 政治学院進学特別課程 (LETTRES SUPERIEUR OPTION SCIENCES PO)

課程修了後に政治学院 (IEP, INSTITUT D'ETUDES POLITIQUES あるいは SCIENCES PO) の第一学年への入学を目指す一年間の準備課程である。フランス全土で九校設置されている政治学院は、バカロレア取得直後及びこの特別課程を経たものを対象に第一学年への入学試験を実施している。上記の高等師範学校人文コース進学課程第一学年に併せて、フランス全土で 61 校に設置されている特別課程であり、週四時間から六時間のフランス語、哲学、歴史地理、外国語などの追加必修科目が設定されている。(政治学院には、この政

治学院進学特別課程からだけでなく、ビジネス系グランゼコール準備課程や私立の塾のようなどころから入学する学生も多い。）

(3) 高等師範学校ウルム／セーブル校社会科学コース進学課程 (LETTRES/PREMIERE SUPERIEUR B/L)

修了後に高等師範学校ウルム／セーブル校の社会科学系コースを希望する学生を対象とした課程であり、人文科学コースとは異なり数学や社会科学が必修となっているのに対し、ラテン語や古代ギリシャ語が選択科目となっている。この課程への入学者は、自然科学系普通バカロレア (BAC S) 取得者が 53% と最も多く、次いで社会科学系普通バカロレア (BAC ES, 24%) 取得者、人文科学系普通バカロレア (BAC L, 21%) 取得者となっている。この課程への二学年合計の在籍者数は 1995 年で 17 校に 1,100 人となっている。

同課程修了後の学生が目指す高等師範学校ウルム／セーブル校社会科学コースへの入学試験受験者数は 1996 年に 306 人、最終合格者はわずか 21 人となっている。また、高等師範学校フォントネー／サン・クルー校の経済社会科学コース (SCIENCES ECONOMIQUES ET SOCIALES) でも若干名を同課程から受け入れている。

表 4-18 : 高等師範学校ウルム／セーブル校社会科学コース進学課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
必修科目		
フランス語	4 時間	4 時間
歴史	4 時間	4 時間
哲学	4 時間	4 時間
外国語	2 時間	2 時間
社会科学	4 時間	4 時間
数学	4 時間	5 時間
体育	2 時間	2 時間
選択科目 (1 科目選択)		
ラテン語	3 時間	3 時間
ギリシャ語	3 時間	3 時間
外国語	4 時間	4 時間
地理	3 時間	3 時間
社会科学	2 時間	2 時間

注：人文科学系及び社会科学系普通バカロレアを取得している生徒の場合には、数学補習が上記に加えて週一時間半必修となっている

(4) 陸軍士官学校人文コース進学課程 (LETTRES/PREMIERE SUPERIEUR SAINT-CYR)

修了後に、陸軍士官学校 (ECOLE SPECIALE MILITAIRE SAINT-CYR) の人文コースへ進学を希望する学生を対象とした課程であり、フランス全土で 6 校に設置されており、二学年合計で約 500 人の学生が在籍している。陸軍士官学校人文コースへの入学試験 (1996

年)は、225人が受験し、最終合格者は56人となっている。この課程では陸軍士官学校の入学試験に対応して授業が設定されており、選択科目はない。

表4-19：陸軍士官学校人文コース進学課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
必修科目		
フランス語	6時間	5時間
歴史	5時間	5時間
地理	5時間	5時間
外国語Ⅰ	6時間	6時間
外国語Ⅱ	4時間	4時間
数学	3時間	4時間
体育	2時間	2時間

注：人文科学系及び社会科学系普通バカロレアを取得している生徒の場合には、数学補習が上記に加えて週一時間半必修となっている

(5) 国立古文書学校進学課程 (LETTRES/PREMIERE SUPERIEUR CHARTES)

課程修了後にラテン語及び古代ギリシャ語の古文書に関する専門家を養成する国立古文書学校へ進学を希望する学生を対象にした課程であり、フランス全土で四校に設置されている。在籍者数は二学年合計でわずか220人となっている。国立古文書学校への入学試験は、この課程を経て受験するA試験と上記の高等師範学校進学課程に設定されたコースを経て受験するB試験があるが、1996年の入学試験にはAB両試験合計で156人が受験、最終合格者はわずか30人と非常に厳しい選抜となっている。授業科目は歴史及びラテン語に重点が置かれており、以下の他ギリシャ語が任意に設定されていることもある。

表4-20：国立古文書学校進学課程の授業科目・時間数

	第一学年	第二学年
必修科目		
フランス語	2時間	4時間
ラテン語	6時間	5時間
歴史	10時間	10時間
外国語Ⅰ	2時間	2時間
体育	2時間	2時間

(6) 高等師範学校カシャン校進学課程 (PREPA ENS CACHAN C/D3/E)

以上のような人文及び社会科学系グランゼコール準備課程とならんで、高等師範学校カシャン校芸術及びデザインコースへの進学準備のための準備課程も置かれている。

－高等師範学校カシャン校芸術及びデザインコース進学課程 (PREPA ENS CACHAN C)

高等師範学校カシャン校の芸術及びデザイン (ART APPLIQUES) コースへの入学準備をする課程であり、フランス全土で3校に設置されている。

－高等師範学校カシャン校外国語コース進学課程 (PREPA ENS CACHAN E)

高等師範学校カシャン校の外国語 (LANGUES ETRANGERES) コースへの入学準備をする課程であり、フランス全土で3校に設置されている。また、この外国語コースでは、他の高等師範学校人文及び社会科学コース進学課程からも学生を受け入れている。

また、経済及び社会科学コース社会科学専攻 (D3, SCIENSES SOCIALES) へは、上記の高等師範学校進学課程から入学することとなっている。

三．理工系専門高等教育機関

ECOLE D'INGENIEUR

理工系専門高等教育機関（ECOLE D'INGENIEUR）は、大学を中心とした高等教育システムの外側にあつて、しかも大きな地位を占めている。この理工系専門高等教育機関はフランス全土で 238 校が設置されており、その設立形態は国公立（170 校）または私立（68 校）であり、国公立のものはさらに大学に付属する機関（92 校）と独立の機関（78 校）に分類される。

1996/97 年度に理工系専門高等教育機関に在籍する学生数は 76,841 人となっており、そのうち 24,839 人が大学付属の国立機関に、33,009 人が大学付属以外の国公立機関に、18,993 人が私立機関に在籍している。また、所管する省庁別では、教育学術省が所管する大学付属以外の機関には 19,807 人（32 校）が、その他の省庁が所管するものには 13,202 人（合計 46 校。うち農務省 3,635 人、国防省 3,572 人、経済財政産業省 2,653 人、郵便及び情報通信省 1,630 人など）が在籍している。

この理工系専門高等教育機関には、第四章の一でみたように社会的に高い評価を受けている「グランゼコール」が含まれているが、その 11 校に限らず、多くの学校がフランス全土の優秀な学生を集めているといわれる。

これらの理工系専門高等教育機関の課程修了後には各教育機関が発行する修了証（DIPLOME DE ECOLE）の他に、教育学術省に設置されているエンジニア称号委員会（CTL, COMMISSION DES TITRES INGENIEURS）の認定を受けたエンジニア学位が授与される。フランスにおいて、「エンジニア」は一種の学位・称号であるとされており、この委員会の認定を受けない限り「エンジニア」を名乗ることは許されない。1995/96 年度には、フランス全土で 22,689 人にこのエンジニア学位が授与されている。（また、前述した IUP（大学付属職業技術専門教育課程）の卒業時には「エンジニア・メトル学位」（INGENIEUR-MAITRE）が授与されるが、これは「エンジニア」よりも一段低い学位・称号とされており、二年間の職務経験の後にはじめて「エンジニア」称号を取得できるとされている。）

これらの理工系専門高等教育機関は、しばしば各省庁や公企業、民間の大手企業において管理職（カードル）層を形成し、これらの一部の卒業生のみがトップマネジメントへの参加資格であるように捉えられてきた。実際にも、各企業における採用の段階から教育レベル（大卒か専門高等教育機関卒か）による区別のみならず、学校毎に細かく分かれた採用・配属が一般化しており、グランゼコールと呼ばれるいくつかの学校の卒業生は、入社時から管理職候補として高い地位と高収入を保障されることが多い。このような学歴による区別は、大学及び大学に付属する教育機関における教育レベルの向上などによって、少しずつ是正されてきているというものの、現在でも両者の間には高い壁が存在しているよ

うである。これらの過度の選抜主義の是正に向けて、近年様々な教育課程を有する多くの専門高等教育機関が設立されている。

1 理工系専門高等教育機関の分類

理工系専門高等教育機関を教育課程に着目して分類すると、伝統的な教室における理論的教育を中心としたものと、近年新たに設立された主に企業等での実習を中心としたものに分類される。

伝統的な教室における理論的教育を中心とした理工系専門高等教育機関とは、バカロレア取得後五年間の高等教育を経てエンジニア称号を得る教育課程である。この五年間の教育課程は、大きく前期二年間の理工系の基礎的な知識や考え方を学ぶ課程と、後期三年間の専門高等教育課程（合計教育時間 3,000 時間）に分けられる。前期二年間はグランゼコール準備課程や大学第一課程等でなされる場合や、五年制一貫の学校ではおいては、それぞれの専門分野に応じた理工系の専門知識の習得、実際の技術的な訓練、外国語や経済に関する学習、コンピュータ等の情報機器の活用法、人的資源活用、企業や研究所等での職業実務研修と卒業論文や卒業研究の実施などが予定されている。

一方、企業等での実習に重点を置いた理工系専門高等教育機関も、バカロレア取得後五年間の高等教育を経てエンジニア称号を得る教育課程であるが、五年課程の場合には最後の三年間に長期の実務研修が予定されており、そのために理論的学習は当初の二年間に集約されている。

これらの理工系専門高等教育機関は、以下のような四つのタイプに分類することができる。

タイプ A：理工系グランゼコール準備課程を経て入学する三年制のもの。

タイプ B：大学等（DEUG, DUT, BTS）を経て入学する三年制のもの。

タイプ C：バカロレア取得後すぐに入学する五年制のもの。

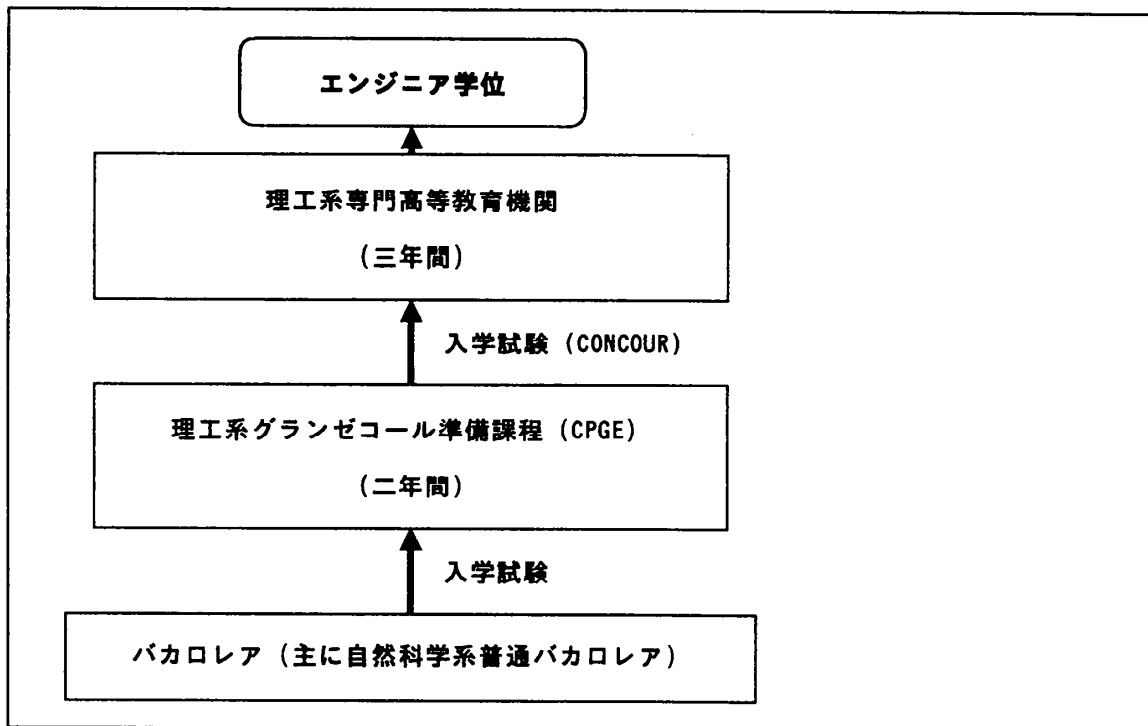
タイプ D：新エンジニアリング教育課程（三年または五年）。

これらのタイプ別の分類においては、教育機関によっては、主にグランゼコール準備課程を経て入学する生徒が大半であるが、大学等からも一部の生徒が入学してくるなど、両者の性格を持つものも多くある。また、後期三年間の課程の第二学年に、大学においてリサンス（LICENCE）やメトリーズ（MAITRISE）の後に編入する場合などもあり、明確に分類することは不可能である。

(1) タイプ A : 理工系グランゼコール準備課程を経て入学する三年課程

二年間の理工系グランゼコール準備課程の後に実施される競争試験を経て入学するもので、理工系専門高等教育機関に約半数がこのタイプとなっている。上述した理工系グランゼコール（グラン・グランゼコール）11校はすべてこのタイプAに含まれる。

図4-1 : タイプ A



入学に際しては、いくつかの学校が集まってグループを形成し、それぞれ独自の競争試験を実施している。グループには、8校からなるミーヌ/ポン（Mines/Ponts）、7校のセントラル/スープレック（Centrale/Supélec）、37校（物理系23校、化学系14校）のポリテクニック（Polytechnique）などがある。1992年にはこの課程から10,337人がエンジニア称号を取得している。（60.7%）

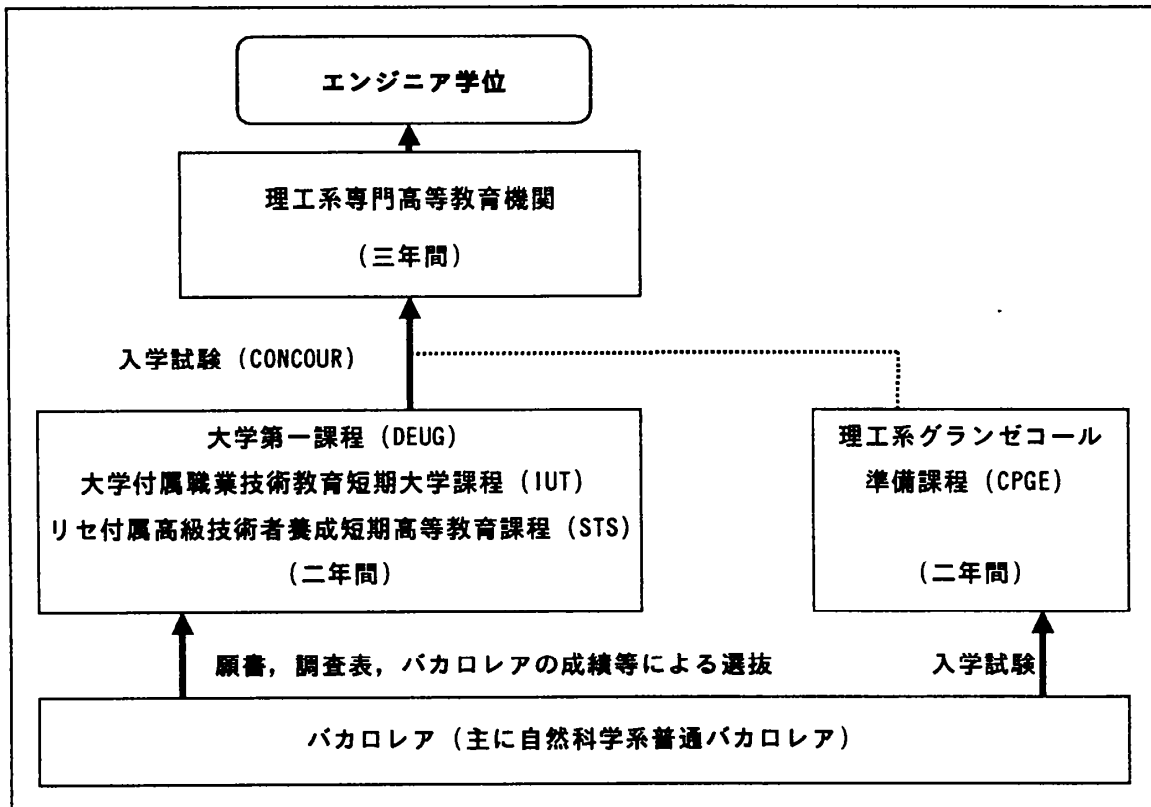
(2) タイプ B : 大学等（DEUG,DUT,BTS）を経て入学する三年課程

大学の第一課程（DEUG）や大学付属の短期職業技術教育課程（IUT）、リセ付属の高級技術者養成短期高等教育課程（STS）において二年間の高等教育を受けたのちに入学するもので、約四分の一の理工系専門高等教育機関がこのタイプになる。これらのほとんどは、大学が設置主体となっているものである。これらの学校への入学には、大学第一課程等における成績や入学志望理由、面接などが課せられているが、選抜は非常に厳しく、大学第一課程等において優秀な成績を修めることは必要条件であると考えられている。

また、これらの学校では、グランゼコール準備課程を修了した生徒も受け入れているが、その場合他の理工系専門高等教育機関の筆記試験に合格していることなどを条件とすることが多い。

1992年には1,622人がこのタイプからエンジニア称号を取得している。

図4-2：タイプB



(3) タイプC：バカロレア取得後入学する五年間一貫課程

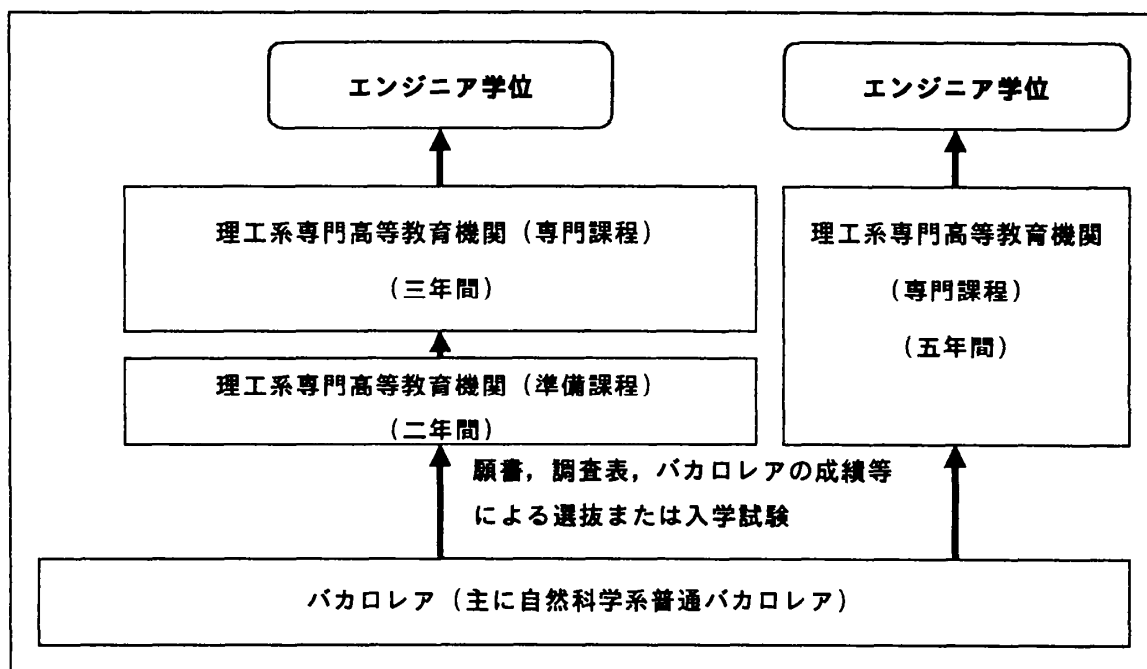
1995年1月において、フランス全土で50校の専門高等教育機関がバカロレア取得直後の学生を受け入れている。このタイプの理工系専門高等教育機関は、ドイツの技術大学と類似した課程であると考えられている。このタイプの長所として、五年間のすべてを各自の専門分野のための教育にあてることができることと、専門高等教育機関への入学競争試験のための受験勉強をしなくて済むことなどが挙げられる。

これらの学校の入学に際しては、いくつかの学校がグループを形成し、共通の試験を実施している。入学願書（及びリセでの成績）により選抜をする INSA や競争試験を課す ENI, schools of FESIC などのグループがある。ENI では、自然科学系普通バカロレア取得者からだけでなく、工業系などの技術バカロレアの取得者からも入学者を受け入れている。

教育課程は五年間となっているが、五年間を前期二年間（FESIC では二年間の準備課程，INSA では一年間の準備課程と一年間のオリエンテーション課程）と後期三年間の課程に分けるものや，五年制一貫のもの（ENI, ESIEE）がある。

1992 年には 5,067 人がこのタイプの学校からエンジニア称号を得ている。

図 4-3 : タイプ C



(4) タイプ D : 新エンジニア教育課程 (三年または五年) (NFI)

新エンジニア教育課程 (NFI, Nouvelles Formations d'Ingénieurs) は、1990 年に設立された新しいエンジニア養成課程であり、従来の教室における理論的学習を中心とした教育課程に対して、技術面でのトレーニングに主軸をおいたものとなっている。この課程では、長期間の企業等における実務研修が特徴となっており、それに対応した短期間の理論的学習が準備されている。

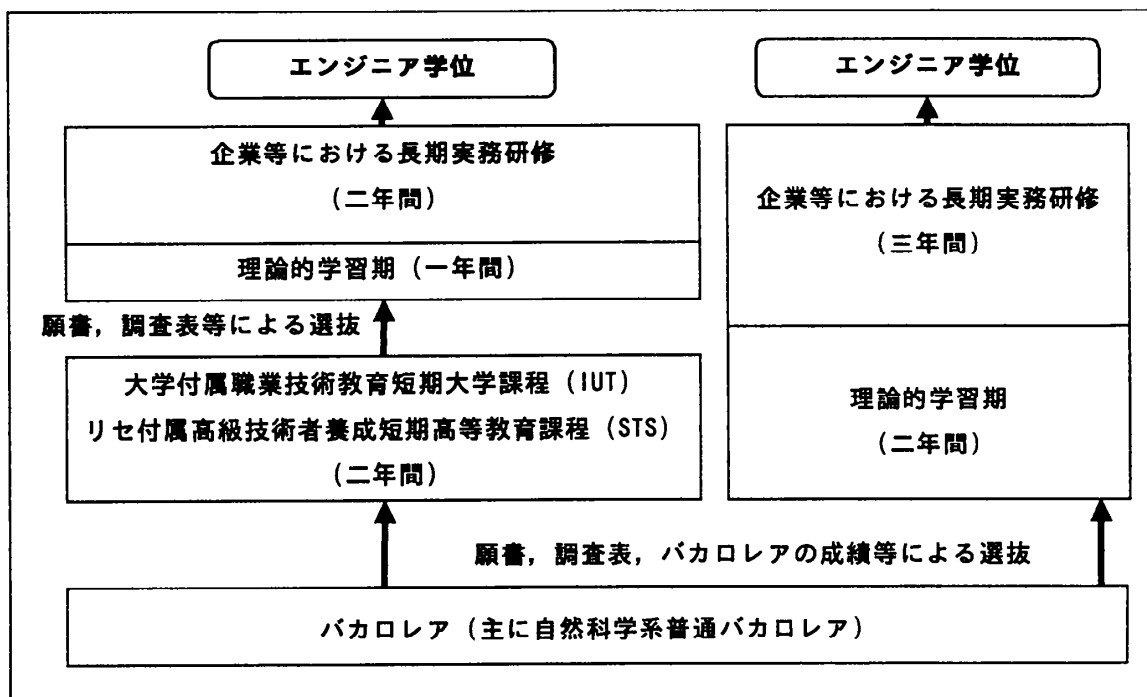
この課程には、バカロレア取得後すぐに入学する五年間のもの（合計教育時間 3,200 時間）と、大学付属の短期職業技術教育課程 (IUT) やリセ付属の高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) において二年間の高等教育を受けたのちに入学する三年間のもの（合計教育時間 1,600 時間）がある。五年課程の場合には、当初の三年間が教室における理論的学習期とされ、最後の二年間は企業等における長期実務研修期とされている。三年課程でも同様に、最初の一年間が理論的学習期であり、それに続く二年間が長期実務研修期となっている。

この新エンジニア教育課程は以下の三つの点で従来の伝統的なエンジニア教育と異なっていると考えられている。それは、

- 一．企業等における技術指導者と、教育機関に所属する学習面での教師の双方の指導による長期の実務研修
 - 二．技能修得に軸をおいた实际的集約的な教育課程
 - 三．企業からの要請に細かく対応した各種の専門分野の設定
- である。

課程修了後には、上記の他の理工系専門高等教育機関と同様にエンジニア学位を取得することができる。なお、この新エンジニア教育課程は、理工系専門高等教育機関の機関数や在籍学生数などの統計には含まれない。(1995年には763人が、この新エンジニア教育課程からエンジニア学位を取得している。)

図4-4：タイプD（新エンジニア教育課程）



2 マステール・スペシャリゼ (MASTERE SPECIALISE)

マステール・スペシャリゼ (MASTERE SPECIALISE) とは、グランゼコール協議会が認定した教育機関において授与される一種の称号であり、大学第三課程に相当するものと考えられている。このマステール・スペシャリゼは1986年に新たに認められた学位であり、その取得課程は理工系及びビジネス系の専門高等教育機関に用意されている。(これと混同されやすいが「MASTERS」という学位・修了証もあり、これはグランゼコール協議会に認定されていない専門高等教育機関が主に授与しているものである。)

マステール・スペシャリゼ取得課程の教育課程の内容は350時間の理論的あるいは実務的な教育と、最低4カ月間の企業等における研究や調査実施を通じた論文の作成が課されていることを基準とするが、最低一年間とされている教育課程の期間について、一年半や二年間の課程なども設置されているなど、学校により大きく異なっている。

四. ビジネス系専門高等教育機関

ECOLE DE COMMERCE

1 ビジネス系専門高等教育機関の分類

ビジネス系専門高等教育機関（ECOLE DE COMMERCE）は、理工系専門高等教育機関と並び、フランス高等教育制度において大きな地位を占めている。このビジネス系専門高等教育機関は、フランス全土で221校が設置されており、大きく三つのグループに分類される。「グループⅠ」は教育学術省認定の学位を授与できる機関で51校、「グループⅡ」は教育学術省から教育機関としての認定を受けている機関で27校、その他が143校となっている。（教育学術省認定学位授与機関は、同時に教育学術省認定機関ともなっている。）

また、グランゼコール協議会メンバーのビジネス系専門高等教育機関はフランス全土で28校あり、グランゼコールと呼ばれるHEC、ESSEC、ESCP、EM LYONの他、大部分が各主要都市にある高等商業学院など、ビジネス系専門高等教育機関の中でも社会的な評価の高いところがメンバーとなっている。

これらのビジネス系専門高等教育機関への入学試験受験者数は、ここ数年次第に減少しているといわれ、グランゼコールと呼ばれるいくつかの学校でもこの影響を受けているといわれている。また、入学希望者に比して入学定員が見合っているという状況から、学校を選ばなければ、どこかには入れるという状況となっている。こうなると、果たして地方都市のビジネス系専門高等教育機関にいくよりも大学へと進学する方がいい（ビジネス系専門高等教育機関は主に私立であり高い学費を必要とする。）という声もある。この原因として、フランス社会全体に蔓延している高い失業率が指摘されており、これらのビジネス系専門高等教育機関を修了しても、直ちに安定した職業を見つけることが難しくなっていることが挙げられる。とはいえ「グランゼコール」の名称が経営者に対して与えるインパクトは残っており、トップレベルの各学校への入学試験の難しさはあまり変わらないともいわれる。

これらのビジネス系専門高等教育機関の教育課程においては、外国語（特に英語）やコンピュータ、法律や経済学といった基本的な科目と、財務会計、会計監査、ファイナンス、マーケティング、経営管理といったそれぞれの専門分野における専門的実践的な科目が設定されており、さらに各学校独自の科目（成功するためには何が必要か？等）がおかれていることもある。

さらに、これらのビジネス系専門高等教育機関はビジネス系の月刊誌などでランク付けされるが、1997年12月の「CHALLENGES」誌によると、そのランキングは以下のようになっている。

表4-21：ビジネス系専門高等教育機関ランキング（1997年12月の「CHALLENGES」誌）

1	ESSEC	ECOLE SUPERIEURE DES SCIENCES ECONOMIQUES ET COMMERCIALES
2	EM LYON	ECOLE MANAGEMENT LYON (ESC LYON)
3	HEC	ECOLE DES HAUTES ETUDES COMMERCIALES
4	ESCP	ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE PARIS
5	ESC NANTES	ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE NANTES
6	EAP	ECOLE EUROPEENNE DES AFFAIRS
7	EDHEC	ECOLE DES HAUTES ETUDES COMMERCIALES DU NORD
8	ESC GRENoble	ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE GRENoble
9	ICN NANCY	INSTITUT COMMERCIAL DE NANCY
10	ESC BORDEAUX	ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE BORDEAUX

ビジネス系専門高等教育機関全体の学生数は1996/97年度で約47,000人（高等教育機関全体の2.2%）となっている。

教育学術省の教育及び職業情報室(ONISEP, OFFICE NATIONAL D'INFORMATION SUR LES ENSEIGNEMENTS ET LES PROFESSIONS)が出版している資料(APRES LE BAC 1998)には、このビジネス系専門高等教育機関として全部で87校が挙げられている。この87校の、設立形態は主に私立であり、国立は郵便及び情報通信省(MINISTERE DES TELECOMMUNICATIONS)が設置する一校(ECOLE DE GESTION DE L'INSTITUT NATIONAL DES TELECOMMUNICATIONS, INT-MANAGEMENT)があるのみである。これらのビジネス系専門高等教育機関を設置形態によって分類すると、次のようになる。

表4-22：ビジネス系専門高等教育機関の分類

		学校数	
		(うち教育学術省 認定校)	教育学術省認 定学位授与校
国立機関 (PUBLIC)		1 (-)	-
私立機関 (PRIVE)	商工会議所が設置主体となる機関 (CONSULAIRE)	40 (38)	30
	大学が設置主体となる機関 (UNIVERSITAIRE)	4 (-)	-
	その他 (PRIVE)	42 (23)	13

注：教育学術省認定校を「RECONNU」といい、教育学術省認定学位を「VISE」という。1987年7月12日の法律により、高等教育機関の設立が広く認められるようになったことにより、数多くの私立の高等教育機関が設立された。これらの私立の高等教育機関は十分な施設や教育課程を有することを国によって認定(RECONNU)されることを求めることができる。この認定のためには、教育課程や施設、財務状況等について国の検査を受けることが必要とさ

れている。この認定は政令（DECREE）により教育学術省が行うこととなっている。国立以外の教育機関は、この認定を受けることにより、国からの補助金を受けられたり、また、在籍する学生が国からの奨学金を受けることができるようになるなどの特典が認められている。また、認定を受けている教育機関は国による検査を受ける義務を有しており、機関の長及び教官の採用には国のアカデミー（大学区）の承認を必要とするなどの制約を受けることとなっている。

さらに公的に認定された修了証を発行するためには、教育学術省による承認（VISE）を必要とし、この認定は、先の教育機関の認定よりも、教育内容やレベルに関する要求が高いものとなっている。さらに教育機関としての認定を継続して5年以上受けているものが対象となっている。

また、先のランキング上位十校の設置形態や学校及び学位認定の状況、グランゼコール協議会への参加状況は以下ようになっており、やはり全般的に教育学術省認定学位授与校やグランゼコール協議会へ参加している教育機関が高い評価を得ているといえることができる。

表4-23：ランキング上位十校の設置形態、学校及び学位認定の状況、グランゼコール協議会への参加状況（1997年）

		初任給 (フラン)	設立形態	教育学術省による学校認定 (RECONNU)	教育学術省による学位認定 (VISE)	グランゼコール協議会参加 状況
1	ESSEC	210,000	PRIVE	○	○	○
2	EM LYON	193,000	CONSULAIRE	○	○	○
3	HEC	N/A	CONSULAIRE	○	○	○
4	ESCP	200,000	CONSULAIRE	○	○	○
5	ESC NANTES	170,000	CONSULAIRE	○	○	○
6	EAP	238,000	CONSULAIRE	○	○	○
7	EDHEC	185,000	PRIVE	○	○	○
8	ESC GRENOBLE	165,000	CONSULAIRE	○	○	○
9	ICN NANCY	172,000	UNIVERSITAIRE	-	-	○
10	ESC BORDEAUX	187,000	CONSULAIRE	○	○	○

ビジネス系専門高等教育機関を教育課程の面から大きく分類すると、バカロレア取得後直ちに入学する三年から五年のものと、二年間のグランゼコール準備課程を経て入学する三年課程に分かれる。

(1) バカロレア取得直後に入学する課程

バカロレア取得直後に入学する課程の教育課程の期間は、三年から五年と学校によって大きく異なっている。は、主に普通バカロレア取得者が対象となっており、サービス産業

系技術バカロレア取得者を受け入れることもある。フランス全土で 38 校がバカロレア取得直後の学生を受け入れている。

入学のためにはバカロレアの成績や調査表の他、入学試験を実施することとなっており、SESAME (6 校) と ACCES (3 校) の二つの共通試験を行っているところもあるが、大部分は各学校毎に入学試験を行っている。

また、この課程では二校を除き、第三学年からの編入試験を実施しており、ビジネス系グランゼコール準備課程や大学 (DEUG) 等から学生を受け入れている。

(2) ビジネス系グランゼコール準備課程を経て入学する三年課程

このビジネス系グランゼコール準備課程を経て入学する三年課程のビジネス系専門高等教育機関には、いわゆるグランゼコールと呼ばれる HEC, ESSEC, ESCP, EM LYON など先のランキング上位十校すべてを含んで、フランス全土で 43 校がある。この課程への入学には、願書、バカロレアや準備課程の成績や調査表の他、入学試験によるとされている。この入学試験は、BCEE/HEC (26 校) と ECRICOME (5 校) など、複数の教育機関による共通試験を行っているところが多いが、各学校毎に入学試験を実施するところもみられる。

BCEE/HEC 試験は、26 校に共通する試験で、HEC, ESSEC, ESCP, EM LYON すべてのグランゼコールが参加しており、最もレベルの高い試験となっている。この試験は理数系 (SCIENTIFIQUE), 経済系 (ECONOMIQUE), 技術系 (TECHNOLOGIQUE) と人文系 (LITTRES) の四つに分かれており、それぞれグランゼコール準備課程が対応している。また、BCEE/HEC 試験に加えて、共通の入学選考を行う、「BCEE/HEC (AVENIR)」(4 校), 「BCEE/HEC (ALLINCE)」(5 校) の二つの学校グループが存在している。

また、ECRICOME 試験は、5 校に共通する試験となっている。

これらの入学試験に加えて、大学第一課程 (DEUG) 修了者等を対象とした入学試験や、高等師範学校 (ENS) 入学試験合格者を対象とした選考などにより入学者を受け入れることもみられる。先のランキング上位校の入学者受入状況は次の表のようになっている。また、グランゼコールと呼ばれる四校の入学試験実施状況は以下のようになっている。

表 2-24 : ランキング上位十校の入学者受入状況 (1997 年)

		バカロレア取得直後の受入状況	グランゼコール準備課程修了者を対象とした試験	グランゼコール準備課程からの入学者比率	うち理数課程からの入学者比率	編入試験
1	ESSEC	×	BCEE/HEC	100	68	BAC+4
2	EM LYON	×	BCEE/HEC	88	55	BAC+2/3
3	HEC	×	BCEE/HEC	100	80	BAC+3

4	ESCP	×	BCEE/HEC	90	64	BAC+3
5	ESC NANTES	×	BCEE/HEC	72	58	BAC+2/3
6	EAP	×	BCEE/HEC	25	60	BAC+2
7	EDHEC	×	BCEE/HEC	98	57	BAC+3
8	ESC GRENOBLE	×	BCEE/HEC	66	53	BAC+2/3
9	ICN NANCY	×	ECRICOME	84	49	BAC+2/3/4
10	ESC BORDEAUX	×	ECRICOME	88	57	BAC+2/3

—*ECOLE DES HAUTES ETUDES COMMERCIALES (HEC)*

高等商業学院（HEC）への入学は、26校に共通する BCEE/HEC 試験によるとされており、1997年の試験では2,667人の受験者に対して403人が合格、その大部分がビジネス系グランゼコール準備課程（一部、理工系グランゼコール準備課程、人文及び社会科学系グランゼコール準備課程から入学する。）を経て入学しており、さらにその80%は理数課程からとなっている。また、パリ高等商業学院やその他の高等商業学院などを修了した学生を対象とした第二学年への編入試験を実施しており、1997年には845人の受験者から60人を受け入れている。

—*ECOLE SUPERIEURE DES SCIENCES ECONOMIQUES ET COMMERCIALES (ESSEC)*

経済商業高等教育学院への入学は、原則として BCEE/HEC 試験によるとされており、1997年の試験では330人の大部分がビジネス系グランゼコール準備課程（一部、人文及び社会科学系グランゼコール準備課程から）を経て入学し、さらにその68%は理数課程からとなっている。また、高等師範学校（ENS）へ合格した学生については20人を限度に無試験で入学を認めている。第二学年への編入試験は大学第二課程（メトリーズ）以上を対象としており、1997年には120人を受け入れている。

—*ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE PARIS (ESCP)*

パリ高等商業学院への入学は、原則として BCEE/HEC 試験によるとされ、1997年の試験では3,456人の受験者に対して295人が合格している。全員がビジネス系グランゼコール準備課程を経て入学し、さらにその78%が理数課程から、残りの22%が経済課程からとなっている。また、大学第一課程（DEUG）修了または政治学院（IEP）の二年次修了の学生を対象とした独自の入学試験を実施しており、1997年の試験では154人の受験者から30人が入学している。さらに高等師範学校（ENS）へ合格した学生については1997年に3人が書類及び面接により無試験で入学を認められている。第二学年への編入試験では1997年に37人を受け入れている。

—*ECOLE SUPERIEURE DE COMMERCE DE LYON (ESC Lyon, EM LYON)*

リヨン高等商業学院への入学は、原則として BCEE/HEC 試験により、1997年には209人がグランゼコール準備課程（一部、人文及び社会科学系グランゼコール準備課程から）を経て入学している。また、大学第一課程（DEUG）、大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）の修了

または政治学院（IEP）の二年次修了の学生を対象とした独自の入学試験を実施しており、1997年には30人が入学している。さらに第二学年への編入試験は、大学第二課程（リサンス）学位以上を取得したものを対象としており、1997年に110人を受け入れている。

(3) 大学（DEUG）等を経て入学する三年課程

バカロレア取得直後の学生を対象とした入学試験を実施せず、かつグランゼコール準備課程修了の学生を対象とした入学試験を実施しないビジネス系専門高等教育機関は、フランス全土で5校のみとなっている。一方、80校が大学（DEUG）等を経た学生を対象とした入学試験を実施している。

2 マスטרール・スペシャリゼ（MASTERE SPECIALISE）

マスטרール・スペシャリゼ（MASTERE SPECIALISE）とは、グランゼコール協議会が認定した教育機関において授与される一種の称号であり、大学第三課程に相当するものと考えられている。このマスטרール・スペシャリゼは1986年に新たに認められた学位であり、その取得課程は理工系及びビジネス系の専門高等教育機関に用意されている。（これと混同されやすいが「MASTERS」という学位・修了証もあり、これはグランゼコール協議会に認定されていない専門高等教育機関が主に授与しているものである。）

マスטרール・スペシャリゼ取得課程の教育課程の内容は350時間の理論的あるいは実務的な教育と、最低四ヶ月間の企業等における研究や調査実施を通じた論文の作成が課されていることを基準とするが、最低一年間とされている教育課程の期間について、一年半や二年間の課程なども設置されているなど、学校により大きく異なっている。

ビジネス系専門高等教育機関では、実際のビジネス社会に合わせて様々なマスטרール・スペシャリゼ取得課程を設置している。その特徴として少人数制が評価されているが、一方で学費の高さからその教育投資が効果的であるか疑問の声も聞かれる。

表2-25：マスטרール・スペシャリゼ取得課程の例

	専攻分野	設置年度	学生数	学費 (コース全体)
HEC	マーケティング	1987	50	75,000
	国際リスク管理	1997	25	75,000
ESSEC	都市環境マネジメント	1994	20	60,000
	ファイナンス技術	1986	30	60,000
ESCP	出版業マネジメント	1991	16	60,000
	マーケティング・コミュニケーション	1991	33	60,000
EM LYON	サービス産業マネジメント	1987	20	59,000
	製造業の国際戦略とマーケティング	1990	25	59,000

3 その他の教育課程

以上のような、教育学術省やグランゼコール協議会によって認定された修了証・学位を授与される課程とは別に、教育機関が自ら発行する修了証のみが授与される、主に「ビジネススクール」といわれる教育課程も、様々なビジネス系専門高等教育機関に設置されている。それらの中には、アメリカビジネススクール協会（AACSB）の認定を受けた課程（ESSEC）や、MBA 協議会（AMBA）の認定課程などがある。これらのビジネススクール課程に共通していることとして、バイリンガル（フランス語及び英語）教育あるいは英語による教育となっていることや、学費が非常に高額であること（年間 70,000 フランから 160,000 フラン）が挙げられる。また、学校によっては一定の職務経験を入学要件とするところもある。さらに、これらのビジネススクールはビジネス系専門高等教育機関のみならず、理工系専門高等教育機関や政治学院などにも設置されている場合がある。

また、それらとは別に、日本におけるビジネス専門学校のような、バカロレア取得直後に入学する一年から二年程度の私立教育機関も多数設置されている。

五. 高等師範学校 (ENS)

ECOLE NORMALE SUPERIEURE

高等師範学校 (エコール・ノルマル・スーペリール) は、高いレベルの研究者や、大学等の高等教育機関の教授などになることを目的とする学生のための専門高等教育機関であり、フランス全土で以下の四校が置かれている。

- －ウルム／セーブル校
- －フォントネー／サン・クルー校
- －リヨン校
- －カシャン校

この高等師範学校、特にウルム／セーブル校とフォントネー／サン・クルー校は、フランス教育界の最高学府の一つと考えられており、全国から優秀な学生が集まり、在籍する学生のほとんどが寄宿生活をおくっている。また、高等師範学校に在籍する学生及び卒業生のことを一般に「ノルマリアン (NORMALIEN)」という。(非常に優秀であるといわれると同時に、「鼻持ちならない連中」などといわれることもある。)

これらの高等師範学校には、それぞれの専攻分野に対応した二年間のグランゼコール準備課程 (CPGE) から進学するのが原則であり、教育課程の期間は三年から四年となっている。一般的には、最初の二年間で大学第二課程 (リサンス, メトリーズ) 学位を取得し、三年目には主に高等教育機関の教員となる資格である「アグレジェ教員資格 (AGREGATION)」試験を受験するための準備を行い、最終学年で第三課程 (DEA) の学位を取得する。(専攻分野によってはマジステール学位課程を置いていることもある。) この四年間の課程修了後、引き続き大学の博士 (ドクトラ) 課程で研究を続けるものも多い。また、高等師範学校の卒業生は中等教員資格 (CAPES) を無試験で取得することができることとなっている。(但し、教員養成センター (IUFM) の二年目の試補教員としての研修は受けなければならない。) 従来、大学において博士号を取得し、大学等の高等教育機関の教員となったり、研究者となる学生や国立行政学院 (ENA) を経て公務員となる学生が大部分であったが、最近では民間企業へ就職するものも増加している。

これらの高等師範学校では、学生に対するきめの細かい学習指導を行っているが、学生には授業等の必修履修科目や単位数などの義務は課されていない。また、高等師範学校で行われる授業以外に、例えばパリにあるウルム／セーブル校ではパリ第一大学などの大学の授業を受講することが広く認められており、学生は必修科目や履修単位数に悩まされることなく、自分の学習や研究を続けることができるようになっている。

高等師範学校に在籍する学生は学生身分の公務員 (FONCTIONNAIRE STAGIAIRE) となり、約月 7500 フランの給料を受けることができる。また、四年間の在学期間を終えて高等師範学校を卒業したものは、引き続き十年間の公務に付く義務を課されるが、大学博士

課程などで研究を続ける場合も含まれ、その場合には一定額の給料を受けながら研究を続けることができるなど非常に恵まれた待遇を受けている。

(1) 高等師範学校ウルム／セーブル校

(ECOLE NORMALE SUPERIEURE D'ULM-SEVRES, ENS)

高等師範学校ウルム／セーブル校は、1794年設立と高等師範学校の中でも最も長い歴史をもち、最も高いプレステージを保っている。正式名称は「高等師範学校 (ECOLE NORMALE SUPERIEURE)」だけであり、「ウルム／セーブル校」は他の高等師範学校と区別する上で用いられている通称に過ぎない。また、本部がパリ市内の学生街として知られるカルチュラタンにあることから「パリ校」といわれることもある。

このウルム／セーブル校には、人文科学から自然科学まで幅広い各専攻コースが置かれているが、学生数は非常に少なく、全学年合計してわずか800人、入学者は毎年200人程度となっている。

－人文及び社会科学コース (SECTION LETTRES)

第一試験 (PREMIER CONCOURS) は第一学年への入学のための試験で、人文科学系 (LETTRES, A/L) 課程への入学定員は75人、社会科学系 (SCIENCES SOCIALES, B/L) 課程への入学定員は21人となっている。

第三試験 (TROISIEME CONCOURS) は、第二学年への編入のための試験で、人文及び社会科学系の法律、経済、文化人類学、哲学、社会学等の大学第二課程学位、すなわちリサンス (LICENCE) またはメトリーズ (MAITRISE) 取得者を対象としている。入学定員はわずか3人である。

－自然科学コース (SECTION SCIENCES)

第一試験 (PREMIER CONCOURS) は第一学年への入学のための試験で、バカロレア取得後グランゼコール準備課程を経て入学するものを対象としており、大きく以下の三つの専修課程に分かれている。

- － 数学・物理・情報系専修課程 (MATHEMATIQUES-PHYSIQUE-INFORMATIQUE, C/S) : 理工系グランゼコール準備課程の数学物理コース修了者を対象としており、入学定員は41人。
- － 物理・化学系専修課程 (PHYSIQUE-CHIMIE, D/S) : 理工系グランゼコール準備課程の物理化学コース修了者を対象としており、入学定員は23人。
- － 生物化学系専修課程 (BIOLOGIE-CHIMIE-GEOLOGIE, E/S) : 理工系グランゼコール準備課程の農業化学課程 (BCPST) 修了者を対象としており、入学定員は22人となっている。

・第二試験（DEUXIEME CONCOURS）は、大学第一課程等からの編入試験（F/S）で、大学第一課程で生命科学分野の修了証（DEUG）を取得したもの、医学及び薬学課程の第一課程（二年間）を修了したもの、大学付属の職業技術教育短期大学課程（IUT）で生物化学工学課程を修了したものなどを対象としている。入学定員は4人のみとなっている。

第三試験（TROISIEME CONCOURS）は、第二学年への編入のための試験（G/S）で、大学第二課程学位（リサンスまたはメトリーズ）取得者、医学教育課程の第二課程のはじめの二年間を修了したもの、エンジニア学位取得者を対象としている。入学定員は6人となっている。

(2) 高等師範学校フォントネー／サン・クルー校 (ECOLE NORMALE SUPERIEURE FONTENAY/SAINT-CLOUD, ENS FONTENAY/SAINT-CLOUD)

高等師範学校フォントネー／サン・クルー校は、ウルム／セーブル校に次いで古い歴史を持っており、専攻分野は人文科学分野（一部社会科学分野）となっている。四校の高等師範学校の中では、ただ一校の理工系課程を持たない高等師範学校となっている。

第一試験（PREMIER CONCOURS）は第一学年への入学のための試験で、バカロレア取得後グランゼコール準備課程を経て入学するものを対象としており、大きく以下の四つの専修課程に分かれている。

- －人文学専修課程（SERIE SCIENCES HUMAINES）：哲学，歴史学，地理学。入学定員は38人。
- －文学専修課程（SERIE LETTRES）：近代文学，古典文学。入学定員は36人。
- －言語学専修課程（SERIE LANGUES VIVANTES）：ドイツ語，英語，アラビア語，中国語，スペイン語，現代ギリシャ語，ヘブライ語，イタリア語，日本語，ポーランド語，ポルトガル語。入学定員は35人。
- －経済社会科学専修課程（SERIE SCIENCES ECONOMIQUE ET SOCIALES）：入学定員は5人。

第二試験（DEUXIEME CONCOURS）は、大学等から第三学年への編入試験で、大学第二課程学位（リサンスまたはメトリーズ）取得者，エンジニア学位取得者，ビジネス系専門高等教育機関修了者，東洋言語学院（INALCO）の学位取得者を対象としている。

(3) 高等師範学校リヨン校（ECOLE NORMALE SUPERIEURE DE LYON, ENS LYON）

リヨン校は最も新しく設立された高等師範学校で、他の三校がパリ及びパリ近郊に位置するのに対して、リヨンにある。このリヨン校は理工科専門の高等師範学校で、人文科学

系及び社会科学系のコースが設置されていないのが特徴となっている。ウルム／セーブル校やフォントネー／サン・クルー校に比較すると、やや入学が易しいといわれている。

第一試験（PREMIER CONCOURS）は第一学年への入学のための試験で、バカロレア取得後グランゼコール準備課程を経て入学するものを対象としており、大きく以下の四専攻コースに分かれている。

- － 数学専修課程（MATHEMATIQUES）：入学定員は 36 人。
- － 情報専修課程（INFORMATIQUE）：1997 年度は募集なし。
- － 物理及び化学専修課程（PHYSIQUE ET CHIMIE）：入学定員は 34 人。
- － 生物及び地学専修課程（SCIENCES DE LA VIE ET DE LA TERRE）：入学定員は 31 人。

第二試験（DEUXIEME CONCOURS）は、大学等からの第一学年に編入するための試験で、大学第一課程修了証（DEUG）を取得したもの、医学及び薬学課程の第一課程（二年間）を修了したもの、大学付属の職業技術教育短期大学課程（IUT）で理工系課程を修了したものなどを対象としている。入学定員は 7 人のみである。

(4) 高等師範学校カシャン校（ECOLE NORMALE SUPERIEURE DE CACHAN, ENS CACHAN）

カシャン校は、以下のような五つのコースに分けられる。

表 4 - 2 6 : 高等師範学校カシャン校の専攻分野別コースの概要

A - SCIENCES (理工学コース)	A1-MATHEMATIQUES (数学) A2-PHYSIQUE (物理) A'2-ELECTRONIQUE/ELECTROTECHNIQUE/AUTOMATIQUE (SECTION PHYSIQUE APPLIQUEE) (電気・電子工学-応用物理) A''2-CHIMIE (化学) A3-BIOCHIMIE/GENIE BIOLOGIQUE (生化学・生物工学)
B - SCIENCES POUR L'INGENIEUR (エンジニアコース)	B1-GENIE MECANIQUE (機械工学) B2-GENIE CIVIL (土木工学) B3-GENIE MECANIQUE (機械工学) B4-ELECTRONIQUE/ELECTROTECHNIQUE/AUTOMATIQUE (SECTION GENIE ELECTRIQUE) (電気・電子工学-工学)
C - ARTS ET CREATION INDUSTRIELLE (芸術及びデザインコース)	C
D - ECONOMIE ET SCIENCES SOCIALES (経済及び社会科学コース)	D1-ORGANISATION ET ADMINISTRATION DES ENTREPRISES (企業組織及び管理) D2-GESTION DES ENTREPRISES ET DES COLLECTIVITES (経営学及び会計学) D3-SCIENCES SOCIALES (社会科学)
E - LANGUES ETRANGERES (外国語コース)	E

A - SCIENCES (理工学コース) には、以下の各理工系グランゼコール準備課程から入学している。

- 数学課程 = 数学物理コース (MP/MP*) から 29 人
- 数学課程 = 物理化学コース (PC/PC*) から 28 人
- 数学課程 = 物理技術コース (PT/PT*) から 28 人
- 数学課程 = 物理エンジニアリングコース (PSI/PSI*) から 40 人
- 農業化学課程 (BCPST) から 15 人
- 技術教育課程 = 産業化学技術コース (TSI) から 7 人

B - SCIENCES POUR L'INGENIEUR (エンジニアコース) には、理工系グランゼコール準備課程からではなく、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) またはリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) を経て入学することになる。

C - ARTS ET CREATION INDUSTRIELLE (芸術及びデザインコース) は高等師範学校唯一の芸術デザイン分野の課程であり、その入学定員は 12 人 (1997 年) となっている。技術バカロレアの芸術及びデザイン専攻 (BAC AA - ARTS APPLIQUES) を取得したもの、及びその他のバカロレア取得後一年間の産業デザイン準備コース (CLASSE DE MISE A NIVEAU EN ARTS APPLIQUES) を経たもので、その後グランゼコール準備課程の高等師範学校カシャン校芸術及びデザインコース進学課程 (3 校に設置) を修了したものを対象とした入学試験により選抜している。

D - ECONOMIE ET SCIENCES SOCIALES (経済及び社会科学コース) への入学選抜の方法は、専攻コースにより異なっている。企業組織及び管理専攻 (D1) と経営学及び会計学専攻 (D2) の場合には、ビジネス系グランゼコール準備課程の高等師範学校カシャン校経済及び社会科学コース進学課程 (バカロレア取得直後に入学する二年間のものと、大学第一課程等で二年間の教育を受けたものを対象とする一年間のものがある。) を経たものを対象に入学試験が実施されており、入学定員はそれぞれ 16 人と 28 人となっている。また、経営学及び会計学専攻 (D2) の場合にはビジネス系専門高等教育機関 (HEC, ESSEC, ESCP, EM LYON, EDHEC の五校のみ) の入学試験合格者から 10 人を限度に無試験で入学を認めている。社会科学専攻 (D3) へは、人文及び社会科学系グランゼコール準備課程の高等師範学校進学課程修了者を対象に入学試験を実施している。入学定員は 16 人。

E - LANGUES ETRANGERES (外国語コース) へは、高等師範学校カシャン校外国語コース進学課程または他の高等師範学校人文及び社会科学コース進学課程から入学する。入学定員は 7 人。

六. 政治学院 (IEP)

INSTITUT D'ETUDES POLITEQUES

政治学院 (IEP) はフランス全土で九校設置されている社会科学分野の専門高等教育機関であり、大学から独立した機関 (パリ政治学院) と大学に付属した機関 (地方政治学院) がある。この政治学院は、一般に「シアンス・ポ」 (SCIENSE PO) とも呼ばれることもある。

これらの政治学院に設置されている専攻分野は大きく分類すると以下の四つになるが、各政治学院により若干異なる専攻をおいている場合もある。

- ・ 行政 (SERVICE PUBLIC)
- ・ 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE)
- ・ 政治学, 経済学及び社会学 (POLITIQUE, ECONOMIQUE ET SOCIALE)
- ・ 国際関係 (RELATIONS INTERNATIONALES)

政治学院における教育課程の内容は、第一学年は高等教育への準備及び基礎的教育期 (ANNEE DE FORMATION GENERALE) であり、中等教育から高等教育への速やかな適応のための教育方法や教育課程となっている。具体的には、教室における授業時間 (週 12 時間から 14 時間) が中等教育と比べて三分の一程度となっていることの意義と自宅等における個人学習の進め方などの指導などが行われている。また、行政学や政治学, 経済学の基礎的科目や社会科学の歴史などを主に学ぶとともに、第二学年での専攻分野を決めるための進路指導も行われることとなっている。

第二学年と第三学年は専門課程であり、第一学年や第二学年から編入した学生の場合には大学等で学習した基礎的内容を基に、それぞれの専門領域における教育が行われることになる。また、この専門課程の中で、政治学院修了後に進学を希望する公務員養成の専門高等教育機関 (国立行政学院, 各軍行政高級将校学校など) の入学試験への準備をする学生も多い。第三学年修了により「政治学院学位」 (DIPLOME D'IEP) を取得することになる。この学位はバカロレア取得直後に入学した場合には合計で最短三年間の高等教育による学位であるが、社会的には理工系やビジネス系のグランゼコール修了と同様に高い評価を受けている。

第三学年修了後には、企業へ就職するほか、前述のように公務員養成の専門高等教育機関へ進学したり、大学第三課程 (政治学院におかれているものもある) や高等師範学校へ進む場合もある。

(1) パリ政治学院

政治学院は、大きくパリ政治学院とその他の地方政治学院に分類されるように、政治学院の中でも、このパリ政治学院はひとときわ輝かしい栄光を持つものである。それは、長い伝統を持つエリート養成機関であり、現在のフランス共和国大統領のシラク氏やミッテラン氏などの母校でもある。「シアンス・ポ」(SCIENSE PO)とは、厳密にはこのパリ政治学院のこののみを指すものであるともいわれる。

このパリ政治学院は、大学に付属していない独立の教育機関であり、直接教育学術省の所管に属している。設置されている学科は、行政、経済財政、コミュニケーション及び人的資源、国際の四学科であり、選択することのできる外国語は、英語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、アラビア語と日本語となっている。

また、卒業後に公務員養成の専門高等教育機関を目指す学生のために、特別の準備コースも設定されており、国立行政学院(ENA)、国立高等司法官学校(ENM)、各軍行政高級将校学校等への進学準備コースが置かれている。卒業後の進路は、大部分(80%)が企業へ就職、15%が公務員、5%が研究職或いは教育職の公務員となっている。

さらに、大学第三課程も独自に設置されており、DEA課程は政治学、社会学など5専攻分野、DESS課程は経営戦略マーケティング、情報など6専攻分野の学位が授与されている。

1996/1997年度の学生数は、外国人学生も含めて2,194人、うち男性は52%、女性が48%となっている。出身地別では、約半分が地方出身者で44%がパリ市及びイル・ド・フランス県(パリ周辺地域)出身、6%が外国人となっている。

このパリ政治学院では、担当教員が合計で1,200人から1,300人にも上っており、そのうちわずか40%が大学等の教育機関に所属している、いわばプロの教員である。残りの約60%の半数が公務員、半数が民間企業からとなっており、公務員は現職の局長課長等の幹部職員が、民間企業からは経営者や役員などが教鞭をとっており、学術的にも実務的にも十分な教育が受けられるようになっている。

第一学年への入学は、バカロレア取得直後か前年にバカロレアを取得したものを対象としており、入学者の34%が取得直後、66%が前年のバカロレア取得者となっている。この前年度バカロレア取得受験者のほとんどは、政治学院進学のためのグランゼコール準備課程(一年間)において受験の準備を行っている。試験は、共通科目として小論文と二十世紀史、外国語の三科目があり、バカロレア取得直後の場合には地理、前年度バカロレア取得者の場合には、十九世紀史、地理、憲法及び政治学、経済学の中から一科目の選択によって行われる。この第一学年への入学試験には、2,652人が受験し、合格者は299人、合格率は11%となっている。

また、バカロレア試験において、優秀な成績(TRES BIEN, TB)を修めた生徒は、原則として試験を受けずに、書類審査のみで入学を許可されることとなっているが、この選考には351人が受験し、152人が入学を許可されているのみである。さらに、全入学者のバ

カロレア成績をみると、優秀が37%、優（BIEN）が39%、良（ASSEZ BIEN）が20%、可（PASSABLE）が4%となっている。また、パカロレア種類別では、自然科学系普通バカロレア（BAC S）が最も多く36%、次いで社会科学系（BAC ES）が35%、人文科学系（BAC L）が28%となっており、その他は1%以下である。

第二学年への入学は、大学第二課程において学士（リサンス）を取得したものとなっており、大学における成績、外国語、小論文、専門科目（歴史、政治学及び行政法、民法、経営学及び会計学）によって選考されることとなっている。1996年には1,663人が受験し、449人が入学を許可されており、競争率は27%である。第二学年への入学試験受験資格は以下のように細かく分類されている。

表4-27：パリ政治学院第二学年への入学試験受験資格

人文及び社会科学分野 - 大学 - 高等師範学校（ENS） - ビジネス系専門高等教育機関 - 国立古文書学校 - オリエント文化言語学院（INALCO）	: 第二課程学位（リサンス、メトリーズ、マジステール）取得者 : 人文及び社会科学系コース在籍または卒業生 : HEC, ESSEC, ESCP, EM LYON など 26 校の修了学位取得者 : 在籍または卒業生 : 高等学位取得者
自然科学分野 - 大学 - 獣医師学校 - 建築学校 - 高等師範学校（ENS） - 理工系専門高等教育機関	: 第二課程学位（リサンス、メトリーズ、マジステール）取得者または医師・歯科医師・薬剤師の資格取得者 : 獣医師資格取得者 : 第三課程学位（DPLG）取得者 : 自然科学系コース在籍または卒業生 : ポリテク、CENTRALE、MINE など 26 校の修了学位取得者

表4-28：パリ政治学院の概要

設置形態	大学に付属しない独立の教育機関	
設置専攻分野	行政（SERVICE PUBLIC） 経済財政（ECONOMIQUE ET FINANCIERE） コミュニケーション及び人的資源（COMMUNICATION ET RESSOURCES HUMAINES） 国際（INTERNATIONALE）	
学生数／教員数等	三学年合計在籍学生数	2,194
	1996年修了学位授与数	703
	担当教員数（内常勤）	1200-1300（50）
第一学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数	2,652
	合格者数	299
	合格率	11%
	無試験選考出願者数／入学者数	351 / 152
第二学年への入学試験	入学試験受験者数	1,663

実施状況	合格者数	449
	合格率	27%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率	87.5%
	第二学年から第三学年への進級率	86%
	第三学年在籍学生の学位取得率	95%

なお、パリ政治学院では、これらの教育学術省認定の学位が授与される教育課程とは別に、独自に「ビジネススクール (MBA)」課程を設置している。この MBA 課程は、1993 年に開設された九ヶ月のもので入学定員は 40 人、三年以上の職務経験を有するものを対象としてフランス語及び英語のバイリンガル教育を行っている。ビジネス系専門高等教育機関に設けられている MBA 課程と同様に学費が高く、上記の各課程の授業料がほとんど無料であるのに対して、九ヶ月で 100,000 フランと非常に高いものとなっている。

(2) 地方政治学院

地方政治学院は、すべて大学に付属して設置されている高等教育機関で、エクス、ボルドー、グルノーブル、リール、リヨン、レンヌ、ストラスブール、トゥールーズの八校の政治学院がある。

－エクス政治学院 (IEP D'AIX)

エクス政治学院は 1956 年に設立され、中央アメリカ及びカリブ海地域とアラブ世界に関する二つの研究所がおかれており、それらの分野での研究は高い評価を得ている。また、外国語教育に積極的で、二つの外国語が必修（そのうち一つはアラビア語、日本語、ロシア語から選択）となっている。さらに他の政治学院と同様に公務員養成にも力点が置かれており、国立行政学院、地方行政学院 (IRA)、各軍行政高級将校学校等に向けた準備コースが設置されている。

第一学年への無試験入学選考の条件は、バカロレアの成績優秀 (TRES BIEN) または人文及び社会科学系グランゼコール準備課程の第二学年 (カーニュ) で成績優秀となっており、これらに該当する場合には筆記試験が免除される。

第二学年への入学試験受験資格はパリ政治学院と同様であるが、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) 修了者でディレクターの推薦を受けたもの (成績優等者) にも、受験資格が与えられ手いるのが特徴である。

表 4-29 : エクス政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関 (エクス・マルセイユ第三大学)
設置専攻分野	行政 (SERVICE PUBLIC)

	経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学及び社会学 (POLITIQUE ET SOCIALE) 国際関係 (RELATIONS INTERNATIONALES)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1996年修了学位授与数 担当教員数(内常勤)	814 214 182 (25)
第一学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数/入学者数	976 165 17% - / 66
第二学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	96 46 48%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 入学者の学位取得率	86.5% 98% 80%
その他	中央アメリカ及びカリブ海地域研究, アラブ及びイスラム教研究が有名。 第三課程の設置状況: DEA 課程 2 専攻 (地域政治研究研究と国防関係) 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況: 国立行政学院, 各軍行政高級将校学校, CPAG, など	

— ボルドー政治学院 (IEP DE BORDEAUX)

表 4-30 : ボルドー政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関 (ボルドー第四大学)	
設置専攻分野	行政 (SERVICE PUBLIC) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学及び社会学 (POLITIQUE ET SOCIALE)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1995年修了学位授与数 担当教員数(内常勤)	696 237 240 (53)
第一学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数/入学者数	1,533 199 13% 2 (外国人学生)
第二学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	219 49 22%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	88% 92% 94.5%
その他	アフリカ研究, ケベック研究が有名。 第三課程の設置状況:	

	DEA 課程 1 専攻 (アフリカ研究), DESS 課程 1 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況: 国立行政学院, 各軍行政高級将校学校, CPAG, など 経済社会科学分野の中等教育教員資格 (CAPES) 及びアグレジェ 教員資格 (AGREGATION) 準備コースもおかれている。
--	--

－グルノーブル政治学院 (IEP DE GRENOBLE)

表 4-31 : グルノーブル政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関 (グルノーブル第二大学)	
設置専攻分野	行政 (SERVICE PUBLIC) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学 (POLITIQUE) 政治学及び社会経済 (POLITIQUE ET ECONOMIE SOCIALES)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1995 年修了学位授与数 担当教員数 (内常勤)	833 257 110 (50)
第一学年への入学試験 実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数/入学者数	935 206 22% - / -
第二学年への入学試験 実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	311 73 23.5%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	98% 98% 97%
その他	地方行政研究が有名。 第三課程の設置状況: DEA 課程 1 専攻, DESS 課程 3 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況: 国立行政学院, CPAG, など	

－リール政治学院 (IEP DE LILLE)

表 4-32 : リール政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関 (リール第二大学)	
設置専攻分野	行政 (SERVICE PUBLIC) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学及び社会 (POLITIQUE ET SOCIETE)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1996 年修了学位授与数 担当教員数 (内常勤)	479 - 151 (20)
第一学年への入学試験	入学試験受験者数	794

実施状況	合格者数 合格率 無試験選考出願者数／入学者数	122 15% 28 / 14
第二学年への入学試験 実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	200 35 17.5%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	96% 96.5% 98.5%
その他	1991年設立と新しい政治学院。 第三課程の設置状況： DEA 課程 1 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況： 国立行政学院，地方行政学院（IRA），など	

－リヨン政治学院 (IEP DE LYON)

表 4 - 3 3 : リヨン政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関（リヨン第二大学）	
設置専攻分野	政治学及び行政 (POLITIQUE ET ADMINISTRATION) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学及びコミュニケーション (POLITIQUE ET COMMUNICATION) 国際 (INTERNATIONALE)	
学生数／教員数等	三学年合計在籍学生数 1996年修了学位授与数 担当教員数（内常勤）	767 287 200 (40)
第一学年への入学試験 実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数／入学者数	1,020 222 22% - / -
第二学年への入学試験 実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	79 45 57%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	96% 95% 96%
その他	第三課程の設置状況： DEA 課程 1 専攻，DESS 課程 2 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況： CPAG，その他	

－レンヌ政治学院 (IEP DE RENNES)

表 4 - 3 4 : レンヌ政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関（レンヌ第一大学）
------	----------------------

設置専攻分野	行政 (SERVICE PUBLIC) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学及び社会 (POLITIQUE ET SOCIETE)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1996年修了学位授与数 担当教員数(内常勤)	446 - 120 (20)
第一学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数/入学者数	912 112 12% - / 49
第二学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	158 12 7.5%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	80% 96% 98%
その他	第三課程の設置状況： DEA 課程 1 専攻, DESS 課程 1 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況： 国立行政学院, など	

ー ストラスブール政治学院 (IEP DE STRASBURG)

表 4-35 : ストラスブール政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関 (ストラスブール第三大学)	
設置専攻分野	政治学及び行政 (POLITIQUE ET ADMINISTRATION) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 国際関係 (RELATIONS INTERNATIONALES)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1996年修了学位授与数 担当教員数(内常勤)	506 159 130 (38)
第一学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数/入学者数	1,072 209 19.5% - / 22
第二学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	16 4 25%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	92.5% - 99%
その他	第三課程の設置状況： DEA 課程 2 専攻 (ヨーロッパ政治経済統合関係), DESS 課程 2 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況： 国立行政学院, その他	

－トゥールーズ政治学院 (IEP DE TOULOUSE)

表4-36：トゥールーズ政治学院の概要

設置形態	大学に付属する教育機関 (トゥールーズ第一大学)	
設置専攻分野	行政 (SECTEUR PUBLIC) 経済財政 (ECONOMIQUE ET FINANCIERE) 政治学 (SCIENCE POLITIQUE)	
学生数/教員数等	三学年合計在籍学生数 1996年修了学位授与数 担当教員数 (内常勤)	657 170 140 (21)
第一学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率 無試験選考出願者数/入学者数	1,171 230 20% - / -
第二学年への入学試験実施状況	入学試験受験者数 合格者数 合格率	97 30 31%
進級状況	第一学年から第二学年への進級率 第二学年から第三学年への進級率 第三学年在籍学生の学位取得率	83% 93% 96%
その他	第三課程の設置状況： DEA 課程 1 専攻, DESS 課程 2 専攻 公務員養成の専門高等教育機関への準備課程の設置状況： 国立行政学院, CPAG, EU 職員採用試験, など	

七. 建築学校

ECOLE D'ARCHITECTURE

建築に関する専門高等教育は、主に文化省 (MINISTERE DE LA CULTURE) が所管する建築系の専門高等教育機関によって行われており、この建築学校 (ECOLE D'ARCHITECTURE) はフランス全土で 24 校設置されている。

これらの建築学校の教育課程の期間は従来五年間であったが、現在は六年間に延長され、時間軸により第一課程 (二年間)、第二課程 (二年間)、第三課程 (二年間) に分けられる。第一課程は、バカロレア取得者を対象にしており、主に第二課程以降で学ぶ専門分野の準備教育や建築史など一般教養教育が行われ、修了時には教育学術省と建設及び運輸省によって認定される「建築学基礎教育修了証」 (DEFA, DIPLOME D'ETUDE FONDEMENTALES EN ARCHITECTURE) を取得する。この修了証は、この第一課程修了後に進路を変更する場合などには、大学一般教養教育課程修了証 (DEUG) と同等であると認められている。

第二課程及び第三課程では、専門的な建築学に関する教育が行われ、第二課程修了は大学第二課程の上級学士または修士 (メトリーズ) 学位と同等と見なされる。第三課程では、研究指導や卒業制作などが行われ、修了時には建築学教育修了証 (DPLG, DIPLOME PAR LE GOUVERNEMENT, DIPLOME D'ARCHITECTE) が授与されるが、これは大学第三課程学位 (DESS) と同等とされている。

さらに建築考古学や耐震設計等の専門的な領域について学ぶ場合には専攻課程があり、その修了時には建築学上級教育修了証 (CEAA, CERTIFICAT D'ETUDES ARCHITECTURALES APPROFONDIES) が授与される。

また、これらの建築学校とは別に、以下の二つの教育機関でも建築分野の専門高等教育が行われている。

一 国立ストラスブール工芸学校

(ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES ARTS ET INDUSTRIES DE STRASBOURG, ENSAIS)

理工系専門高等教育機関の一つでもあり、グランゼコール準備課程または大学第一課程の第一学年を修了したものを対象に入学試験を行っている。入学定員は一学年あたり三十名と少なく、デッサンや数学・物理などによる入学試験を実施している。ここの特徴として、第三学年までは毎年四週間の設計事務所等における実習を義務づけていることが挙げられる。四年間の課程修了により、エンジニア学位及び学校独自の修了証が取得できる。

ーパリ建築専門学校 (ECOLE SPECIALE D'ARCHITECTURE DE PARIS, ESA)

バカロレア取得者を対象に五年間一貫で建築専門教育を行う私立の建築専門高等教育機関である。当初二年間で建築学校同様に「建築学基礎教育修了証」(DEFA, DIPLOME D'ETUDE FONDEMENTALES EN ARCHITECTURE)を取得し、後期三年間で国により認定された学校独自の修了証である「パリ建築専門学校卒業証」を取得する。さらに、パリ第一大学と国立土木学校との連携により、都市計画分野の大学第三課程 (DESS) も設置している。

八. 獣医師学校 (ENV)

ECOLE NATIONALE VETERINAIRE

フランスにおいては、獣医師の養成専門の高等教育機関が設置されており、獣医師として開業または勤務するためには、これらの獣医師学校 (ENV, ECOLE NATIONALE VETERINAIRE) を卒業することが必要となっている。フランス全土で以下の四校が設置されている。

- ・国立メゾン・アルフォール獣医師学校 (ENV DE MAISON ALFORT) パリ市近郊。
- ・国立リヨン獣医師学校 (ENV DE MARCY L'ETOILE)
- ・国立ナント獣医師学校 (ENV DE NANTES)
- ・国立トゥールーズ獣医師学校 (ENV DE TOULOUSE)

これらの獣医師学校の教育課程は、バカロレア取得後最短で五年間 (第一課程二年, 第二課程三年, 第三課程一年以上) となっている。

第一課程の二年間では、生化学や物理, 化学など自然科学分野の基礎的な教育が行われることとされている。この第一課程には、理工系グランゼコール準備課程の獣医師学校進学課程での一年間と、獣医師学校入学後の一年間が相当する。また、獣医師学校進学課程以外の理工系グランゼコール準備課程や大学第一課程の一般教養教育課程 (DEUG) から編入することも認められている。

第二課程の三年間では、獣医師として必要な専門的な知識を取得するための課程とされており、動物の疾病治療などの技術的実践的なものから、病理学や公衆衛生学などの理論的なものまで幅広く学ぶこととされている。この第二課程の修了によって、「獣医学基礎教育学位」 (DIPLOME D'ETUDE FONDAMENTALES VETERINAIRES, DEFV) を取得する。

第三課程は、獣医師として開業することを目的としたコースとして、一年間の専門課程と、専門的な領域について実務的な研究を行い「専門獣医学高等教育学位」 (DIPLOME D'ETUDES SUPERIEURES SPECIALISEES VETERINAIRES, DESV) を取得する三年間の課程がある。さらに研究者コースとして、大学第三課程において、獣医学分野の基礎的あるいは応用的な研究を行うことを目指して DEA 課程から博士課程へ進むことも可能である。

卒業後の進路については、その大部分は獣医師として開業または勤務しているが、近年では食品加工業等の企業に進むものも一割程度の割合で見られるようになっている。

これらの獣医師学校への入学は以下のような各種の入学試験によるとされているが、1997年には、A 試験, B 試験, C 試験合計で 460 人の募集に対して、2,350 人が応募するなど、入学は厳しいものとなっている。

A 試験は、一年間あるいは二年間のグランゼコール準備課程を経て、第一課程の第二学年に入学するための試験であり、一年間の獣医師学校進学課程修了者 (入学定員は 410 人)

と、二年間の農業化学課程修了者（入学定員は4人）が対象となっている。1995年には、一年間の準備課程在学で入学した生徒は入学者の28%、二年間在籍したものが最も多く53%、三年間が19%となっているなど、入学試験準備のための期間はグランゼコール準備課程の一年間を大きく超えている。

B試験は、大学において生命科学分野の一般教養教育課程（DEUG）を修了したものを対象とする試験で、入学定員は四校合計で40人となっている。

C試験は、大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS, STSA）取得者を対象とした入学試験となっており、入学定員は四校合計でわずか10人である。

B試験とC試験からは、第二課程の第一学年に編入することになる。

九. 医療周辺領域系専門高等教育機関

医療周辺領域系専門高等教育機関とは、医師、歯科医師、薬剤師及び獣医師以外の医療関係の専門家を養成するための教育機関で、看護婦学校や助産婦学校をはじめいろいろな種類の高等教育機関が置かれている。

(1) 助産婦 (SAGE-FEMME)

フランス教育制度において、医療関係の高等教育は医療系 (MEDECAL) と医療周辺領域系 (PARAMEDICAL) に分類されており、医師、歯科医師、薬剤師、獣医師とこの助産婦のみが「医療系」とされており、看護婦等は「医療周辺領域系」とされている。すなわち、この助産婦の業務は、一部産婦人科医師の業務をも含むものであると考えられている。

助産婦となるためには、フランス全土で 35 校ある助産婦学校 (ECOLE DE SAGE-FEMME) において四年間の教育を受けなければならないとされている。課程修了後に助産婦国家資格 (DIPLOME D'ETAT DE SAGE-FEMME) を取得する。この助産婦学校への入学には、自然科学系普通バカロレア (BAC S) を取得したものを主とし、これらの各学校が実施する入学試験 (自然科学一般、物理及び化学、フランス語、等) に合格することが必要とされており、その競争率は 10 倍程度となっている。

教育課程の内容は、第一学年においては医学に関する理論的な基礎教育、心理学などを学び、第二学年以降では臨床的な医学、治療法などを学ぶこととなっている。また、病院や薬局等における長期間の実務研修が義務づけられている。

(2) 看護婦 (INFIRMIER)

看護婦となるためには、フランス全土で 346 校の看護婦学校 (INSTITUT DE FORMATION EN SOINS INFIRMIERS) において、三年間の教育を受けなければならないとされており、課程修了後に国家資格 (DIPLOME D'ETAT) を取得する。この看護婦学校への入学には、自然科学系普通バカロレア (BAC S) 取得者及び医療系技術バカロレア (BAC SMS) の取得者が有利とされている。各看護婦学校が実施する入学試験 (教養及び専門) や調査表、願書などによって選抜される。

教育課程の内容は、理論的なものから臨床実践的なものまで幅広く、一週間に 35 時間の授業時間が設定されている。さらに第一学年では病院以外で、第二学年以降は病院等における実務研修も義務づけられている。

同課程修了後さらに専門性を身につけるための専門課程として、以下の二つの課程がおかれている学校もある。

- － 手術補助看護婦課程：手術補助看護婦資格（DIPLOME D'ETAT D'INFIRMIER DE BLOC OPERATOIRE）を取得するための課程で，二年以上の看護婦または助産婦職務経験を有するものを対象とする。教育課程の期間は九ヶ月半。
- － 麻酔担当看護婦課程：麻酔担当看護婦資格（DIPLOME D'ETAT D'INFIRMIER ANESTHESISTE）を取得するための課程で，二年以上の看護婦または助産婦職務経験を有するものを対象とする。教育課程の期間は二年間。

(3) マッサージ及び運動療法士（MASSEUR - KINESITHERAPEUTE）

マッサージ及び運動療法士となるためには，フランス全土で 31 校の運動療法士学校（INSTITUT DE FORMATION AU METIER DE KINESITHERAPEUTE）において，三年間の教育を受けなければならないとされており，課程修了後にマッサージ及び運動療法士国家資格（DIPLOME D'ETAT DE MASSEUR - KINESITHERAPEUTE）を取得する。この運動療法士学校への入学資格は，バカロレア取得者とされているが，実際にバカロレア取得直後に入学する学生は 1% 以下で，大学の医歯薬系教育課程などから編入するものが大部分である。各学校が実施する入学試験（生物，物理，化学）によって選抜されるが，競争率は 20 倍以上と厳しいものとなっている。

教育課程の内容は，医学に関する理論的なものから運動療法に関する実践的なものまで幅広く，特に第二学年と第三学年では，昼間は主に病院等での実習が主体となっている。

(4) 作業療法士（ERGOTHERAPEUTE）

作業療法士となるためには，フランス全土で八校（うち大学付属のもの三校，私立五校）の作業療法士資格取得課程において，三年間の教育を受けなければならないとされており，課程修了後に作業療法士国家資格（DIPLOME D'ETAT DE ERGOTHERAPEUTE）を取得する。この作業療法士資格取得課程への入学資格は，バカロレア取得者（特に自然科学系普通バカロレア）とされているが，一部の学校では大学の医歯薬系教育課程の一年目修了を入学の資格とするものもある。各学校が実施する入学試験（生物，物理，心理学，等）によって選抜されるが，競争率は 8 倍以上となっている。

教育課程の内容は，医学に関する理論的なものから作業療法に関する実践的なものまで幅広く，一週間平均して 35 時間の授業または実習が予定されている。

(5) 放射線医療機器作業技師 (MANIPULATEUR EN ELECTROLOGIE MEDICALE)

放射線医療機器作業技師とは，放射線を利用した医療機器であるレントゲン撮影機，放射線治療機器などの操作を専門とする技師を指す。この放射線医療機器作業技師となるためには，二つの方法がある。

一つは、三年間の放射線医療機器作業技師学校を経て国家資格（DIPLOME D'ETAT）を取得するものであり、この学校はフランス全土に18校がおかれている。この課程では、第一学年で理論的教育を、第二学年及び第三学年では専門的な臨床技術教育及び実習を行うこととされている。この課程への入学資格は、バカロレア取得者（特に自然科学系普通バカロレア）となっている。この放射線医療機器作業技師資格を取得すると、就職が非常に有利であるといわれており、入学に際しての競争率は8倍前後と厳しいものとなっている。

もう一つの方法は、大学付属の職業技術教育短期大学課程（IUT）で同様に三年間の教育を受けるというものである。この課程への入学資格もバカロレア取得者であるが、自然科学系普通バカロレア（BAC S）のみならず、化学系や医療系の技術バカロレア（BAC STL/SMS）からも多数の学生を受け入れている。

(6) その他の医療周辺領域系専門高等教育機関

以上のような医療周辺領域系の専門高等教育機関の他にも、以下のような各領域別の専門高等教育機関が（一部は大学の医歯薬系教育機関に付属して）設置されている。

- －発音矯正士（ORTHOPHONISTE）
- －聴覚矯正士（AUDIOPROTHESISTE）
- －視覚矯正士（OPTICIEN-LUNETIER）

十．芸術系専門高等教育機関

芸術分野の高等教育に関しては、大学において一般教養教育課程（DEUG）や第二課程（リサンス・メトリーズ・専門メトリーズ・マジステール）、大学付属職業技術専門高等教育課程（IUP）、第三課程（DEA・DESS・博士課程）など様々なレベルの教育課程がおかれているが、それら以外にも文化省（MINISTERE DE LA CULTURE）が所管する多様な芸術系専門高等教育機関が設置されている。

これらの教育課程の期間は、専門分野や教育機関により異なるが、短期の二年間程度のものから六年以上の長期のものまで様々となっている。

(1) 美術分野

－国立高等美術学校（*ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES BEAUX-ARTS, ENSBA*）

国立高等美術学校（通称ポザール）は、古典的な造形美術及び近代美術分野における、最も高いレベルの教育機関であるとされており、絵画、彫刻及びマルチメディアの三つのコースに分かれている。教育課程は五年間であり、その内容は技術的なもののみならず歴史的あるいは理論的なものまで非常に幅広いものとなっている。五年間の課程修了により「造形美術高等教育学位」（*DIPLOME NATIONAL SUPERIEUR D'ARTS PLASTIQUES, DNSAP*）を取得する。その入学は一名の募集に対して千人以上が応募するなど非常に厳しいものとなっており、第一学年の募集人員は若干名程度と少ない。また、第二学年以降へは 26 歳以下の二年間の高等教育レベルの学位取得者を対象とし、主に作品審査により選考が行われることとなっている。主には下記の地方美術学校や大学、私立の画塾等で教育を受けた後に入学することが一般的である。

－地方美術学校

フランス全土で 53 校の国立、県立及び私立の地方美術学校が設立されており、絵画や彫刻などの古典的な造形美術から写真やマルチメディアなどの新しい表現美術や一部では工芸分野まで幅広いコースが設定されている。

これらは教育課程の期間により、大きく三年間の短期課程と五年間の長期課程に分けられる。

短期課程においては、まず最初の二年間の課程修了により「美術基礎教育修了証」（*CERTIFICAT D'ETUDES D'ARTS PLASTIQUES, CEAP*）を取得し、さらに一年間の専門教育課程によって「美術技能国家学位」（*DIPLOME NATIONAL D'ARTS ET TECHNIQUES, DNAT*）を取得する。

長期課程においては、「美術基礎教育修了証」(CEAP)に続いて、個人制作や研究指導を通じて、通算三年間(美術基礎教育修了証から一年間)で「美術国家学位」(DIPLOME NATIONAL D'ARTS PLASTIQUES, DNAP)を、通算四年間で「美術高等教育修了証」(CERTIFICAT D'ETUDES SUPERIEURES D'ARTS PLASTIQUES, CESAP)を、通算五年間で「美術上級国家学位」(DIPLOME NATIONAL SUPERIEUR D'EXPRESSION PLASTIQUE, DNSEP)を取得することができるようになっている。

なお、短期課程修了後に長期課程へ編入することも一般に認められている。

さらに、これらの国立の美術分野の専門高等教育機関の他にも、アトリエといわれる私塾や、イラスト、アニメーション等の私立の学校も数多く存在している。

(2) 工芸分野

工芸(装飾、産業デザイン等)の分野では、様々なレベルの高等教育機関が設置されている。中でも、国立高等デザイン学校と国立高等創造芸術学校は工芸分野において最も高いレベルの学生を対象としており、これらの学校への入学に際しては、バカロレアの成績、調査表に併せて、作品審査や実技試験なども行われている。実際には、バカロレア取得直後ではなく、下記の工芸学校やリセ付属の高級技術者養成短期高等教育課程(STS)の工芸課程で専門教育を受けた後に入学することが一般的となっている。また、地方美術学校でもデザインや室内装飾等の工芸分野のコースを設定しているところもみられる。

－国立高等デザイン学校 (ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES ARTS DECORATIFS, ENSAD)

国立高等デザイン学校(通称アールデコ)は、空間デザイン(インテリアデザイン、環境芸術、建築デザイン、等)と映像表現(映像、写真、アニメーション、マルチメディア、等)の二つのコースがあり、教育課程は四年間となっている。第一学年の入学は25歳以下を対象に専門分野に関する試験等による選考を行っている。また第三学年への入学に際しては、工芸学校等の学位を取得したものを対象としている。

－国立高等創造芸術学校 (ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DE CREATION INDUSTRIELLE, ENSCI)

国立高等創造芸術学校(通称アトリエ)は、工業製品から織物や商業スペースまで様々な分野におけるデザイナーを養成するための五年間の教育課程となっており、第一学年への入学はバカロレア取得者を、第二学年では二年間の高等教育レベルの学位取得者を、第三学年では四年間の高等教育学位または四年間の専門分野における職業経験を有するものを対象としている。

－工芸学校 (ECOLE SUPERIEURE D'ARTS APPLIQUES)

工芸分野（インテリアデザイン、装飾、陶芸等）の専門教育機関として、いくつかの専門の工芸学校が設置されている。これらへの入学は、芸術及びデザイン系（工芸分野）の技術バカロレア取得が条件となっている。（但し、他のバカロレア取得者は、リセに付属して設置されている一年間の工芸教育編入課程を経て入学することができる。）教育課程の期間は二年間で、課程修了によって「工芸技術者学位」（DIPLOME DES METIERS D'ARTS, DMA）が取得できる。

さらに、二年間の「高等工芸学位」（DIPLOME SUPERIEUR D'ARTS APPLIQUES, DSAA）を取得するための専門教育課程も設置されている。この高等工芸学位取得課程はリセ付属の高級技術者養成短期高等教育課程（STS）から編入することもできる。

この工芸学校には以下のようなものがある。

- ・ 家具及び室内装飾学校 (ECOLE SUPERIEURE DES ARTS APPLIQUES AUX INDUSTRIES DE L'AMEUBLEMENT ET DE L'ARCHITECTURE INTERIEURE, BOULLE) 専門はインテリア、家具製作。
- ・ 服飾モード学校 (ECOLE SUPERIEURE DES ARTS APPLIQUES, DUPERRÉ) 専門は服飾、生活環境デザイン。
- ・ 国立デザイナー学校 (ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES ARTS APPLIQUES ET DES METIERS D'ART, ENSAAMA) 専門はデザイン全般。
- ・ 工業デザイン学校 (ECOLE SUPERIEURE DES ARTS ET INDUSTRIES GRAPHIQUES, ESTIENNE) 専門は工業デザイン、マルチメディア技術。
- ・ 織物学校 (ECOLE SUPERIEURE DES ARTS APPLIQUES ET DU TEXTILE, ESAAT) 専門は織物。

(3) 音楽・舞踏分野

－国立パリ高等音楽院

(CONSERVATOIRE NATIONAL SUPERIEURS DE MUSIQUE ET DE DANSE,
CNSMD PARIS)

－国立リヨン高等音楽院

(CONSERVATOIRE NATIONAL SUPERIEURS DE MUSIQUE ET DE DANSE,
CNSMD LYON)

この二つの高等音楽院は、音楽・舞踏分野における最もレベルの高い高等教育機関である。入学に際しては、それぞれの専門分野（楽器演奏、指揮、歌唱、舞踏、等）に関する高い能力が要求され、主に地方音楽院等の成績優秀者や音楽コンクール等の受賞者が入学するが、バカロレア取得後直ちに入学を認められる場合もある。また、リヨン音楽院では入学時の年齢制限があり、音楽分野では30歳、舞踏分野では20歳までとなっている。（パリ音楽院では、音響工学コースも設置されている。）

教育課程の期間は、その専門分野によって三年間から五年間となっており、課程修了により「高等音楽教育学位」(DIPLOME NATIONAL D'ETUDES SUPERIEURES MUSICALES) または「高等舞踏教育学位」(DIPLOME NATIONAL D'ETUDES SUPERIEURES CHOREGRAPHIQUES) を取得することになる。

－国立地方音楽院 (CONSERVATOIRES NATIONAUX DE REGION, CNR)
及び国立音楽学校 (ECOLE NATIONALES DE MUSIQUE, ENM)

音楽・舞踏分野における専門家を養成するためにフランス全土で地方音楽院及び音楽学校が135校設置されている。これらの学校では、三年間の課程により「音楽教育学位」(DIPLOME D'ETUDES MUSICALES, DEM) または「舞踏教育学位」(DIPLOME D'ETUDES CHOREGRAPHIQUES, DEC) を取得する。入学はバカロレアの他、専門分野(楽器演奏、歌唱等)の実技によって選考される。国立や県立等のオーケストラに入るための課程なども併せて設置されており、また、教員資格試験のための特別課程が設置されていることもある。

これらの他、多数の私立音楽学校がある。

(4) 舞台芸術分野

舞台芸術の分野では、以下の四つの国立専門高等教育機関がある。

－国立高等演劇学院 (CONSERVATOIRE NATIONAL SUPERIEUR D'ART DRAMATIQUE, CNSAD)

舞台、映画及びテレビの分野の俳優 (COMEDIEN) を養成する三年制課程であり、入学のためには十八歳から二十三歳の年齢制限があり、地方音楽院や私立の演劇学校等の成績が優秀であることが求められる。専門教育は、演技や発声、歌唱、カメラ技術まで幅広く行われる。

－国立高等舞台芸術技術学校

(ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES ARTS ET TECHNIQUES DE THEATRE, ENSATT)

劇場経営、俳優、衣装、舞台装飾、照明及び舞台装置の五つの専門分野に分かれたコースを持つ三年制課程であり、それぞれ6人から12人の定員が設けられている。入学には18歳から25歳までの年齢制限があり、二年間の高等教育レベルの教育を受けたものを対象としている。入学に際しては、地方音楽院等での成績が重視される。

ー ストラスブール国立劇場付属演劇学校 (ECOLE SUPERIEURE D'ART DRAMATIQUE, ESAD)

演技、制作、舞台装飾の三コースが設定されており、それぞれ三年間の課程となっている。入学には18歳から25歳の年齢制限があり、それぞれの専門分野に応じた入学選考（俳優の場合オーディション、など）が行われる。学費は無料。

ー ブルターニュ国立劇場付属演劇学校 (ECOLE DU THEATRE NATIONAL DE BRETAGNE, ENTB)

舞台俳優を養成する三年制の学校で、入学に際しての年齢制限は18歳から25歳となっている。一年間の入学定員はわずか16人で、学費は無料。レンヌ市にある。

これらの他、地方音楽院や音楽学校などでも俳優や舞台装置等の専門教育を行っており、さらにパリ市及び周辺地区を中心に、数多くの公私立の演劇学校がある。

(5) 美学美術史・文化財分野

ー 国立文化財学校 (ECOLE NATIONALE DU PATRIMOINE)

大学において歴史または美術史分野のリサンスを取得したものを対象に、文化財発掘や保護に関する専門高等教育を行う国立の機関であり、教育課程は一年半となっている。生徒は公務員となり、一定の給料を受け取ることができるが、卒業後には最低十年間の公務義務を伴う。また、国立古文書学校の第三学年を修了したものを対象とする、歴史古文書特別課程が併設されている。

ー ルーブル美術館付属美術史学校 (ECOLE DU LOUVRE)

ルーブル美術館に付属して設置されている、国立の美術史専門高等教育機関であり、その課程は大きく三つに分けられている。第一課程は、バカロレア取得者を対象とした三年間の課程で、入学選考は美術文化領域に関する入学試験等によって行われる。課程修了により「ルーブル美術館付属美術史学校第一課程修了証」が与えられる。第二課程は、ルーブル第一課程または大学で美術史分野のメトリーズを取得したものを対象とする一年間の課程で、終了時には「ルーブル高等教育学位」が授与される。さらに第三課程は、ルーブル第二課程を優秀な成績で修了したものを対象とし、三年間の研究指導を経て「ルーブル研究学位」を取得する。また、ルーブル高等教育学位または大学でリサンスを取得したものを対象とする、国立文化財学校への入学試験準備をするための準備課程（一年間）も設置されている。

(6) 音声映像技術分野

－国立写真学校 (ECOLE NATIONALE DE LA PHOTOGRAPHIE, ENP)

写真専門の高等教育機関で、大学等において芸術分野の一般教養教育修了証 (DEUG) を取得したものや美術学校の第一課程を修了したものを対象とする、三年間の課程となっている。

－国立高等音声映像技術学校 (ECOLE NATIONALE SUPERIEURE LOUIS LUMIERE, ENSLL)

映画、音響、写真の三分野を対象とする三年制の学校で、入学は 27 歳以下の二年間の高等教育を受けたものを対象としている。毎年十数人の募集に対して 200 以上が応募するなど入学は厳しく、入学選考は専門分野に関する実技を含む試験によるとなっている。

－映像技術者養成学院 (INSTITUT DE FORMATION ET D'ENSEIGNEMENT POUR LES METIERS DE L'IMAGE ET DU SON, FEMIS)

脚本や演出、装飾、音響等の専門分野別のコースが設置されている三年制の学校で、入学は 27 歳以下の二年間の高等教育を受けたものを対象としている。前回は 35 人の募集に対して 600 人が応募するなど入学は厳しく、入学選考は、作品の提出及び専門分野に関する実技を含む試験によるとなっている。

(7) その他の芸術系専門高等教育機関

－国立人形芝居学校 (ECOLE SUPERIEURE NATIONALE DES ARTS DE LA MARIONNETTE, ESNAM)

人形芝居に関する唯一の国立専門高等教育機関であり、教育課程は三年間。課程修了によって、「人形芝居教育学位」 (DIPLOME DES METIERS DES ARTS DE LA MARIONNETTE) を取得する。学費は無料。

－国立サーカス学校 (ECOLE NATIONALE DE CIRQUE, ECNR)

国立のサーカス技術センターに付属して設置されている、バカロレア取得者を対象とする国立のサーカス学校で、二年間の課程により、「サーカス技術認定証」 (BREVET ARTISTIQUE DES TECHNIQUES DU CIRQUE) を取得する。入学に際しては、二十三歳までの年齢制限がある。

これらの他にも、パントマイムやアクロバットなどの分野の教育を行う、いくつかの学校が存在している。

十一．公務員養成機関

フランスでは、各専門分野の公務員を養成するため、様々なレベルの専門高等教育機関が多数設置されている。中でも国立行政学院（ENA）や三軍の行政高級将校学校、警察の警視学校などは一種の「グランゼコール」といわれることもある。

フランスにおける公務員の採用試験は、そのレベルにより、大学第二課程学位（リサンス）以上を対象とするカテゴリーA 試験、バカロレア取得者を対象とするカテゴリーB 試験、主に職業リセの二年間の課程で取得する技術認定証（CAP/BEP）取得者を対象とするカテゴリーC 試験の三つに分けられている。但し、実際の試験においては大学で修士または上級学士（メトリーズ）を取得したものでカテゴリーB 試験や、時にはカテゴリーC 試験を受験するなど、受験者層は次第に高学歴化している。

これらのカテゴリー別分類は、採用時から配属、昇進、昇給すべてを通じて密接に関係しており、相互の人事交流は特別の場合を除いて行われぬのが一般的である。すなわち、カテゴリーA の職として採用される最初の地位は、カテゴリーB の職としての最高の地位よりも上級職位に位置することが一般的である。

さらに、カテゴリーC の職に就いているものがカテゴリーB の職としての勤務を希望する場合（カテゴリーB の職に就いているものがカテゴリーA の職としての勤務を希望する場合にも同様）には、新たに上位の職の外部試験を受け直すか、あるいは一定の職務経験を経て内部試験（既に公務に就いているものを対象とした試験）を受験することが必要であるとされている。また、その上位の職が専門高等教育機関の入学試験という形で行われる場合には、大学等から直接入学した学生と同様の教育を受け直すことが必要ともされている。

採用は、特定の学位または資格を有するものが直接各省庁等に採用される場合もあるが、各専門高等教育機関を経て採用される上級官職の場合には、各専門高等教育機関への入学試験が、いわゆる公務員採用試験の役割を果たしている。

これらの公務員養成の専門高等教育機関では、学生は同時に公務員となり、一定の俸給を受けるとされている。また、学校によって異なるが、卒業後に一定の年限を公務員として働く義務を定めているところもある。

これらの公務員養成の専門高等教育機関は、職種や省庁によって様々なものがおかれている。それらの中でも、特に上級管理職への登竜門として位置づけられているのは、国立行政学院、国立統計経済学校、国立健康公衆衛生学校、三軍の行政高級将校学校などである。

1 一般行政関係

一 国立行政学院 (ECOLE NATIONALE D'ADMINISTRATION, ENA)

各省庁における上級管理職員を養成することを目的として設置されている専門高等教育機関であり、首相府が所管している。主にパリ政治学院の修了後に進学する（1996年には外部試験による入学者51人の内、46人がパリ政治学院で学んだものとなっている。）、いわゆる大学院レベルの課程のみを持つ教育機関である。教育課程の期間は、教室を中心とした授業が15カ月と、地方政府、在外公館または国際機関、企業の三カ所で行われる12ヶ月間の実習を含んで27ヶ月となっている。

この国立行政学院は、1946年から女子学生を受け入れており、これは、陸軍理工科学校 (ECOLE POLYTECHNIQUE) の1972年や国立土木学校 (ECOLE NATIONALE DES PONTS ET CHAUSSEES) の1962年、高等商業学院 (ECOLE DES HAUTES ETUDES COMMERCIALES) の1973年からと比較して非常に早いといえる。また、入学者に占める女性比率は1946年の2%から次第に上昇してきており、1997年度には34%となっている。

卒業時には成績順の一覧表が作成され、成績上位者から各省庁に採用されていくことになっている。また、この国立行政学院の卒業生は十年間の公務に就く義務が課せられている。

国立行政学院の学生は入学と同時に学生身分の公務員 (ELEVE FONCTIONNAIRE) となり、外部試験による入学者は月約8,000フラン、内部試験の場合前職と同額の給料あるいは8,000フラン、第三試験の場合11,000フランの給料を受けることができる。この国立行政学院の学生及び卒業生のことを「エナルク (ENARQUE)」と呼び、各省庁や企業において一種の特権階級のように扱われることが一般的である。（一例を挙げれば、バカロレア取得後三年間の政治学院を経て、この国立行政学院に入学した場合24歳で卒業することになるが、卒業後直ちに各省庁の課長職として採用され、4年から5年後には参事官として在外公館に勤務、その後は地方政府の副知事あるいは各省庁の局長職に就くとされている。また、民間企業の場合には採用と同時に副社長などという場合も多い。）

入学試験は、その職務経歴や年齢に応じて、以下の「外部試験」「内部試験」「第三試験」の三通りが実施されている。

表4-37：国立行政学院 (ENA) 入学試験の実施状況 (1996年)

	受験者数	一次試験合格者数	最終合格者数	競争率
外部試験 (CONCOUR EXTERNE)	722	101	51	14.2倍
内部試験 (CONCOUR INTERNE)	261	78	40	6.5倍
第三試験 (TROISIEME CONCOUR)	109	109	9	12.1倍

「外部試験」は、主に職務経歴を持たないものが政治学院等から直接入学するための試験であり、最も厳しいものである。この外部試験では、圧倒的にパリ政治学院の卒業生が多くなっているが、パリ以外の地方政治学院行政コースの卒業生も等しく入学試験の受験資格を有している。また、大学の上級学士または修士（メトリーズ）を取得しているものや、理工系あるいはビジネス系の専門高等教育機関の学位を取得しているものは、パリ及び地方政治学院（ボルドー、グルノーブル、レンヌ、ストラスブール、トゥールーズ）や各大学（エクス・マルセイユ第三大学、ニース大学、パリ第一大学、パリ第九大学）に設置されている国立行政学院受験準備コースを受けることによって入学試験受験資格を取得することができる。

この外部試験の入学試験受験資格は、上記の政治学院等を修了しており、かつ受験する年の1月1日において28歳未満のものに与えられている。1996年には、1,350人が願書を提出し、実際に受験したのは722人、合格者は51人であり、競争率は約14倍となっている。参考までに、日本において事務系の国家公務員I種試験（行政職、法律職、経済職）の合格者は、それぞれ58人、206人、110人（平成9年度）となっており、それらを合計した374人と比較すると、外部試験枠はその約七分の一という少なさである。12月の中旬には最終合格者が発表され、直ちに授業が開始される。但し、入学前には兵役を終えていなければならず、終えていない場合には、入学は一年間延期されることになる。受験回数も三回までと制限されている。

「内部試験」は、現在なんらかの公務に就いているものが対象となっており、定員は42人である。「内部試験」では、261人が受験、40人が合格、競争率は約7倍。この内部試験の受験資格は、受験する年の1月1日において、46歳9カ月未満という年齢制限が設けられている。また、その年の12月31日時点で合計5年以上の公職経歴を有していることも受験のための条件となっている。

「第三試験」は、これら以外の入学希望者が対象となるもので、入学定員は8人となっている。「第三試験」では109人が受験し、9人が合格、競争率は12倍である。これは、1991年に開始された新しい試験制度であり、受験資格は受験する年の7月1日において40歳未満となっており、地方議会での議員の経歴を有し、かつ、8年以上の職務経歴（公務でなくてもよい）を有するものが対象となっている。

また、国立行政学院では外国の公務員を対象とした長期研修課程（一年）を設けており、1949年以降95カ国から1,600人以上が学生として在籍した。国籍別ではドイツ（西ドイツ時代も含めて）から300人、次いで日本から110人、ケベック（カナダ）から90人が特に多くなっている。この長期研修課程では、一部の授業がフランス人の学生と共同のものとなっている。

一 国立地方行政学院 (INSTITUT REGIONAL D'ADMINISTRATION, IRA)

国立地方行政学院は、一般行政職及びアナリスト職を養成することを目的として設置されている公務員養成機関である。この国立地方行政学院は、国立行政学院やその他の上級公務員養成機関、理工系専門高等教育機関（ポリテク等）の卒業生に準じる中級管理職員を養成することを目的に、フランス全土で五校設置されている。

- ・ベスティア行政学院 (IRA BESTIA) コルシカ島
- ・リール行政学院 (IRA LILLE)
- ・リヨン行政学院 (IRA VILLEURBANNE)
- ・メッス行政学院 (IRA METZ)
- ・ナント行政学院 (IRA NANTES)

国立地方行政学院の教育課程の期間は、一般行政職で一年間、アナリスト職（リール行政学院のみに設置）の場合は一年半となっている。在学中から公務員としての俸給を受けことができ、卒業時には成績順のリストの上位者から各省庁等の行政機関へ採用されることになる。

入学試験受験資格は、大学において第二課程学位（リサンス）を取得したもの、または理工系等の専門高等教育機関を修了したものとなっている。また、政治学院にはこれらの国立地方行政学院への入学準備をするコースがおかれている。なお、アナリスト職の場合には、大学付属職業技術教育短期大学課程（IUT）またはリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程（STS）で電子情報分野の修了証を取得したものを対象としている。1996年に実施された入学試験には五校合計で286人の募集に対して、4,254人が応募している。

また、53歳以下で4年以上の公務経験を有するものを対象とする入学試験（内部試験）や、40歳以下で5年以上の職務経験を有するものを対象とする入学試験（第三試験）も行われている。

これらの国立地方行政学院への入学準備は、大学や政治学院などに付属してフランス全土で28カ所に設置されている一般行政職公務員準備課程（INSTITUT/CENTRE DE PREPARATION A L'ADMINISTRATION GENERALE, IPAG/CPAG）や、大学第二課程等の行政学コースなどで行われている。

2 専門行政関係

専門行政関係では、各省庁がそれぞれの職務領域に関連した公務員の養成機関を設置している。

(1) 統計分析分野

－国立統計経済学校

(*ECOLE NATIONALE DE LA STATISTIQUE ET DE L'ADMINISTRATION ECONOMIQUE, ENSAE*)

この国立統計経済学校(ENSAE)は、国立統計学及び経済学研究所(INSEE, INSTITUT NATIONAL DE LA STATISTIQUE ET DES ETUDES ECONOMIQUES)に付属する専門高等教育機関で、公企業及び私企業における経済分析の専門家(STATISTICIEN ECONOMISTE)を養成することを目的として設立されている。また同時に同研究所の管理職員となるものも養成している。学生は同研究所に所属する学生身分の公務員(ELEVE FONCTIONNAIRE)となり、一定額の給料を受けることができる。

教育課程の期間は三年間で、課程修了により「経済分析」(DIPLOME DE STATISTICIEN ECONOMISTE)の学位を取得することができる。卒業後の進路は、公務及び教育分野(40%)、金融(20%)、資源エネルギー(10%)、運輸(8%)、自動車産業(6%)等となっている。

この国立統計経済学校への入学試験には、数学専攻試験と経済専攻試験がある。数学専攻試験は、理工系グランゼコール準備課程の数学課程＝数学物理コース(MP*)を修了したものを対象としており、入学定員は30人、1996年試験の合格率は12.7%となっている。経済専攻試験は、主に大学第一課程(DEUG)の社会科学基礎数学(MASS)専攻の修了者、人文及び社会科学系グランゼコール準備課程の社会科学系課程修了者、ビジネス系グランゼコール準備課程の理数課程修了者を対象としたもので、若干名の合格となっている。

また、グランゼコールといわれる理工系専門高等教育機関修了者、高等師範学校(ENS)修了者、大学第二課程(メトリーズ)の数学専攻・情報専攻等の学位取得者を対象に、入学試験を実施しない書類選抜を行っている。

－国立統計及び情報分析学校

(*ECOLE NATIONALE DE LA STATISTIQUE ET DE L'ANALYSE DE L'INFORMATION, ENSAI*)

この国立統計及び情報分析学校(ENSAI)は、上記の国立統計経済学校(ENSAE)と同様に、国立統計学及び経済学研究所(INSEE)に付属する専門高等教育機関で、公企業及び私企業における統計分析技術の専門家(SPECIALISTE DE L'INGENIERIE STATISTIQUE)を養成することを目的として設立されている。また、同時に統計分析分野の公務員養成課程も併せておかれている。

教育課程の期間は、一般課程の場合三年間、公務員養成課程は二年間となっており、課程修了により「ENSAI卒業学位」(DIPLOME D'ANCIEN ELEVE DE L'ENSAI)を取得するが、一部の学生は大学第三課程学位(DEAまたはDESS)を併せて取得している。

一般課程への入学試験としては、数学専攻試験と経済専攻試験の二種類の試験が実施されている。数学専攻試験は、大学第一課程（DEUG）等で数学や社会科学基礎数学（MASS）専攻者などを対象としており、経済専攻試験は同様に経済学などを専攻したものを対象としている。入学は非常に難しいとされており、1997年試験での合格率はわずか4%弱となっている。

公務員養成課程への入学試験は一般課程と同様であるが、年齢制限（25歳以下）や二年間の高等教育学位を必要とするなど一定の制限が課せられている。この課程に入学すると学生身分の公務員となり、一定額の給料を受けることができるようになる。なお、この公務員養成課程には、理工系グランゼコール準備課程の数学課程＝数学物理コース（MP/MP*）を修了したものが入学することが多い。

(2) 財政租税分野

－国立パリ租税学校（*ECOLE NATIONALE DES IMPOTS, ENI PARIS*）

－国立クレルモン・フェラン租税学校（*ECOLE NATIONALE DES IMPOTS, ENI CLERMONT-FERRAND*）

租税監督官（*INSPECTEUR DES IMPOTS*）課程では、大学において法律分野の学士（リサンス）を取得したもの（及び同等の学位を有するもの）を対象としており、教育課程の期間は一年半となっている。この外部試験は、国立トゥールーズ登記学校と共通で実施している。また、4年以上の財政担当省庁あるいは租税監督局での職務経歴（カテゴリーBの職務）を有する38歳以下のものを対象とする内部試験も行われている。

租税検査官（*CONTROLEUR DES IMPOTS*）課程は、バカロレア取得者を対象とした入学試験を、国立トゥールーズ登記学校と共通で実施しており、教育課程の期間は年間である。また、財政担当省庁あるいは租税監督局に勤務するもの（カテゴリーCの職務）を有するものを対象とする内部試験も行われている。

－国立トゥールーズ登記学校（*ECOLE NATIONAL DU CADASTRE, ENC*）

登記監督官（*INSPECTEUR*）課程の外部試験は、国立租税学校と共通で実施している。また、4年以上の財政担当省庁での職務経歴（カテゴリーBの職務）を有する52歳以下のものを対象とする内部試験も行われている。

租税検査官（*CONTROLEUR DES IMPOTS*）課程の入学試験は、上記の国立租税学校と共通である。

租税電子情報検査官（*CONTROLEUR DES IMPOTS DE LA DIVISION INFORMATIQUE*）課程入学試験の受験資格は、租税検査官と同様であるが、教育課程の期間は一年半となっている。

測量技術者 (TECHNICIEN GEOMETRE DU CADASTRE) 課程入学試験の受験資格は、租税検査官と同様である。

一国立財政学校 (ECOLE NATIONAL DU TRESOR PUBLIC, ENT)

財政監督官 (INSPECTEUR DU TRESOR) 課程では、大学において学士 (リサンス) を取得したもの (及び同等の学位を有するもの) を対象としており、教育課程の期間は一年間となっている。また、公務員としての職務経歴を有するものを対象とした内部試験も行われている。

さらに、バカロレア取得者を対象とした財政検査官 (CONTROLEUR DU TRESOR) 課程もおかれている。

一国立ヌイイ税関学校 (ECOLE NATIONALE DES DOUANES, END NEUILLY-SUR-SEINE)

関税監督官 (INSPECTEUR DES DOUANES) 課程では、大学において法律分野の学士 (リサンス) を取得したもの (及び同等の学位を有するもの) を対象としており、教育課程の期間は一年間となっている。また、職務経歴を有するものを対象とする内部試験も行われている。

一国立ルーアン税関学校 (ECOLE NATIONALE DES DOUANES, END ROUEN)

関税検査官 (CONTROLEUR DES DOUANES) 課程は、バカロレア取得者を対象とした入学試験を実施しており、教育課程の期間は一年間である。また、職務経歴を有するものを対象とする内部試験も行われている。

(3) 裁判所及び司法分野

一国立高等司法官学校 (ECOLE NATIONALE DE LA MAGISTRATUR, ENM)

国立高等司法官学校 (ENM) は、裁判官や検察官等の高等司法官を養成するために設立されているもので、教育課程の期間は 31 カ月となっている。

入学試験の受験資格は、大学第二課程の法律分野の学位 (メトリーズ)、または政治学院の修了学位となっている。また、政治学院にはこの国立高等司法官学校 (ENM) のための特別の準備コースがおかれていることもあり、また大学では法職課程 (INSTITUT D'ETUDE JUDICIAIRE, IEJ) などでの入学試験の準備をすることとなっている。さらに、4 年以上の公職経歴を有する 40 歳以下のものを対象とした内部試験や、法律関係の職務経歴を有するものを対象とした試験なども実施されている。

－国立ディジョン裁判所書記官学校 (ECOLE NATIONALE DES GREFFES, ENG)

主任裁判所書記官 (GREFFIER EN CHEF) 課程では、大学において法律分野の学士 (リサンス) を取得したもの (及び同等の学位を有するもの) を対象としており、教育課程の期間は 14 ヶ月となっている。また、公務経歴を有するものを対象とする内部試験も行われている。

裁判所書記官 (GREFFIER) 課程は、バカロレア取得者を対象としており、教育課程の期間は 13 ヶ月である。また、公務経歴を有するものを対象とする内部試験も行われている。

(4) その他

－国立パリ郵便・情報通信学校

(ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES POSTES ET TELECOMMUNICATIONS, ENSPTT)

国立パリ郵便・情報通信学校 (ENSPTT) は、郵便及び情報通信分野の上級行政官を養成するための教育機関で、教育課程の期間は 21 カ月となっている。入学試験の受験資格は、大学第二課程学位 (メトリーズ) である。

－国立健康公衆衛生学校 (ECOLE NATIONALE DE LA SANTE PUBLIQUE, ENSP)

国立健康公衆衛生学校 (ENSP) は、医療や健康、公衆衛生分野の行政官を養成するための教育機関で、以下のような様々な課程をおいている。

健康公衆衛生監督官 (INSPECTEUR DES AFFAIRES SANITAIRES ET SOCIALES) 養成課程は、大学において法学または経済学の第二課程 (リサンス) 学位を取得したもの、あるいは政治学院の修了学位を取得したものを対象とした課程で、教育課程の期間は二年間となっている。

公衆衛生施設管理者 (ELEVE DIRECTEUR D'ETABLISSEMENTS SANITAIRES ET SOCIAUX) 養成課程は、大学の第二課程学位取得者、医師、獣医師、薬剤師、政治学院の修了学位などを取得したものを対象とした課程で、教育課程の期間は二年間となっている。

病院管理者 (ELEVE DIRECTEUR D'HOPITAL) 養成課程は、大学の第二課程学位 (法学、経済学または経営学) 取得者、医師、獣医師、薬剤師、政治学院の修了学位などを取得したものを対象とした課程で、教育課程の期間は 27 カ月となっている。

3 軍関係

(1) 陸軍関係 (ARMEE DE TERRE)

陸軍に付属する高等教育機関としては、将校（士官）養成課程レベルのものと、下士官養成課程レベルのものが設置されている。将校（士官）養成課程レベルのものとしては、以下の四校がある。また、下士官養成課程レベルのものとしては、陸軍下士官学校 (ECOLE NATIONALE DES SOUS-OFFICIERS D'ACTIVE, ENSOA) などがあり、主にバカロレア取得者を対象に、学校での基礎教育と部隊での実地訓練を合わせた下士官の養成のための教育課程をおいている。

－陸軍理工科学学校 (ECOLE POLYTECHNIQUE)

陸軍理工科学学校は、理工系専門高等教育機関として非常に高い評価を受けており、必ずしも陸軍将校（士官）の養成のみならず、卒業後国立行政学院や他の専門高等教育機関を経て各省庁の管理職となるものや、公営企業、民間企業に就職するものなど様々な分野へ進むものが大部分となっている。入学するためには、理工系グランゼコール準備課程を経て筆記試験及び口頭試問、体育実技試験が課されている。（詳細は、本章「一、グランゼコール」参照のこと。）

－陸軍行政高級将校学校 (ECOLE DU COMMISSARIAT DE L'ARMEE DE TERRE)

陸軍において、法令業務や経理、武器や装備の補給、諸外国との交渉など軍行政を担当する高級将校を養成するための課程で、行政学や法律を中心とする教育課程の期間は二年間となっている。入学試験は、海軍行政高級将校学校と空軍行政高級将校学校と共通となっており、入学試験受験資格は、大学において学士（リサンス）を取得したもの、あるいは理工系等の専門高等教育機関の卒業学位を取得したものとなっている。また、政治学院にはこの学校への入学のための特別な準備課程が設置されている。

－陸軍士官学校 (ECOLE SPECIALE MILITAIRE DE SAINT-CYR, ESM)

陸軍士官学校は、人文コースから理工コースまで幅広い教育課程を置いており、陸軍における士官を養成するための専門高等教育機関となっている。この陸軍士官学校では、三つの専門分野別の入学試験が行われている。

- ・理工コース (SCIENCES) : 理工系グランゼコール準備課程から入学する。
- ・人文コース (LETTRES ET SCIENCES HUMAINES) : 人文及び社会科学系グランゼコール準備課程に陸軍士官学校人文コース進学準備課程が置かれており、それらの修了者を対象とした試験が実施されている。

- ・経済コース (SCIENCES ECONOMIQUES) : ビジネス系グランゼコール準備課程から入学する。

また、大学第二課程 (メトリーズ) 学位やエンジニア学位を取得したものを対象とした編入試験も実施されている。

－陸軍技術者学校 (ECOLE MILITAIRE DU CORPS TECHNIQUE ET ADMINISTRATIF, EMCTA)

海軍や武器等補給団 (DELEGATION GENERALE DE L'ARMEMENT) などと共通の入学試験を実施しており、入学条件としては原則として大学第一課程 (DEUG) または大学付属職業技術教育短期高等教育課程 (IUT) を修了したものであるが、実際には学士以上が入学するケースがほとんどとなっている。

(2) 海軍関係 (MARINE NATIONALE)

海軍に付属する高等教育機関としては、将校 (士官) 養成課程レベルとして、海軍理工科学校と海軍行政高級将校学校が設置されている。また、下士官養成課程レベルのものとしては、海軍水兵学校 (ECOLE DE MAISTANCE, EDM) などがあり、主にバカロレア取得者を対象に、学校での基礎教育と部隊での実地訓練を合わせた下士官の養成のための教育課程をおいている。

－海軍理工科学校 (ECOLE NAVALE DE BREST, EN)

海軍理工科学校 (エコール・ナバル) は、陸軍のエコール・ポリテクニクと同様に理工系の専門高等教育機関の一種であり、卒業後は海軍における技術系士官の養成を目的とするものである。教育課程の期間は、三年間であるが、そのうち 26 ヶ月が学校内で、5 ヶ月をヘリコプター基地、4 ヶ月を海外の海軍学校との交流で過ごすことになる。

この海軍理工科学校へ入学するためには、理工系専門高等教育機関と同様に、理工系グランゼコール準備課程を経て行われる競争試験に合格することが必要とされる。

－海軍行政高級将校学校 (ECOLE DU COMMISSAIRIAT DE LA MARINE)

海軍において、法令業務や経理、武器や装備の補給、諸外国との交渉など軍行政を担当する高級将校を養成するための課程で、行政学や法律を中心とする教育課程の期間は二年間となっている。

入学試験等は、陸軍行政高級将校学校と同様である。

－海軍士官学校 (ECOLE D'ADMINISTRATION DE LA MARINE)

海軍における士官及び技術士官を養成する課程で、入学条件としては原則として大学第一課程 (DEUG) または大学付属職業技術教育短期高等教育課程 (IUT) を修了したものであるが、実際には学士以上が入学するケースが多い。

(3) 空軍関係 (ARMEE DE L'AIR)

空軍に付属する高等教育機関としては、将校 (士官) 養成課程レベルとして、空軍理工科学校と空軍行政高級将校学校が設置されている。また、下士官養成課程レベルのものとしては、空軍技術系下士官養成学校 (ECOLE DE FORMATION MILITAIRE, EFM) などがあり、主にバカロレア取得者 (但し、入学者の 58% が二年以上の高等教育学位取得者となっている。) を対象に、学校での基礎教育と部隊での実地訓練を合わせた下士官の養成のための教育課程をおいている。さらに、パイロット養成学校 (ECOLE DE PILOTAGE DE L'ARMEE DE L'AIR) がある。

－空軍理工科学校 (ECOLE DE L'AIR)

空軍理工科学校 (エコール・デュ・レール) は、陸軍のエコール・ポリテクニクと同様に理工系の専門高等教育機関の一種であり、卒業後は空軍における技術系士官の養成を目的とするものである。教育課程の期間は、三年間である。

この空軍理工科学校へ入学するためには、一般の理工系専門高等教育機関と同様に、理工系グランゼコール準備課程を経て行われる競争試験に合格することが必要とされている。

－空軍行政高級将校学校 (ECOLE DU COMMISSARIAT DE L'AIR, ECA)

空軍において、法令業務や経理、武器や装備の補給、諸外国との交渉など軍行政を担当する高級将校を養成するための課程で、行政学や法律を中心とする教育課程の期間は二年間となっている。

入学試験等は、陸軍行政高級将校学校と同様である。

(4) 憲兵隊関係 (GENDARMERIE NATIONALE)

憲兵隊とは、国防省に所属する国内治安を担当する部隊で、警察としての機能を有しながら、同時に国土防衛等の任務にもあたっている。憲兵隊においても、三軍と同様に憲兵隊士官学校 (ECOLE DES OFFICIERS DE LA GENDARMERIE NATIONALE, EOGN) (三年間) と憲兵隊員養成課程レベルのものがある。三軍の理工科学校及び陸軍サン・シール士

官学校を卒業したものは、直接憲兵隊士官として採用されることとなっている。一方、憲兵隊員を養成する憲兵隊学校は、一般課程がフランス全土で四校設置されており、フォンテーヌブロー憲兵隊学校では、法律業務専門課程と女性課程、オートバイ部隊課程がおかれている。一年間の課程修了後には、各憲兵隊、交通憲兵隊または共和国防衛隊（GARDE REPUBLICAINE）に配属される。

(5) 武器等補給団（DELEGATION GENERALE DEL'ARMEMENT, DGA）

武器等補給団（DGA）は、国防省に付属する機関で、軍備の調達や兵器の開発、補給等を行う機関であり、この武器等補給団でも独自の教育機関を持ち、専門知識を有する士官を養成している。

－武器等補給団士官学校（ECOLE SUPERIEURE D'ADMINISTRATION DE L'ARMEMENT）

武器等補給団士官学校では、三年間の課程により、国防及び軍に関する基礎知識と、行政学や会計学、各専攻分野の専門教育を行っている。入学条件としては原則として大学第一課程（DEUG）または大学付属職業技術教育短期高等教育課程（IUT）を修了したものであるとしている。

(6) 国防省高等衛生学校

－国防省高等衛生学校（ECOLE DE SERVICE DE SANTE DESARMEES, ESSA）

国防省高等衛生学校（ESSA）は、各軍に勤務する医師、薬剤師、獣医師を養成するための専門高等教育機関で、教育課程の期間は医師養成課程は八年、薬剤師養成課程は六年、獣医師養成課程は五年となっている。医師及び薬剤師については、自然科学系普通バカロレア（BAC S）取得者を対象に独自の入学試験を実施しているが、獣医師に関しては獣医師養成学校（ENV）と共通の入学試験により学生を受け入れている。

4 警察関係（POLICE NATIONALE）

警察においても、警視レベルから巡査レベルまで様々なレベルの教育機関が設置されている。それらのうち、巡査レベルの警察職員を養成する各地方行政区に設置されている警察学校への入学に際してはバカロレア取得を条件とはしていないが、それぞれの警察学校において中等教育修了レベルの入学試験が実施されている。

－警視学校 (*ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DE POLICE DE ST-CYR-AU-MONT-D'OR, ENSP*)

警察機構において、高級管理職レベルに相当する警視以上の警察官を養成するための専門高等教育課程がおかれており、教育課程の期間は二年間となっている。入学に際しては法律の専門的な知識が必要とされており、行政法（一次試験）や憲法、刑法、民法、商法や労働法（二次試験）など法律を中心とした入学試験が行われている。また、警察在職四年間以上のものを対象とした内部試験も実施されている。

－警部学校 (*ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DES OFFICIERS DE POLICE, ENSOP*)

警察機構における中級管理職に相当する警部以上の警察官を養成する課程で、期間は一年半となっている。入学資格は、高等教育二年間以上の学位を有するものである。

十二．その他の専門高等教育機関

以上のような様々な領域の専門高等教育機関に加えて、以下のような学術研究機関においても、それぞれの分野の専門的な、主に大学第三課程に相当するレベルの高等教育を行っている。

－国立高等研究学院 (EPHE, ECOLE PRATIQUE DES HAUTES ETUDES)

国立高等研究学院 (EPHE) は、フランスにおける人文及び社会科学系の中心的学術研究機関であり、以下の専門領域における大学第三課程 (DEA 課程, 博士課程) をおいている。

- ・歴史学及び文献学 (SCIENCES HISTORIQUE ET PHILOLOGIQUES)
- ・宗教学 (SCIENCES RELIGIEUSES)
- ・生命科学及び地球科学 (SCIENCES DE LA VIE ET DE LA TERRE)

－国立社会科学研究高等学院 (EHESS, ECOLE DES HAUTES ETUDES EN SCIENCES SOCIALES)

国立社会科学研究高等学院 (EHESS) は、第二次世界大戦以降上記の国立高等研究学院 (EPHE) から独立して設立された、人文及び社会科学に関する学術研究機関であり、以下の専門領域における大学第三課程 (DEA 課程, 博士課程) をおいている。

- ・社会学 (SOCIOLOGIE)
- ・心理学 (PSYCHOLOGIE)
- ・社会人類学 (ANTHROPOLOGIE SOCIALE)
- ・歴史学 (HISTOIRE)
- ・経済学 (ECONOMIE)
- ・文化領域 (AIRES CULTUELLES)

－オリエント文化言語学院 (INALCO, INSTITUT NATIONAL DES LANGUES ORIENTALES)

オリエント文化言語学院 (INALCO) は、東洋 (オリエント) の文化及び言語を専門領域とする高等教育機関で、アジア、中近東アラブ地域及びアフリカの 80 の文化及び言語に関する専攻コースを設置している。

大学第一課程に相当する二年間の課程修了により、54 の文化及び言語の「オリエント文化及び言語教養教育修了証」 (DULCO, DIPLOME UNILINGUE DE KANGUE ET CIVILISATION ORIENTALES) を授与している。大学第二課程学位としては、27 分野

のリサンスと 23 分野のメトリーズを授与している。また、教育機関が独自に授与する学位としては、「高等学位」(DIPLOME SUPERIEUR) などがあり、この高等学位は政治学院第二学年への入学資格ともなっている。

さらに第三課程は 3 分野の DEA 課程と、3 分野の DESS 課程をおいている。

1996/1997 年度には、第一課程に 1,525 人、全教育課程合計で 8,470 人が在籍している。

また、フランスにおける最も高いレベルの教育学術機関ともいわれるコレージュ・ドゥ・フランス (COLLEGE DE FRANCE) は生涯学習機関であり、各種の講座を広く一般に向けて開講しており、学位に準じるような修了証は発行されない。

第五章 バカロレア試験と中等教育

フランスの高等教育制度を理解する上で、欠かせない基礎的な知識としてバカロレア試験の存在がある。「バカロレア」という言葉は「月桂樹の種」を意味するラテン語起源の言葉で、これから月桂樹となるような輝かしい素質を持つものという意味があっただろう。元来、中世の大学に進学することができる才能を持つという一種の資格証明であったが、現在でもこの考えは生きており、このバカロレアを取得したものは、原則として無試験で大学に入学できることとなっている。

このバカロレアに到達するまでの、フランスの初等中等教育制度を概観すると、五年制の小学校 (ECOLE ELEMENTAIRE)、四年制の中学校 (コレージュ, COLLEGE)、三年制の高等学校 (リセ, LYCEE) という形態が一般的である。これを日本におけるそれと比較すると、教育制度上は小学校段階では大きな違いはないが、コレージュの第三学年から職業リセの職業技術教育コースへの進学が設定されていることや、リセにおいては取得するバカロレアによって大きく履修する科目が異なってくるなど、中学校段階から次第に進路別にカリキュラムが分かれていることが特徴的である。

また、小学校段階から各学年の修了時において成績と学習進度による選別が行われ、次の学年に進む能力が足りないと判定されると、原級留置となる。この原級留置の比率は日本におけるそれと比較すると、極めて高くなっている。

表5-1: コレージュ及びリセにおける進級率と原級留置 (1996/97年度)

	上級学年への 進級率	原級留置となったもの の比率
コレージュ (中学校)		
第一学年 (6e) から第二学年 (5e)	89.0%	10.1%
第二学年 (5e) から第三学年 (4e)	74.9%	10.9%
第三学年 (4e) から第四学年 (3e)	89.6%	7.3%
第四学年 (3e) から普通及び技術リセ第一学年 (2nde)	60.4%	10.2%
普通及び技術リセ (高等学校)		
第一学年 (2nde) から第二学年 (1er)	77.0%	17.2%
(職業リセへの進路変更者)	(3.3%)	-
第二学年 (1er) から第三学年 (Ter)	89.3%	8.1%
第三学年 (Ter) 修了率	83.7%	16.0%

注: これら以外の生徒は退学者と考えることができる。

一. コレージュ (COLLEGE)

コレージュ (COLLEGE) とは日本の小学校六年生及び中学校に相当する前期中等教育機関であり、五年制の小学校修了後の生徒を対象とした四年間 (11歳～15歳) の課程である。コレージュでは、日本のように「何年生」という呼び方ではなく生徒及び学年を次のように呼んでいる。

表5-2: コレージュにおける教育課程と在籍生徒数

	生徒及び学年の呼称	在籍生徒数 (フランス全土)
第一学年	SIXIEME (第六段階)	約 700,000 人
第二学年	CINQIEME (第五段階)	約 700,000 人
第三学年	QUATRIEME (第四段階) - 普通教育課程 GENERALE - 技術教育課程 TECHNOLOGIQUE	約 650,000 人 (うち約 590,000 人) (うち約 60,000 人)
第四学年	TROISIEME (第三段階) - 普通教育課程 GENERALE - 技術教育課程 TECHNOLOGIQUE	約 630,000 人 (うち約 570,000 人) (うち約 60,000 人)

コレージュでは、最初の二年間はコース別の教育はされておらず、全員が同一の課程に所属する。第二学年修了後には、成績や生徒の特性に応じて進路指導が行われ、大多数が普通教育課程に進学するが、約一割の生徒が技術教育課程へと進んでいる。また、コレージュの第二学年修了後に直接職業リセに入学し三年間の職業技術教育を受け、技術認定証 (CAP) を取得するコースも用意されている。各学年における在籍生徒数は、以上のようになっているが、学年を進む毎に減少している部分は、退学者或いは第三学年に進む段階で技術認定証 (CAP) 取得コース (職業リセに付属する課程) へ進学したものと考えられる。

コレージュの最終学年である第三段階 (TROISIEME) 修了後の進路状況をみると、以下のようになっており、大部分がリセまたは職業リセに進学している。

表5-3: コレージュ第三段階 (TROISIEME) 修了後の進路状況 (1996年)

進路	比率
リセ (普通及び技術リセ)	60.1%
職業リセ (BEP 課程)	27.6%
第三段階の再履修	8.3%
職業リセ技術認定証 (CAP) 履修課程	1.5%
その他	2.5%

また、パリ大学区（ACADEMIE DE PARIS）では、コレッジ普通課程の最終学年である第三段階（TROISIEME）を終えたもののうち、65%が普通及び技術リセに、22%が職業リセ（BEP 課程）に進学し、12%は再履修となっている。また、コレッジ技術課程の最終学年である第三段階（TROISIEME）を終えたもののうち、85%が職業リセに、7%が普通及び技術リセに進学し、6%が見習い職業訓練課程に進んでいる。

二. リセ (LYCEE) とバカロレア (BACCALAUREATS)

コレッジを卒業した生徒は、引き続きリセ (LYCEE) と呼ばれる高等学校へ進学することになるが、このリセにおける教育課程の内容は、リセ卒業後に実施される「バカロレア試験」 (BACCALAUREATS) に向けたものとなっており、普通課程から技術課程、職業課程まで多様な課程が置かれている。

(1) バカロレアとは

バカロレアとは、「中等教育の修了を証明し、その取得者は大学等の高等教育機関への入学を許される」という国家試験である。言い換えれば「高等教育機関へ進学するためには、原則としてバカロレア試験に合格しなければならない。」ということでもある。日本においては原則として高等学校の卒業が大学入学資格であるが、フランスでは高等学校(リセ)の卒業は必ずしも大学入学資格を意味するわけではなく、バカロレア試験に合格してはじめて大学入学資格を得ることになることとなっている。

さらに、バカロレア取得は「大学入学資格」を意味するばかりでなく、「大学入試への合格」をも意味するもので、原則としてバカロレアを取得したものは、無試験で大学に入学することができる。日本では、各大学がそれぞれ入学試験により学生を選抜しているが、フランスではバカロレア取得者であれば、誰でも大学に入学できるとされている。しかし、これには大きく二つの制限が課されている。

一つには、「自分の居住する大学区 (アカデミー) の中に進学する場合であれば」という原則であり、志願者の多いパリ及びパリ近郊の大学では、その大学区に居住しない志願者の入学は拒否されることが多い。

第二点目には、取得したバカロレアの種類による制限である。バカロレアは一般に考えられているように、「どのバカロレアを取得しても、自分の希望する大学学部にも無条件で入学できる」ことまでを保障するものではなく、大学における学問領域との関係が薄いバカロレアの場合 (例えば、理学部に進学を希望しているが、バカロレアはサービス産業系技術バカロレア (BAC STT) である場合など) には、入学を許されないこともある。一方、地方の大学などでは、必ずしもバカロレアの種類と大学における学問領域との関係が密接ではない場合でも入学を許されることもある。

また、バカロレア試験は一般に「高等教育への進学資格試験であり、点数は無関係である」と考えられることがあるが、バカロレア資格証明書には、専攻分野とともに点数による評価が付されることとなっている。この点数 (評価) は、特に専門高等教育機関への進学の際に重要となってくるものであり、政治学院へ入学する場合などには TRES BIEN (優秀) の成績評価を得ていると無試験入学選考の資格を得られるなどとなっている。さらに

職業バカロレアでも同様に点数による評価がなされており、優秀の成績評価は就職の際にも大いに効果があるといわれている。

表5-4：バカロレアの点数による評価

バカロレア試験で 獲得した点数 (20点満点)	評価	バカロレア種類別の獲得比率		
		普通バカロレア	技術バカロレア	職業バカロレア
16点以上	TRES BIEN (優秀)	1.4%	0.3%	0.6%
14点以上 16点未満	BIEN (優)	7.2%	3.9%	9.3%
12点以上 14点未満	ASSEZ BIEN (良)	21.2%	22.5%	36.0%
10点以上 12点未満	PASSABLE (可)	70.2%	73.3%	54.1%

(2) バカロレアとリセの関係

次にバカロレア試験とリセ(高等学校)における教育課程の内容との関連であるが、「バカロレアは単にリセの卒業後に実施される試験というばかりでなく、リセ(高等学校)において学習する内容にも密接に関係しており、卒業後にどのような進路を選ぶかによって入学するリセが異なってくる」ことが重要なポイントとなっている。すなわち、日本においては普通科の高等学校であれば学校を問わず理科系文科系ともに学習できるようになっているが、フランスでは理科系だけをおく普通高等学校(普通リセ)なども存在しているのである。

一例を挙げれば、フランスにおいて名門高等学校といわれるパリのルイ・ル・グラン校(LYCEE LOUIS LE GRAND)では、人文科学系及び自然科学系普通バカロレア(BAC L/S)に向けた課程は設定されているが、社会科学系普通バカロレア(BAC ES)に向けた課程は設定されていないので、社会科学系普通バカロレアを志望する場合には、別の学校を選択するということになる。また、技術バカロレアのコースのみが設置されているリセや、自然科学系普通バカロレア(BAC S)取得に向けた課程と工業系技術バカロレア(BAC STI)取得に向けた課程の併設されているリセもある。

以下は、パリの学生街として知られ、ソルボンヌ大学等が位置するカルチエラタンのある五区にある五校のリセ(普通及び技術リセ)に設置されている課程の状況であるが、それぞれのリセにより設定されているバカロレア別コースが異なり、それに合わせて選択できる第一外国語や必修科目などが大きく異なっていることがわかる。

表5-5：パリ市五区にあるリセ（普通及び技術リセ）のバカロレア取得に向けた課程の状況

学校名	バカロレア	外国語 I	理科系必修科目	選択必修科目	選択科目
ジャック・モノ校 (JACQUES MONOD)	医療系技術バカロレア	ドイツ語 英語	生物・地学 または医療系技術	(第二外国語) ドイツ語・英語 生命科学 医療周辺領域	
ルカ・ドウ・ヌオウ校 (LUCAS DE NEHOU)	工業系技術バカロレア (土木工学)	ドイツ語 英語	機械原理	ドイツ語 スペイン語 製造技術 製造技術(土木工学機械) 機械原理	
アンリ四世校 (HENRI IV)	人文科学系普通バカロレア (数学, 外国語 または地域言語, 古典言語) 社会科学系普通バカロレア (応用数学) 自然科学系普通バカロレア (生物地学, 数学, 物理化学)	ドイツ語 英語 ロシア語	生物・地学	ドイツ語 英語 スペイン語 イタリア語 ロシア語 古代ギリシャ語 古代ギリシャ語基礎 ラテン語 経済・社会科学	造形芸術 音楽
ルイ・ル・グラン校 (LOUIS LE GRAND)	人文科学系普通バカロレア (数学, 古典言語) 自然科学系普通バカロレア (生物地学, 数学, 物理化学)	ドイツ語 英語	生物・地学	ドイツ語 英語 アラビア語 スペイン語 現代ヘブライ語 ロシア語 ベトナム語 古代ギリシャ語 古代ギリシャ語基礎 ラテン語 経済・社会科学	
ラボワジェ校 (LAVOISIER)	人文科学系普通バカロレア (数学, 外国語 または地域言語, 古典言語) 自然科学系普通バカロレア (生物地学, 数学, 物理化学)	ドイツ語 英語	生物・地学	ドイツ語 英語 スペイン語 ロシア語 (第三外国語) スペイン語 古代ギリシャ語 ラテン語 経済・社会科学	造形芸術

(3) バカロレアの種類とその全体概要

バカロレアには、大きく分類して以下のような「普通バカロレア」「技術バカロレア」「職業バカロレア」と三つの種類がある。

表 5 - 6 : バカロレアの種類とその概要

		概要
普通バカロレア	Bac L (人文科学系) Bac ES (社会科学系) Bac S (自然科学系)	主に大学や専門高等教育機関など長期の高等教育機関を志望する生徒を対象としている。1997年度のバカロレア合格者のうち、55.8%が普通バカロレアの取得者である。
技術バカロレア	Bac STI (工業系) Bac STL (化学系) Bac STT (サービス産業系) Bac SMS (医療系) Bac STAE/STPA (農業系) Bac Hotellerie (ホテル業系) Bac TMD/AA (音楽・舞踏系・芸術デザイン系)	主に大学付属の職業技術教育短期大学課程(IUT)や高級技術者養成短期高等教育課程(STS)などの短期の高等教育機関を志望する生徒を対象としているが、約二割は大学へと進学している。1997年度のバカロレア合格者の28.3%を占めている。
職業バカロレア	製造業分野・サービス産業分野など細かい種類がある。	一種の職業資格と考えられており、バカロレア取得後に進学する者の比率は低い。1997年度のバカロレア合格者の15.9%。

中等教育の修了資格という点では、どれも同じこれらのバカロレアであるが、実際の高等教育進学率は、取得したバカロレアの種類によって大きく異なっている。

普通バカロレアを取得した生徒は、その大部分(1997/98年度には98.4%)がバカロレア取得後に高等教育機関に進学している。その進学先は67.2%が大学となっており、課程修了後に専門高等教育機関へ進学することになるグランゼコール準備課程(CPGE)と合計すると、約80%が長期の高等教育課程へ進んでいることになる。

技術バカロレアを取得した生徒も、約80%がバカロレア取得後に高等教育機関に進学している。しかし、普通バカロレアを取得した生徒とは異なり、その進学先は約半数(45.8%)がリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)となっており、同じく二年間の大学付属職業技術短期大学課程(いうT)と合わせて約60%が短期の高等教育課程へと進学していることになる。また、大学等における第一課程学位(DEUG)の取得状況をみると、技術バカロレア取得者の中退率(第一課程学位未取得率)は普通バカロレア取得者と比べ高くなっており、技術バカロレアは短期の高等教育に対応したものとができる。

一方、職業バカロレアを取得した生徒の進学率をみると、大学等の長期課程には約6%、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)を中心として短期の高等教育課程に10%

弱となっている。また、その進学率は1985年の職業バカロレア制度創設以来あまり上昇していない。その理由として、元来職業バカロレア制度自体が大学等の高等教育機関への進学資格でありながら、主に一種の職業資格として認識されていることなど、必ずしも従来の普通及び技術バカロレアとは同様の進学資格ではないと考えられることが多い。さらに現実的には職業バカロレア取得のために職業リセにおいて行われる学習と、大学第一課程における理論的学問的な学問との乖離が激しいことが挙げられている。また、教育学術省が進路決定期にある生徒を対象に出している資料によれば、「職業バカロレアを取得した生徒で大学に進学した生徒の多くは、最初の一年間で大部分が学業についていけずに落第」するとなっており、ここでも職業バカロレアを取得した生徒が高等教育へ進むことの難しさを指摘している。

表5-7：バカロレア取得者のバカロレア種類別の進学先状況（バカロレア資格取得直後の進路）

		80/81	85/86	94/95	95/96	96/97	97/98
普通バカロレア	大学	64.8	64.4	70.1	71.6	68.5	67.2
	職業技術教育短期大学課程（IUT）	8.1	9.0	9.1	8.4	9.7	9.8
	高級技術者養成短期高等教育課程（STS）	9.6	12.7	8.3	7.3	8.0	8.4
	グランゼコール準備課程（CPGE）	12.6	14.0	11.5	12.8	13.2	13.0
	その他	-	-	7.4	7.2	7.7	N/A
技術バカロレア	大学	18.7	27.7	22.6	23.4	21.3	22.0
	職業技術教育短期大学課程（IUT）	13.2	9.8	9.3	10.1	10.5	10.2
	高級技術者養成短期高等教育課程（STS）	22.3	31.2	45.0	44.7	46.3	45.8
	グランゼコール準備課程（CPGE）	1.0	1.0	0.9	0.9	1.0	0.9
	その他	-	-	3.4	3.2	3.2	N/A
職業バカロレア	大学	-	-	5.8	5.8	5.9	N/A
	職業技術教育短期大学課程（IUT）	-	-	0.8	0.9	0.8	N/A
	高級技術者養成短期高等教育課程（STS）	-	-	8.0	8.5	8.8	N/A
	グランゼコール準備課程（CPGE）	-	-	0	0	0	N/A
	その他	-	-	0.5	0.5	0.4	N/A
合計平均	大学	-	-	48.6	49.3	45.2	44.8
	職業技術教育短期大学課程（IUT）	-	-	8.1	7.9	8.5	8.5
	高級技術者養成短期高等教育課程（STS）	-	-	18.4	18.0	19.0	19.0
	グランゼコール準備課程（CPGE）	-	-	7.1	7.8	7.6	7.5
	その他	-	-	5.4	5.2	7.8	N/A

1997年のバカロレア試験の実施状況によれば、フランス全土で623,467人が受験し、481,798人がバカロレア資格取得者（バシエリエ、BACHELIER）となっており、すべての

バカロレア試験を通じての合格率は77.3%となっている。バカロレア試験種別の受験者数及び合格者数は以下のようにになっている。

表5-8：バカロレア試験種類別実施状況（1997年）

		受験者数	合格者数	合格率
普通バカロレア	Bac L（人文科学系）	91,113	69,939	76.8%
	Bac ES（社会科学系）	96,898	73,982	76.4%
	Bac S（自然科学系）	163,092	124,947	76.6%
	普通バカロレア計	351,103	268,868	76.6%
技術バカロレア	Bac STI（工業系）	47,435	34,107	71.9%
	Bac STL（化学系）	7,348	5,656	77.0%
	Bac STT（サービス産業系）	89,534	72,322	80.8%
	Bac SMS（医療系）	20,600	15,935	77.4%
	Bac STAE/STPA（農業系）	5,486	4,004	73.0%
	Bac Hotellerie（ホテル業系）	3,073	2,574	83.8%
	Bac TMD/AA（音楽舞踏系・芸術デザイン系）	1,922	1,606	83.6%
技術バカロレア計	175,398	136,204	77.7%	
職業バカロレア	第二次産業分野計	40,335	30,014	74.4%
	第三次産業分野計	56,631	46,712	82.5%
	職業バカロレア計	96,966	76,726	79.1%
全体合計		623,467	481,798	77.3%

1997年にバカロレア試験を受験した世代の同一年齢層におけるバカロレア資格取得者比率は、61.5%となり、1985年の29.4%と比較して二倍以上の比率となっている。このことは、毎年バカロレア試験の結果発表時期になると「バカロレア取得者のレベルが低下している」という批判が繰り返されることにつながっている。このような批判に対して、フランス教育学術省では「バカロレア試験の合格率の向上は、バカロレア取得者のレベルの低下を示すものではなく、フランス教育の輝かしい成果である。」と反論している。しかし、そのような反論にも関わらず、相対的にバカロレアの価値の低下につながっていることは明らかである。

バカロレア制度は、広く高等教育を受けることができる優秀な人材を選抜することを目的とした選抜試験制度であり、世代に占めるバカロレア資格取得者が三割以下であった1985年においては充分その機能を果たしていたものと思われる。しかしながら、一世代の過半数がバカロレア資格取得者となっていることや、職業バカロレア制度の創設などがなされた現在では、その選抜試験的な性格から資格試験的な性格に変容してきているものということができる。

三. バカロレア種類別の概要

1 普通バカロレア

普通バカロレア取得者のバカロレア取得後の進学状況は以下ようになっており、ほとんど全ての生徒が何らかの高等教育機関へ進学している。中でも大学へは70%近くが進学しており、グランゼコール準備課程（CPGE）を含めた長期課程への進学率が80%を超えている。

表5-9：普通バカロレア取得者の進学状況（1997/98年度）

進学先	比率
大学	67.2%
-法律（DROIT）	8.9%
-経済・社会科学（SCIENCES ECONOMIQUES, AES）	6.9%
-文学・人文科学（LETTRES, SCIENCES HUMAINES）	25.6%
-理工・体育（SCIENCES, STAPS）	19.1%
-医療系（SANTE）	6.7%
職業技術教育短期大学課程（IUT）	9.8%
高級技術者養成短期高等教育課程（STS）	8.4%
グランゼコール準備課程（CPGE）	13.0%
その他	N/A

普通バカロレアは、大きく人文科学系の「BACCALAUREATS LITTERAIRE」、社会科学系の「BACCALAUREATS ECONOMIQUES ET SOCIAUX」と自然科学系の「BACCALAUREATS SCIENTIFIQUES」に分類されており、それぞれさらに細かいコースが設定されている。

表5-10：普通バカロレアの種類

普通バカロレア	
BAC LITTERAIRE (BAC L) (人文科学系)	ARTS (芸術) LANGUES ANCIENNES (古典言語) LANGUES VIVANTES (外国語または地域言語) MATHEMATIQUES (数学)
BAC ECONOMIQUE ET SOCIAL (BAC S) (社会科学系)	LANGUES VIVANTES (外国語または地域言語) MATHEMATIQUES (数学) SCIENCES ECONOMIQUES ET SOCIALES (経済社会科学)

BAC SCIENTIFIQUE (BAC S) (自然科学系)	BIOLOGIE-ÉCOLOGIE (生物学・生態学) MATHÉMATIQUES (数学) PHYSIQUE-CHIMIE (物理・化学) SCIENCES DE LA VIE ET DE LA TERRE (生物地学) TECHNOLOGIE INDUSTRIELLE (工業技術)
--	---

(1) 人文科学系普通バカロレア (BAC L)

人文科学系普通バカロレアの専攻コース別のバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、特に目的意識が明確と見られる古典言語コースの合格率が高くなっている。また、全般的に女子の比率が非常に高いのも特徴である。

1996/97年度試験の受験者数は91,113人で、合格者数は69,939人、全体の合格率は76.8%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は14.5%、普通バカロレア全体の合格者の26.0%となっている。

この人文科学系普通バカロレア取得後の進路は大部分が大学へとっており、約76%が大学へと進学、次いでリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)の第三次産業系の各コース(約11.8%)、グランゼコール準備課程(6.7%)などとなっている。

表5-11：人文科学系普通バカロレア (BAC L) の専攻別試験実施状況 (1997年)

	合格者数	女子比率	合格率
ARTS (芸術)	11,634	78.6%	73.5%
LANGUES ANCIENNES (古典言語)	3,407	83.7%	83.5%
LANGUES VIVANTES (外国語または地域言語)	38,235	83.1%	76.8%
MATHÉMATIQUES (数学)	16,663	81.0%	77.7%

(2) 社会科学系普通バカロレア (BAC ES)

社会科学系普通バカロレアの専攻コース別のバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、人文科学系(BAC L)と同様に女子の比率が高くなっている。

1996/97年度試験の受験者数は96,898人で、合格者数は76,982人、全体の合格率は76.4%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は15.4%、普通バカロレア全体の合格者の27.5%となっている。

この社会科学系普通バカロレア取得後の進路は、人文科学系普通バカロレア取得者よりはその比率は低いものの大部分が大学へとっており、約65%が大学へと進学、次いで大学付属職業技術教育短期大学課程(IUT)やリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)の第三次産業系の各コース(約22.6%)、グランゼコール準備課程(5.8%)などとなっている。

表 5-12 : 社会科学系普通バカロレア (BAC ES) の専攻別試験実施状況 (1997 年)

	合格者数	女子比率	合格率
LANGUES VIVANTES (外国語または地域言語)	18,797	67.2%	76.7%
MATHEMATIQUES (数学)	38,895	61.9%	78.4%
SCIENCES ECONOMIQUES ET SOCIALES (経済社会科学)	16,290	54.9%	71.6%

(3) 自然科学系普通バカロレア (BAC S)

自然科学系普通バカロレアの専攻コース別のバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、特に優秀な生徒が受験するとみられる数学コースにおける合格率が高くなっている。また、他の普通バカロレア試験と異なり、女子の比率が低くなっており、特に産業技術コースでは女子比率が一割以下となっている。

1996/97 年度試験の受験者数は 163,092 人で、合格者数は 124,947 人、全体の合格率は 76.6%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は 25.9%、普通バカロレア全体の合格者の 46.5%となっている。

この自然科学系普通バカロレア取得後の進路をみると、大学へは普通バカロレアのなかで最も低く (56.9%)、一方、グランゼコール準備課程 (CPGE, 18.3%) への進学率が高くなっている。さらに、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT, 11.3%)、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS, 6.2%) へと進学する生徒も多くなっている。

表 5-13 : 自然科学系普通バカロレア (BAC S) の専攻別試験実施状況 (1997 年)

	合格者数	女子比率	合格率
BIOLOGIE-ECOLOGIE (生物学・生態学)	1,139	31.3%	67.8%
MATHEMATIQUES (数学)	44,712	41.3%	82.7%
PHYSIQUE-CHIMIE (物理・化学)	30,581	38.1%	76.5%
SCIENCES DE LA VIE ET DE LA TERRE (生物地学)	39,678	56.9%	70.8%
TECHNOLOGIE INDUSTRIELLE (工業技術)	8,837	9.0%	78.2%

2 技術バカロレア

技術バカロレアにおける「技術」とは、日本で一般に用いられている「技術」よりもかなり広い概念となっており、単に工業的な技術のみでなく、サービス産業における事務能力やホテル業に必要な知識なども含まれる概念である。また、音楽や舞踏などの専門的な能力に関しても、バカロレア試験区分上この技術バカロレアに含まれることとなっている。

この技術バカロレアを取得した後の生徒の進路は以下のようになっており、主に大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT) やリセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)

など、短期の職業技術教育機関に進学しているが、大学や一部ではあるがグランゼコール準備課程を経て理工系などの専門高等教育機関へと進学する生徒もみられる。

表5-13：技術バカロレア取得者の進学状況（1997/98年度）

進学先	比率
大学	22.0%
-法律 (DROIT)	4.0%
-経済・社会科学 (SCIENCES ECONOMIQUES, AES)	4.1%
-文学・人文科学 (LETTRES, SCIENCES HUMAINES)	9.8%
-理工・体育 (SCIENCES, STAPS)	3.5%
-医療系 (SANTE)	0.6%
職業技術教育短期大学課程 (IUT)	10.2%
高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)	45.8%
グランゼコール準備課程 (CPGE)	0.9%
その他	N/A

技術バカロレアは、大きく以下のように分類され、またそれぞれの技術バカロレアの中でも細分化された専攻コースが設けられている。

それぞれの技術バカロレア種類別の合格者数をみると、サービス産業系 (STT) が最も多く 72,322 人となっており、次いで工業系 (STI) が 34,107 人、医療系 (SMS) が 15,935 人などとなっている。一方、合格者数が少ないのは農作物及び農業加工品製造 (STPA) で 413 人である。

表5-14：技術バカロレアの種類

技術バカロレア	
BAC STI (SCIENCES ET TECHNOLOGIES INDUSTRIELLES) (工業系)	GENIE CIVIL (土木工学) GENIE ELECTRONIQUE (電気工学) GENIE ENERGETIQUE (エネルギー工学) GENIE ELECTROTECHNIQUE (電子工学) GENIE DES MATERIAUX (材料工学) GENIE MECANIQUE (機械工学)
BAC STL (SCIENCES ET TECHNOLOGIES DE LABORATOIRE) (化学系)	BIOCHIMIE-GENIE BIOLOGIQUE (生物化学・生物工学) CHIMIE DE LABORATOIRE ET DE PROCEDES INDUSTRIELS (工業系化学) PHYSIQUE DE LABORATOIRE ET DE PROCEDES INDUSTRIELS (工業系物理)
BAC STT (SCIENCES ET TECHNOLOGIES TERTIAIRES)	ACTION ET COMMUNICATION ADMINISTRATIVES (ACA) (一般事務) ACTION ET COMMUNICATION COMMERCIALES (ACC) (商業)

(サービス産業系)	COMPTABILITE ET GESTION (CG) (簿記会計) INFORMATIQUE ET GESTION (IG) (情報・会計)
BAC SMS (SCIENCES MEDICO-SOCIALES) (医療系)	
BAC STPA BAC STAE (農業系)	STPA (SCIENCES ET TECHNOLOGIES DU PRODUIT AGROALIMENTAIRE) (農作物及び農業加工品製造) STAE (SCIENCES ET TECHNOLOGIES DE L'AGRONOMIE ET DE L'ENVIRONNEMENT) (農学・環境工学)
BAC HOTELLERIE (ホテル業系)	
Bac TMD/AA (TECHNIQUES DE LA MUSIQUE ET DE LA DANSE / ARTS APPLIQUES) (音楽舞踏・芸術デザイン系)	TECHNIQUES DE LA MUSIQUE ET DE LA DANSE (音楽舞踏) OPTION INSTRUMENT (楽器専攻) OPTION DANSE (舞踏専攻) ARTS APPLIQUES (芸術及びデザイン)

(1) 工業系技術バカロレア (BAC STI)

工業系技術バカロレアの専攻コース別のバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、全般的に女子の比率が非常に低くなっている。

1996/97年度試験の受験者数は47,435人で、合格者数は34,107人、全体の合格率は71.9%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は7.1%となっている。

この工業系技術バカロレア取得後の進路は、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程(STS)が大部分を占めており(68.8%)、次いで大学付属職業技術教育短期大学課程(IUT, 19.9%)が高く、これら二つの短期の職業技術高等教育機関に進学した生徒の約90%を占めている。また、大学へはわずか8.2%と低くなっている。

表5-15：工業系技術バカロレア (BAC STI) の専攻別試験実施状況 (1997年)

	合格者数	女子比率	合格率
GENIE CIVIL (土木工学)	2,147	11.3%	71.9%
GENIE ELECTRONIQUE (電気工学)	6,906	5.0%	73.7%
GENIE ENERGETIQUE (エネルギー工学)	625	4.8%	70.0%
GENIE ELECTROTECHNIQUE (電子工学)	11,724	3.8%	69.5%
GENIE DES MATERIAUX (材料工学)	330	8.8%	75.7%
GENIE MECANIQUE (機械工学)	12,375	6.8%	73.3%

(2) 化学系技術バカロレア (BAC STL)

化学系技術バカロレアの専攻コース別のバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、生物化学・生物工学コースでは女子の比率が高くなっているが、工業系のコース、特に工業系物理コースでは女子比率が低くなっている。

1996/97年度試験の受験者数は7,348人で、合格者数は5,656人、全体の合格率は77.0%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合はわずか1.2%となっている。

表5-16：化学系技術バカロレア (BAC STL) の専攻別試験実施状況 (1997年)

	合格者数	女子比率	合格率
BIOCHIMIE-GENIE BIOLOGIQUE (生物化学・生物工学)	3,400	62.0%	76.3%
CHIMIE DE LABORATOIRE (工業系化学)	1,369	38.8%	76.5%
PHYSIQUE DE LABORATOIRE (工業系物理)	887	19.3%	80.7%

(3) サービス産業系技術バカロレア (BAC STT)

サービス産業系技術バカロレアの専攻コース別のバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、情報・会計コースを除き、一般的に女子の比率が非常に高くなっている。

1996/97年度試験の受験者数は89,534人で、合格者数は72,322人、全体の合格率は80.8%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は15.0%となっている。

このサービス産業系技術バカロレア取得後の進路は、リセ付属高級技術者養成短期高等教育課程 (STS) が最も多く (54.5%)、次いで大学 (31.5%)、大学付属職業技術教育短期大学課程 (IUT, 11.7%) となっている。

表5-15：サービス産業系技術バカロレア (BAC STT) の専攻別試験実施状況 (1997年)

	合格者数	女子比率	合格率
ACTION ET COMMUNICATION ADMINISTRATIVES (ACA) (一般事務)	15,672	89.9%	86.0%
ACTION ET COMMUNICATION COMMERCIALES (ACC) (商業)	31,826	58.8%	81.4%
COMPTABILITE ET GESTION (CG) (簿記会計)	22,089	60.2%	76.8%
INFORMATIQUE ET GESTION (IG) (情報・会計)	2,735	42.2%	79.8%

(4) 医療系技術バカロレア (BAC SMS)

医療系技術バカロレアのバカロレア試験実施状況は以下の通りであり、ほとんどの取得者が女子となっている。

1996/97 年度試験の受験者数は 20,600 人で、合格者数は 15,935 人、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は 3.3%となっている。

このサービス産業系技術バカロレア取得後の進路としては、短期の職業技術高等教育機関の他、一部が看護婦学校等の医療周辺領域系専門高等教育機関に進学している。

表 5-16 : 医療系技術バカロレア (BAC SMS) の試験実施状況 (1997 年)

	合格者数	女子比率	合格率
医療系技術バカロレア (BAC SMS)	15,935	95.5%	77.4%

(5) 農業系技術バカロレア (BAC STPA/STAE)

農業系技術バカロレアのバカロレア試験実施状況は以下の通りである。

1996/97 年度試験の受験者数は 5,486 人で、合格者数は 4,004 人、全体の合格率は 73.0%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合はわずか 0.8%となっている。

表 5-17 : 農業系技術バカロレア (BAC STPA/STAE) のバカロレア試験実施状況 (1997 年)

	合格者数	女子比率	合格率
STPA (SCIENCES ET TECHNOLOGIES DU PRODUIT AGROALIMENTAIRE) (農作物及び農業加工品製造)	413	47.7%	67.0%
STAE (SCIENCES ET TECHNOLOGIES DE L'AGRONOMIE ET DE L'ENVIRONNEMENT) (農学・環境工学)	3,591	24.5%	73.7%

(6) ホテル業系技術バカロレア (BAC HOTELLERIE)

ホテル業系技術バカロレアのバカロレア試験実施状況は以下の通りである。

1996/97 年度試験の受験者数は 3,073 人で、合格者数は 2,574 人、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合はわずか 0.5%となっている。

このホテル業系技術バカロレア取得者の進路としては、ホテル業 (経営, 調理等) の専門高等教育機関 (ECOLE SUPERIEURE DE CUISINE FRANCAISE, フランス料理高等学院, バカロレア取得後三年間) などが挙げられる。

表 5-18 : ホテル業系技術バカロレア (BAC HOTELLERIE) の試験実施状況 (1997 年)

	合格者数	女子比率	合格率
ホテル業系技術バカロレア (BAC HOTELLERIE)	2,574	42.3%	83.8%

(7) 音楽舞踏・芸術デザイン系技術バカロレア (BAC TMD/AA)

音楽舞踏・芸術デザイン系技術バカロレアのバカロレア試験実施状況は以下の通りである。

1996/97 年度試験の受験者数は 1,922 人で、合格者数は 1,606 人、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合はわずか 0.3%となっている。

この音楽舞踏・芸術デザイン系技術バカロレア取得者の進路としては、国立の各地方音楽院や音楽学校、地方美術学校なども挙げられる。

表 5-19 : 音楽舞踏・芸術デザイン系技術バカロレアの試験実施状況 (1997 年)

	合格者数	女子比率	合格率
音楽舞踏・芸術デザイン系技術バカロレア (F10, F11, F11D, F12)	1,606	63.9%	83.6%

注： F10 は MICROTECHNIQUES, F11 は MUSIQUE, F11D(または F11') は DANSE, F12 は ARTS APPLIQUES を示す。

3 職業バカロレア

職業バカロレア制度が導入されたのは 1985 年と新しく、普通バカロレアや技術バカロレアと同様に高等教育機関への進学資格ともなっているが、一般的には従来職業リセへ進んだものが取得する職業資格 CAP/BEP より上位の職業資格であると考えられている。

職業バカロレア取得者のバカロレア取得後の進学状況は以下ようになっており、高等教育機関への進学する生徒の比率は低く、大部分の生徒が職業バカロレアを職業能力資格として就職している。また、大学等への進学者についても、入学後に学業についていくことができずに第一課程を修了せずに退学していく学生が多いことが指摘されている。

表 5-20 : 職業バカロレア取得者の進学状況 (1997/98 年度)

進学先	比率
大学	5.9%
職業技術教育短期大学課程 (IUT)	0.8%
高級技術者養成短期高等教育課程 (STS)	8.8%
グランゼコール準備課程 (CPGE)	0%
その他	0.4%

1996/97 年度試験の受験者数は、全専攻分野合計で 96,966 人で、合格者数は 76,726 人、全体の合格率は 79.1%となっている。また、合格者数のバカロレア試験全体の合格者数に占める割合は 15.9%となっている。専攻分野別では、第二次産業分野では女子比率が 8.2%と極めて少なくなっており、一方、第三次産業分野では 71.0%と高くなっている。

合格者の最も多い専攻分野は、簿記会計事務（BUREAUTIQUE OPTION COMPTABILITE）で 15,622 人、次いで秘書事務（BUREAUTIQUE OPTION SECRETARIAT）で 13,778 人となっている。

表 5-21：職業バカロレアの試験実施状況（1997 年）

	合格者数	女子比率	合格率
第二次産業分野 (DOMAINE DE LA PRODUCTION)	30,014	8.2%	74.4%
第三次産業分野 (DOMAINE DES SERVICES)	46,712	71.0%	82.5%

この職業バカロレア資格取得のためにおかれている高等学校を「職業リセ」と呼び、一般の「リセ（普通及び技術リセ）」と区別している。職業リセは、リセ卒業後に就職を希望する生徒を対象に、普通教科と職業教科をあわせて学ぶ課程であり、修業年限は二年となっている。卒業時には、「職業適任証」（CAP, CERTIFICAT D'APTITUDE PROFESSIONNELLE）あるいは「職業教育修了証」（BEP, BREVET D'ETUDES PROFESSIONNELLES）という資格を取得する。CAP 取得課程では、非常に特化された専門的な領域についての学習を行うこととされており、これに対して、BEP 取得課程では（CAP に比べて）幅広く普通科目も履修することとされている。（BEP 取得者の 37%が職業バカロレアを取得し、さらに 18%が技術バカロレアを取得している。）

また、二年間の課程修了後に、さらに上位の資格を取得することを希望する生徒のために二年間の専攻課程（職業バカロレア取得課程）を設置している。この専攻課程修了後（合計四年間）に、職業バカロレアの試験を受けることができるようになるのである。この専攻課程には、1997/98 年に第一学年に 69,000 名が、第二学年に 61,000 名が在籍している。

参考文献

出版物

- 「LE SYSTEME EDUCATIF - CAHIERS FRANCAIS」 LA DOCUMENTATION FRANCAISE (1998年3/4月)
- 「REPERES & REFERENCES STATISTIQUES」 MINISTERE DE L'EDUCATION NATIONALE, DE LA RECHERCHE ET DE LA TECHNOLOGIE, MENRT (1997年)
- 「LE SYSTEME EDUCATIF DE LA FRANCE」 MENRT (1997年)
- 「GEOGRAPHIE DE L'ECOLE」 MENRT (1998年6月)
- 「LE SYSTEME D'ENSEIGNEMENT SUPERIEURE FRANCAIS」 MENRT* (1996年11月)
- 「GENERAL ORGANIZATION OF HIGHER EDUCATION IN FRANCE / ORGANISATION GENERALE DE L'ENSEIGNEMENT SUPERIEURE EN FRANCE」 MENRT* (1996/1997年)
- 「LES FORMATIONS UNIVERSITAIRES SCIENCES ET TECHNOLOGIES」 MENRT* (1996/1997年)
- 「NOTE D'INFORMATION (97-47/48/49/50, 98-03/20/21/22)」 MENRT*/MENRT
- 「LES FORMATIONS DE SANTE DANS LES UNIVERSITES」 MENRT* (1996/1997年)
- 「LES INSTITUTS UNIVERSITAIRES PROFESSIONNELEES」 MENRT* (1996/1997年)
- 「ENSEIGNEMENT SUPERIEURE」 MENRT* (1996/1997年)
- 「LES ETUDES EN SCIENCES HUMAINES ET SOCIALES」 MENRT* (1996年)
- 「LES INSTITUTS UNIVERSITAIRES DE TECHNOLOGIE」 MENRT* (1996/1997年)
- 「APRES LE BAC, REUSSIR SES ETUDES」 OFFICE NATIONAL D'INFORMATION SUR LES ENSEIGNEMENTS ET LES PROFESSIONS, ONISEP (1998年1月) (ONISEPは教育學術省の機関)
- 「ETUDES SCIENTIFIQUES」 ONISEP (1997年11月)
- 「LE GUIDE DU CP AU BAC - SPECIAL PARENTS」 ONISEP (1997年9月)
- 「ONISEP AVENIRS - LES ENSEIGNANTS」 ONISEP (1995年1月)

- 「ONISEP MEMENTO DU PROFESSEUR PRONCIPAL DE TERMINALE」 ONISEP (1997年11月)
- 「ONISEP MEMENTO DU PROFESSEUR PRONCIPAL DE TROISIEME」 ONISEP (1997年10月)
- 「ONISEP MINI GUIDE 1996 - 1997, APRES LA 3EME ACADEMIE DE PARIS」 ONISEP (1997年2月)
- 「ONISEP MINI GUIDE RENTREE 1997, APRES LA 5EME ACADEMIE DE PARIS」 ONISEP (1997年5月)
- 「ONISEP MINI GUIDE 1997 - 1998, APRES LE CAP OU LE BEP」 ONISEP (1998年2月)
- 「LES GUIDES DE L'ETUDIANT - BIEN CHOISIR SA CLASSE PREPARATOIRE」 L'ETUDIANT (1997年3月)
- 「LES GUIDES DE L'ETUDIANT - REUSSIR SCIENCES PO」 L'ETUDIANT (1997年3月)
- 「L'ETUDIANT - 1998 LE GUIDE DES ETUDES SUPERIEURES」 L'ETUDIANT (1998年)
- 「L'ENSEIGNEMENT TECHNIQUE 176/178」 L'ASSOCIATION FRANCAISE POUR LE DEVELOPPEMENT TECHNIQUE (1997年10月, 1998年4月)
- 「ECOLES DE COMMERCE : LE PALMARES EXCLUSIF」 CHALLENGES (1997年12月)
- 「LE GUIDE DE VOS ETUDES SUPERIEURES」 PHOSPHORE (1998年1/2/3月)
- 「ENGINEERING EDUCATION IN FRANCE」 CDEFI, CONFERENCE DES DIRECTEURS D'ECOLES ET FORMATIONNA D'INGENIEURS (1997年)
- 「IEP PARIS, ADMISSION EN PREMIERE ANNEE」 (1997年)
- 「IEP PARIS, PROCEDURE D'ADMISSION EN DEUXIERE ANNEE」 (1997年)
- 「IUFM DE CRETEIL, SE FORMER A L'IUFM DE CRETEIL」 (1997/1998年)
- 「諸外国の学校教育(欧米編)」 文部省大臣官房調査統計企画課(平成7年11月)
- 「諸外国の高等教育」 文部省大臣官房調査統計企画課(平成6年3月)
- 「事典 現代のフランス(増補版)」 大修館書店(1997年7月)

(* : この印が付されている資料の発行当時の教育学術省の正式名称は、MINISTERE DE L'EDUCATION NATIONALE DE L'ENSEIGNEMNET SUPERIEUR ET DE LA RECHERCHE。)

ホームページ

- 「www.fonction-publique.gouv.fr/foncpub.htm」 (1997年9月)
- 「cri.ensmp.fr/dep/」 (1997年9月)
- 「www.cri.ensmp.fr:80/~cefi/」 (1997年9月)
- 「cri.ensmp.fr/cge/ecoles.htm」 (1997年9月)
- 「www.polytechnique.fr」 (1997年9月)
- 「lion.ecp.fr」 (1997年9月)
- 「www.enst.fr」 (1997年9月)
- 「www.ensam.fr」 (1997年9月)
- 「www.enpe.fr」 (1997年9月)
- 「www.hec.fr」 (1997年9月)
- 「www.ens.fr」 (1997年9月)
- 「www.ens-fcl.fr」 (1997年9月)
- 「www.sciences-po.fr」 (1997年9月)
- 「www.sdv.fr/ena/」 (1997年9月)
- 「www.ehess.fr」 (1997年9月)
- 「www.worldnet.net/~serda/lycee.htm」 (1997年9月)

執筆者紹介

松坂 浩史 文部省高等教育局私学部私学行政課法規係長



フランス高等教育制度の概要
—多様な高等教育機関とその課程—
(高等教育研究叢書59)

1999(平成11)年11月30日 発行

著者 松坂 浩史
発行所 広島大学大学教育研究センター
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
電話(0824)24-6240
印刷所 株式会社 タカトープ rintメディア
〒730-0052 広島市中区千田町3丁目2-30
電話(082)244-1110(代表)

ISBN 4-938664-59-3

Organization generale de l'enseignement superieur en France

General Organization of the French Higher Education

**RESEARCH INSTITUTE FOR
HIGHER EDUCATION
HIROSHIMA UNIVERSITY**